

令和2年度 沖縄子ども調査
未就学児調査 概要版

令和3年6月1日
沖縄県子ども生活福祉部

目次

調査概要	3
第1章 保護者の働き方	17
第2章 保育所などの利用	24
第3章 新型コロナウイルスによる影響	30
第4章 子どもとの関わり	35
第5章 健康	46
第6章 ふだんの暮らしと過去の経験	57
第7章 制度の利用状況	66
自由記述 (一部抜粋)	71

調查概要

1 調査の目的

沖縄県の子どもへの貧困対策を効果的に実施する上で必要となる就学前の子ども及びその保護者の生活実態や支援ニーズ等を把握することを目的に実施しました。

2 調査実施主体

沖縄県から委託を受けて、沖縄県子ども調査事業共同体（学校法人沖縄大学、NPO法人沖縄県学童・保育支援センターの2者によるコンソーシアム）で調査を実施しました。

3 調査対象

- 1歳児（平成30年4月1日～平成31年3月31日生まれ）の保護者
- 5歳児（平成26年4月2日～平成27年4月1日生まれ）の保護者

4 調査実施期間

令和2年9月4日（金）～10月9日（金）

5 調査方法

1 歳児	市町村別人口構成比をもとに調査票配布数を算定し、沖縄県が各市町村へ住民基本台帳から配布数に相当する世帯を無作為抽出するよう依頼。その名簿をもとに郵送にて配布・回収を行いました。
5 歳児	対象年齢児の施設種別（保育所、認定こども園、幼稚園等）、市町村別の人口構成比をもとに、216施設をランダムに抽出。施設を通して対象者に調査票の配布・回収を行い、受託者に送付しました。

6 回収状況

有効回答数は、1 歳児が3318件（有効回答率41.0%）、5 歳児が3327件（有効回答率74.4%）となっています。

	配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
1 歳児	8102	3384	41.8%	3318	41.0%
5 歳児	4472	3351	74.9%	3327	74.4%

7 調査協力研究者

下記の研究者とともに企画・分析を実施しました（★筆頭研究者）

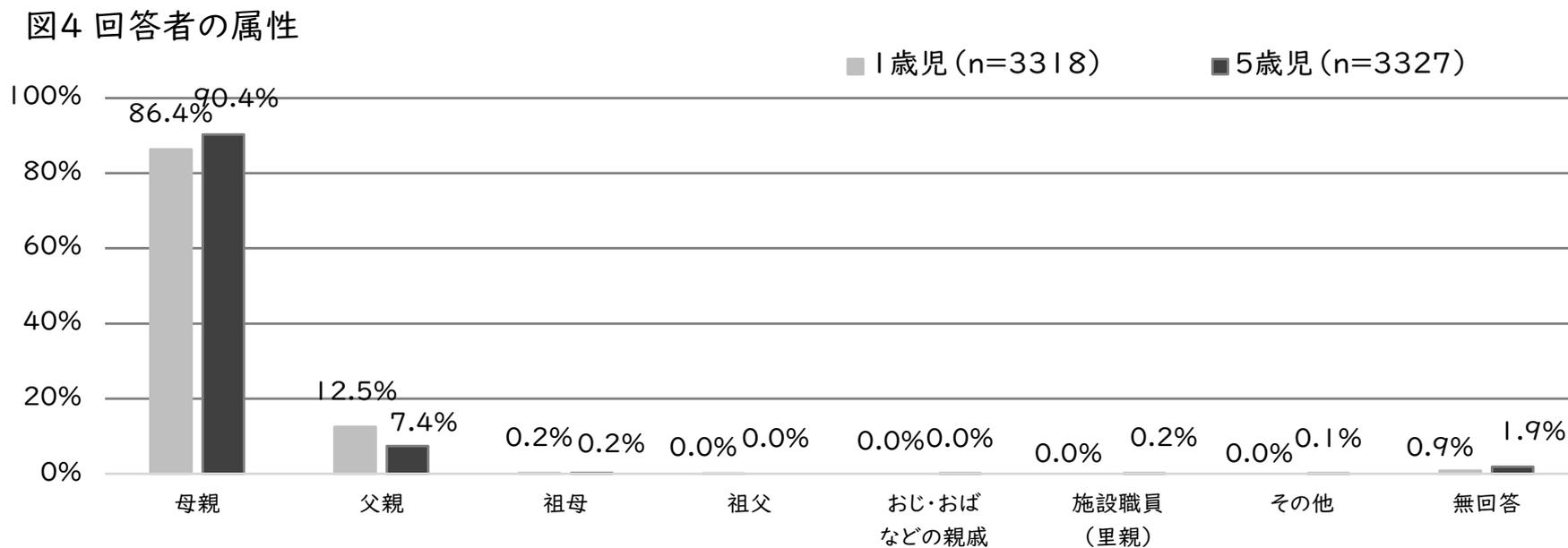
氏名	所属		執筆分担
★島村 聡	沖縄大学	人文学部 福祉文化学科	第6章（2節、5節） 第7章
★山野 良一		人文学部 福祉文化学科	第2章 第3章（2～3節） 第4章（1～2節、6節） 第6章（1節、3～4節、6～8節）
我那覇 ゆりか		健康栄養学部 管理栄養学科	第5章（6～7節）
島袋 隆志		経法商学部 経法商学科	第1章
松尾 理沙		人文学部 こども文化学科	第4章（3～5節、7～8節）
吉川 麻衣子		人文学部 福祉文化学科	第3章（1節）
武田 裕子	順天堂大学	医学部 医学教育研究室	第5章（1～5節）

8 備考

1. 図表で示している回答数の割合（％）は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、数値の合計が100.0%にならない場合があります。
2. 調査票の作成にあたり、下記調査を参考にしました。
 - ・沖縄県小児保健協会（2020）「令和元年度 乳幼児健康診査報告」
 - ・門真市（2018）「5歳児の幼児教育・保育・療育の無償化に関するアンケート調査」
 - ・博報堂生活総合研究所（2020）「第1～4回 新型コロナウイルスに関する生活者調査」
 - ・神里博武（2003）「認可外保育施設の利用者調査を通して沖縄県の保育所整備を考える―「保育に欠ける児童」把握と保育所整備の提言―」『長崎ウエスレヤン大学地域総合研究所研究紀要』1(1)
 - ・厚生労働省（2016）「地域児童福祉事業等調査」
 - ・厚生労働省（2011）「第2回21世紀出生児縦断調査（平成22年出生児）」
 - ・厚生労働省（2015）「第6回21世紀出生児縦断調査（平成22年出生児）」
 - ・厚生労働省（2015）「乳幼児栄養調査」
 - ・守口市（2019）「守口市の「幼児教育・保育の無償化」政策に関するアンケート調査結果」
3. 本報告書では、沖縄県が平成29年度に実施した未就学児調査（1歳児、5歳児対象）との経年比較も行っています。数値は、それぞれ報告書として公表されている数値を参考にしました。また、図表においては、本調査を「2020沖縄」、平成27年度の沖縄県未就学児調査を「2017沖縄」と表記しています。本文中では、それぞれ「2020年沖縄県調査」「2017年沖縄県調査」と表記しています。
4. 問1で回答者について聞いています。回答者が施設職員などの場合は、問1以降の設問については回答せずにそのまま提出してもらうよう依頼したため、問2以降の回答者総数と有効回答数が異なっています。
5. 本調査の集計にあたり、必要な図表に関しては、低所得層Ⅰ、低所得層Ⅱ、一般層の3群、またふたり親世帯とひとり親世帯の2群について、カイ二乗検定（場合によっては正確検定）の結果として、p値の大きさを参考に掲載しています（一部、保育施設の利用の有無などでも検定をしていますが、その場合は図表に注を付しています）。なお、経年比較や他調査との比較では検定は行っておらず、p値も掲載していません。

9 回答者の属性

1歳児、5歳児ともに母親の回答がもっとも多く、次いで父親となっています。



10 世帯収入

世帯収入でもっとも多かったのは、2017年沖縄県調査と同様「300～400万円未満」で、1歳児では26.2%、5歳児では22.9%となっています。

図7 【1歳児】世帯収入

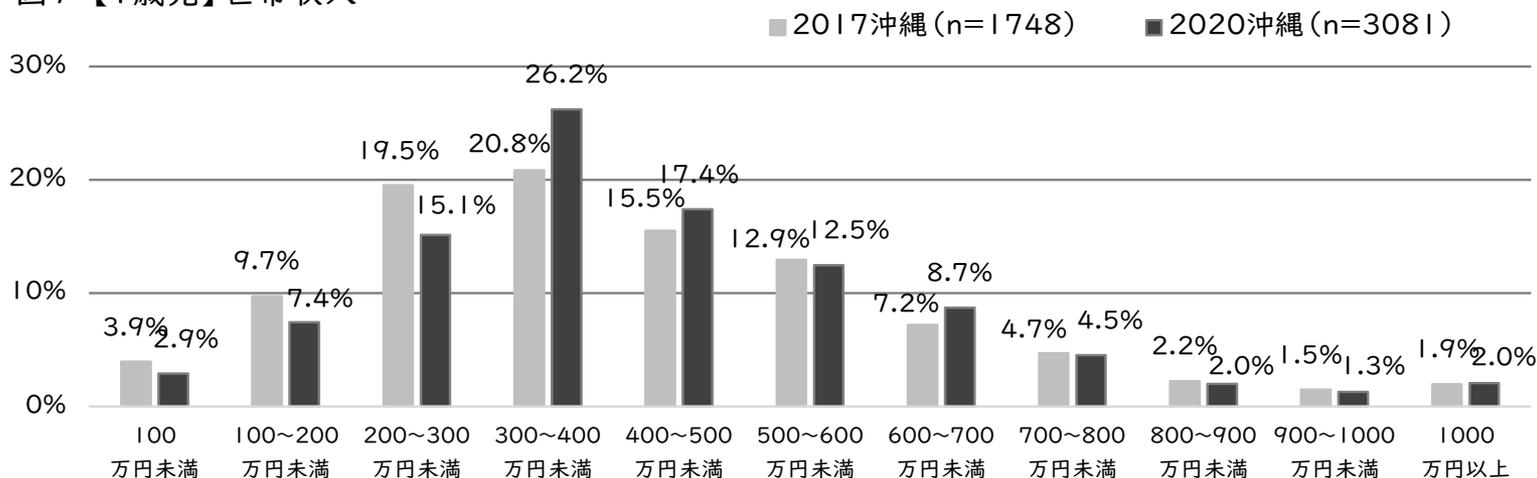
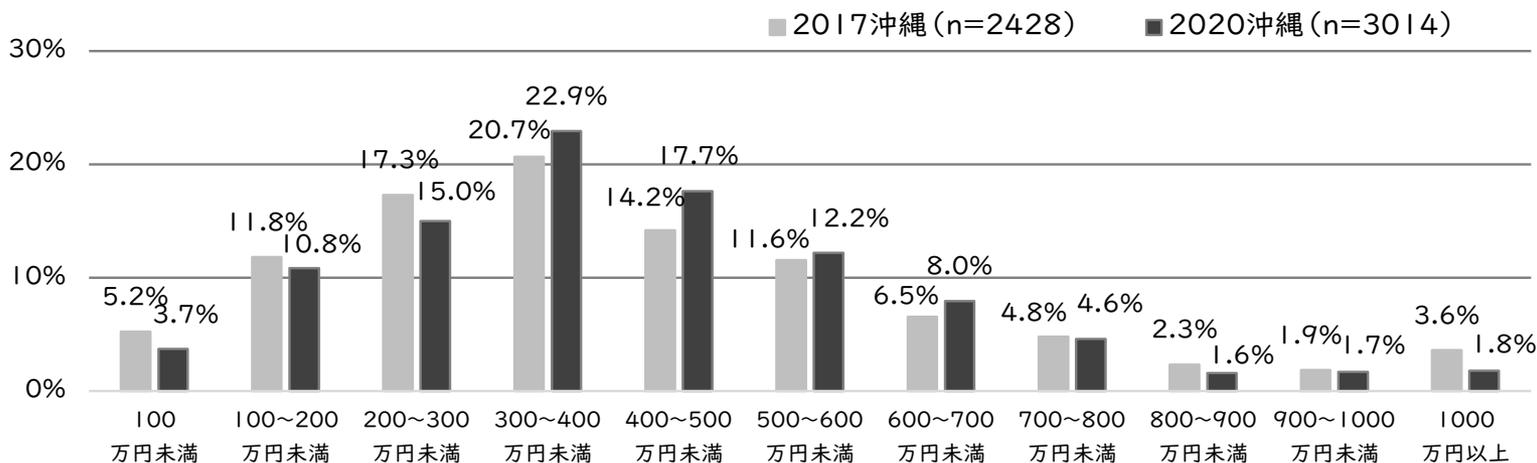


図8 【5歳児】世帯収入



11 母親の収入

経年比較すると、1歳児、5歳児ともに「100万円未満」の割合が減少し、「200～300万円未満」で約2～3ポイント上昇しています。

図9 【1歳児】母親の収入

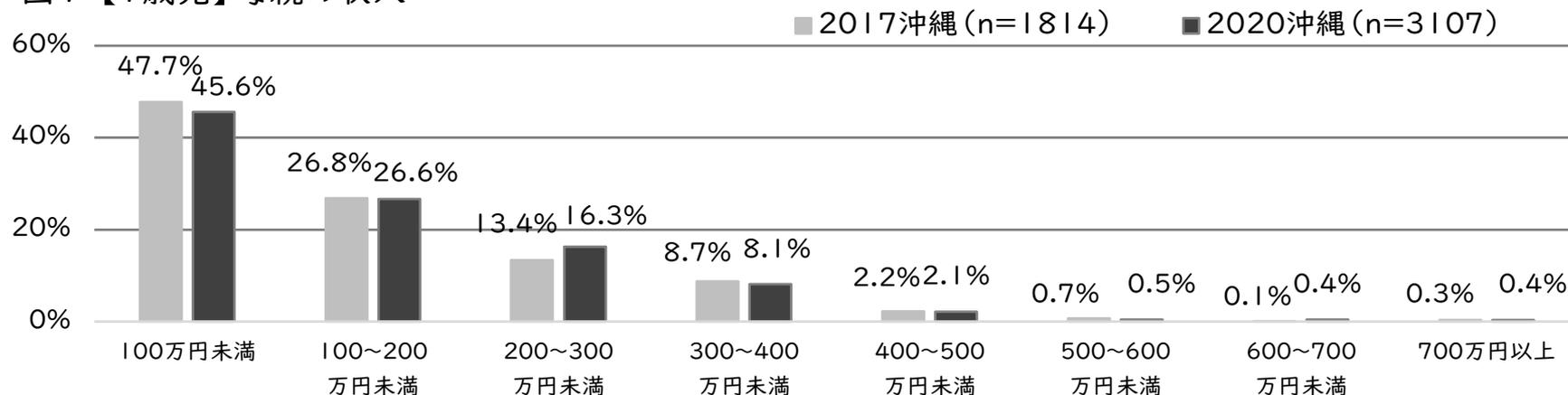
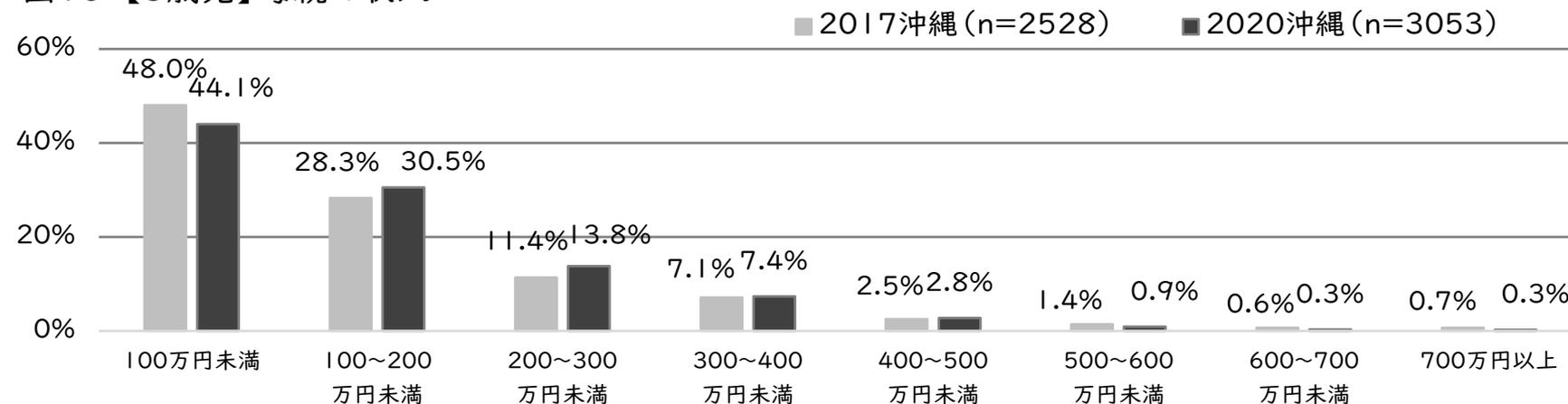


図10 【5歳児】母親の収入



12 父親の収入

経年比較すると、1歳児、5歳児ともに「100～200万円未満」で約2～4ポイント減少し、「300～400万円未満」で約3～4ポイント上昇しています。

図11 【1歳児】父親の収入

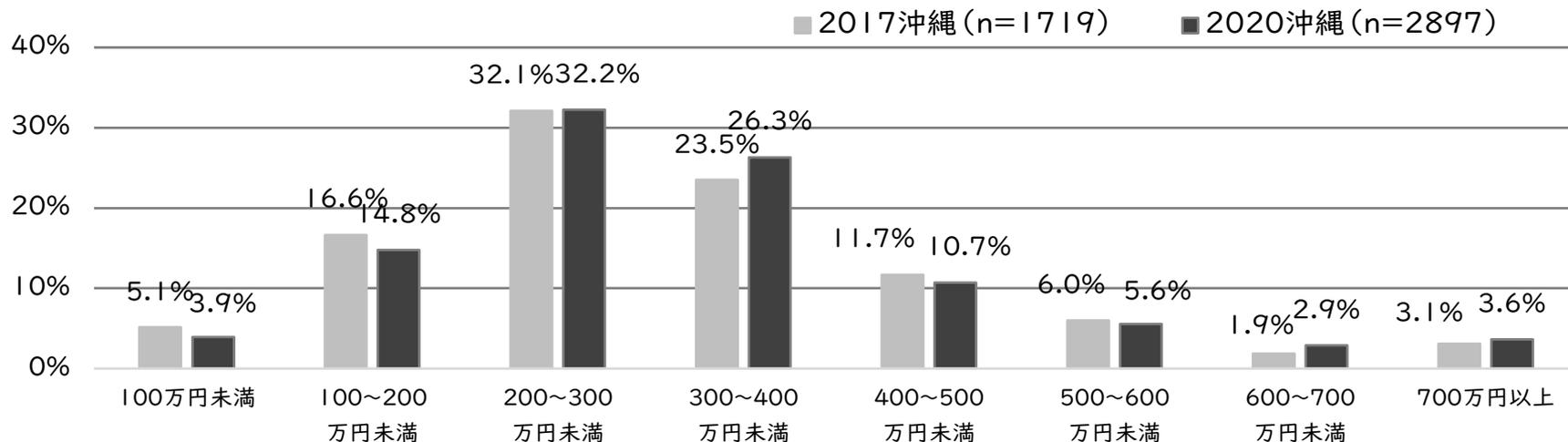
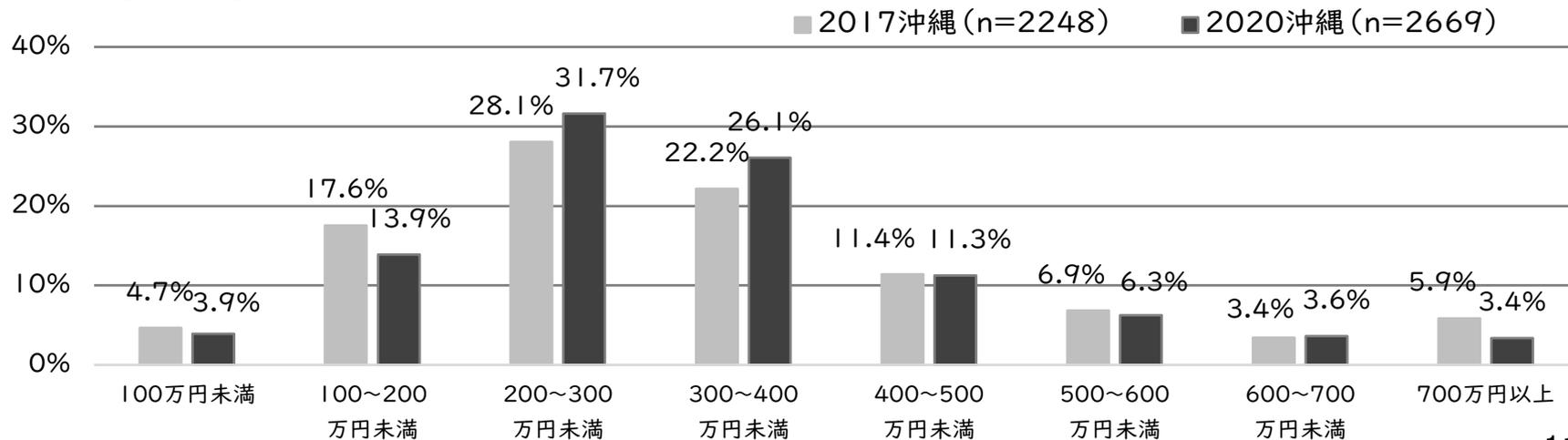


図12 【5歳児】父親の収入



13 等価可処分所得について

経済状況による影響を分析するため、調査票における世帯の人数と世帯収入（税金や社会保険料の額を差し引いた手取り収入）から等価可処分所得（世帯の可処分所得（手取り収入）を世帯人数の平方根で割った額）を算出し、世帯の困窮程度を3つの区分に分類しています。

分類にあたっては、厚生労働省の「2019年国民生活基礎調査」における貧困線を基準に区分を設けています。国民生活基礎調査では、2019年よりOECDの所得定義に基づいた新基準による貧困線も提示しており、新基準では122万円、従来の基準では127万円となります。

本調査では、2017年度に実施した沖縄県未就学児調査（2017年沖縄調査）との比較・分析を行うため、従来の基準（127万円）による貧困線をもとに困窮区分を設けることにしました。

区分の名称	貧困線をベースにした額	所得	(参考) 4人世帯の場合の年収
低所得層Ⅰ	127万円未満 (1.0倍未満)	低	年収254万円未満
低所得層Ⅱ	127万円～190.5万円未満 (1.0～1.5倍未満)		年収254万円～381万円未満
一般層	190.5万円以上 (1.5倍以上)		高

この区分をもとにそれぞれの年齢の状況を見ると（図13）、貧困線未満となる困窮層は、1歳児で18.1%、5歳児では26.0%となっています。2017年沖縄県調査（貧困線122万円）の図14と比較すると、困窮層の割合は1歳児で2.8ポイント減少し、5歳児では1.0ポイントの増加となっています。

図13 等価可処分所得による分類

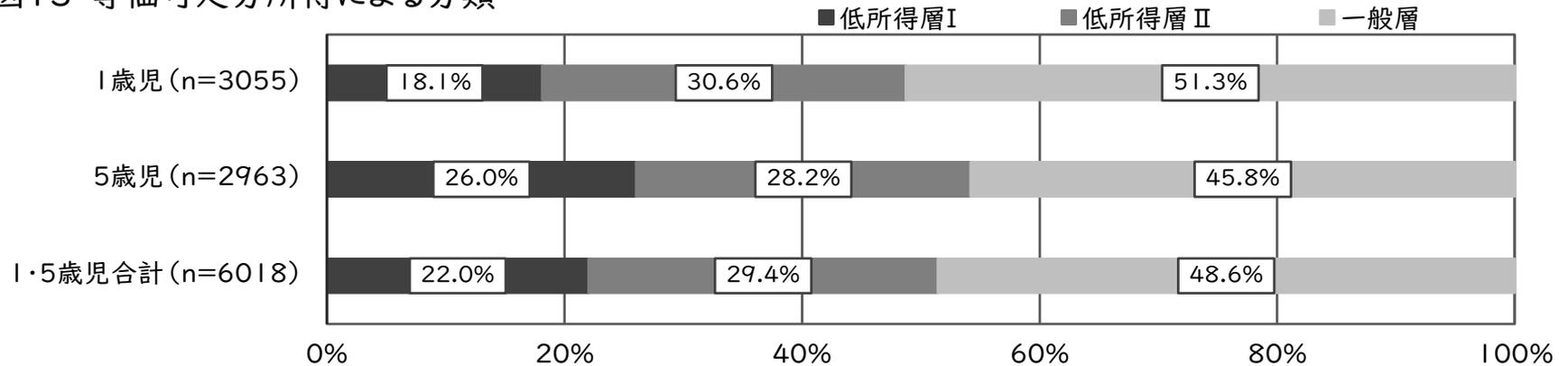
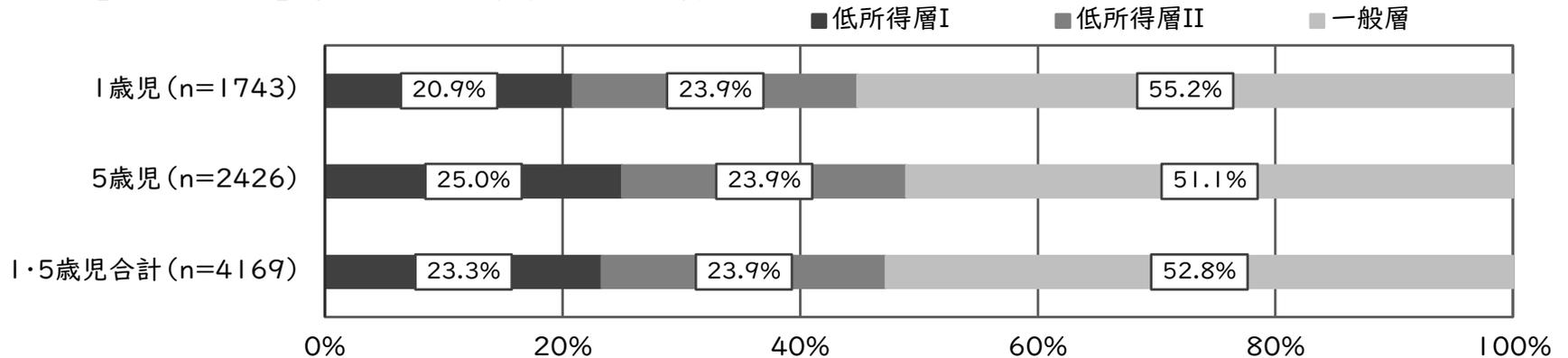


図14 【2017沖縄】等価可処分所得による分類



14 世帯の状況

本調査では、世帯区分をふたり親世帯と、ひとり親世帯である母子・父子世帯、さらに2世代（親+子ども）と3世代（親+子ども+祖父母）で区分を設けました。この区分で見ると、ふたり親世帯は、1歳児93.3%、5歳児85.2%となっています。

2017年沖縄県調査と比べると、ひとり親世帯が1歳児では5.7%から4.7%、5歳児では12.3%から11.0%とそれぞれ約1ポイント減少しています。（図15、16）

図15 【1歳児】世帯類型

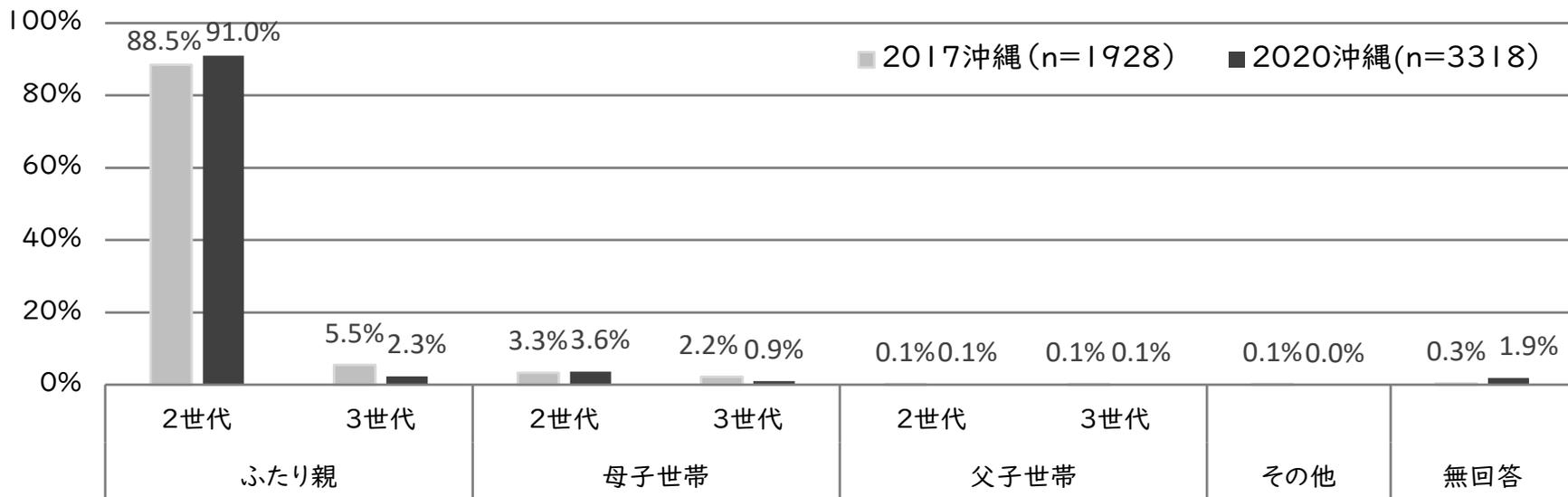


図16 【5歳児】世帯類型

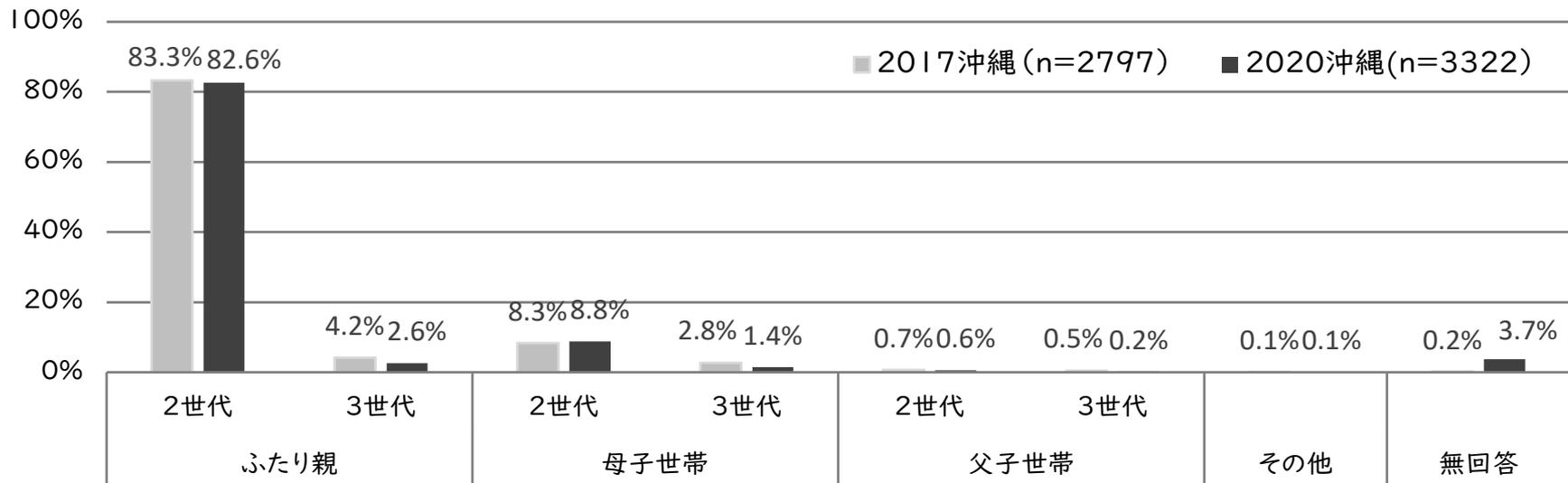


図17と図18（次頁）は、先ほどの困窮区分をもとに、ふたり親世帯とひとり親世帯（母子・父子世帯）別で経済状況を見てみたものです。2020年沖縄県調査では、1歳児、5歳児ともにひとり親世帯のほうが低所得層Ⅰの割合が高く、1歳児ではふたり親世帯で15.6% となっているのに対しひとり親世帯では67.2%、5歳児ではふたり親世帯が19.0%に対しひとり親世帯が78.7%と、それぞれひとり親世帯のほうが高くなっています。

なお、ひとり親世帯における低所得層Ⅰの割合を2017年沖縄県調査と比較すると、1歳児では4ポイント、5歳児では16.2ポイント上昇しています。

図17 【1歳児】世帯類型別にみた経済状況

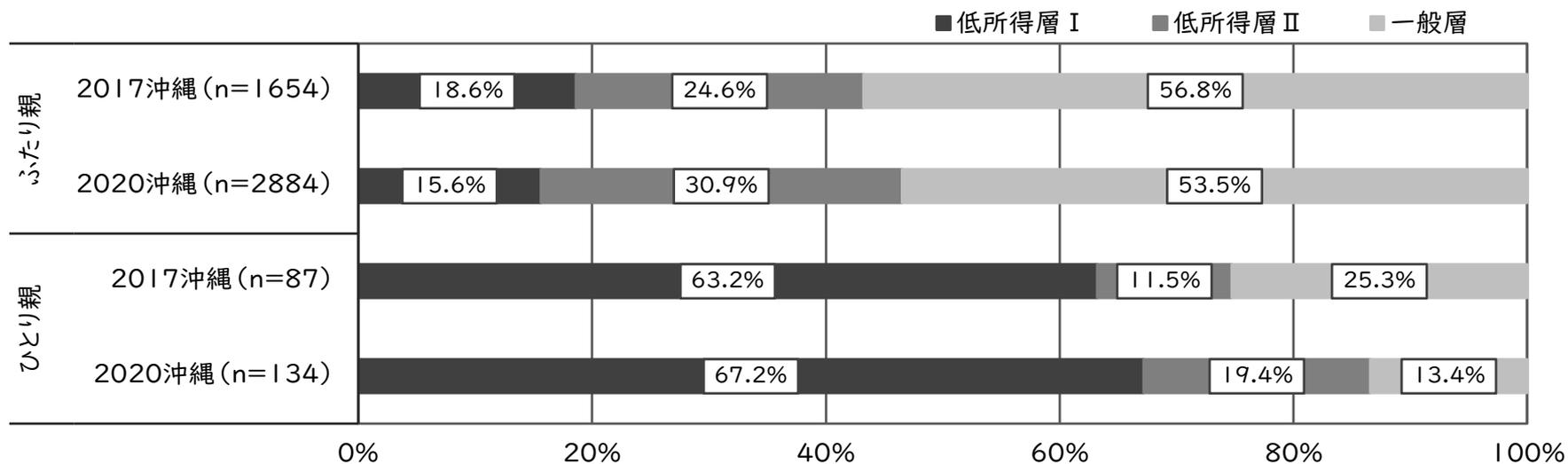
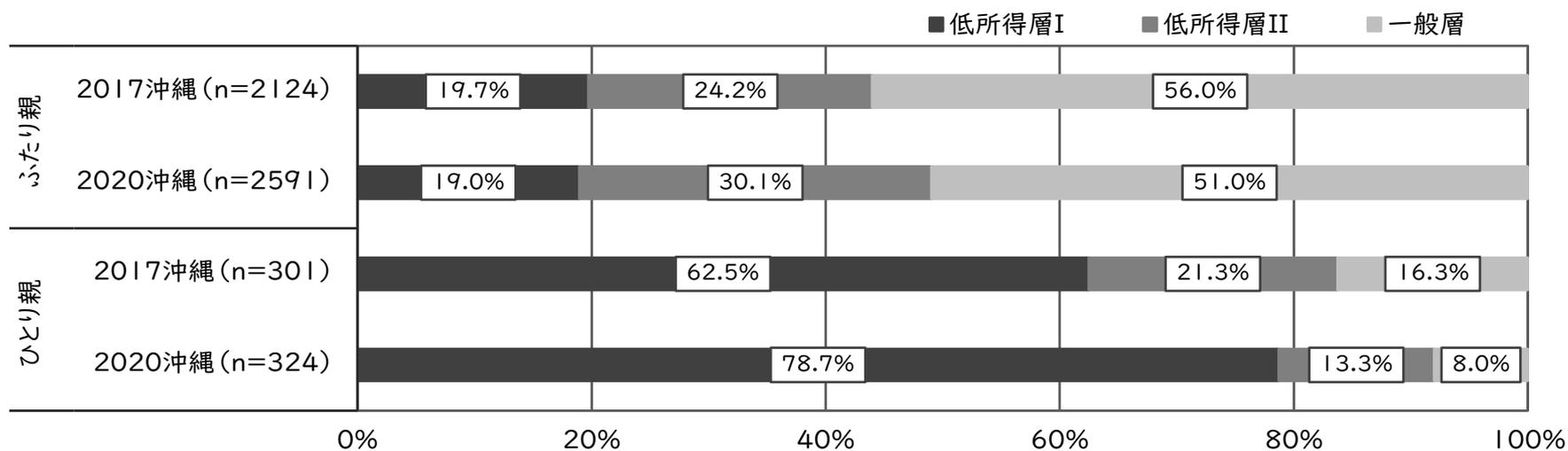


図18 【5歳児】世帯類型別にみた経済状況



第1章

保護者の働き方

1-1 母親の就労状況

1歳児でみると、「正規の職員・従業員」は一般層では57.8%であるのに対し、低所得層Iでは14.7%となっています（5歳児も同様の傾向）。

図1-1-1 【1歳児／母親】お子さんの母親の現在のお仕事の状況を教えてください

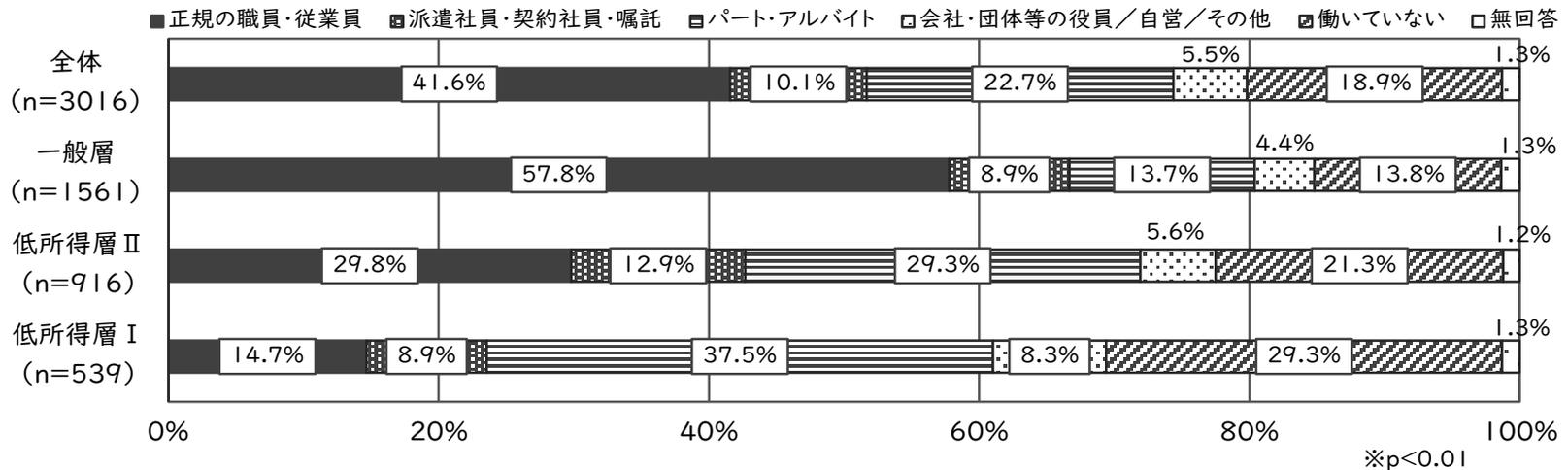
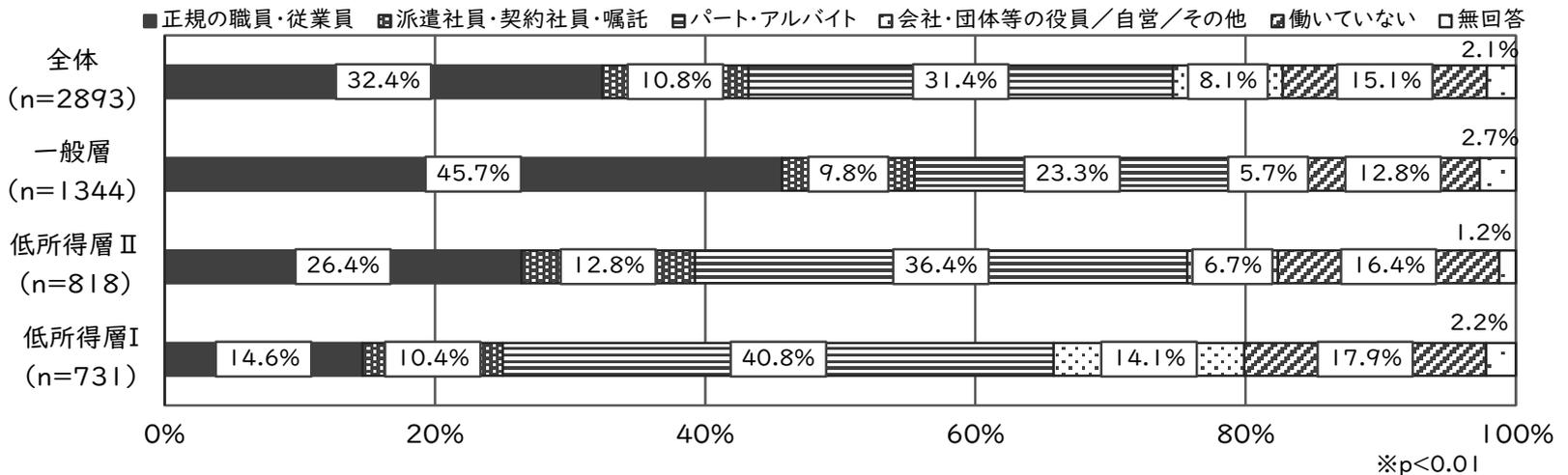


図1-1-2 【5歳児／母親】お子さんの母親の現在のお仕事の状況を教えてください



1-2 母親の就労状況（全国との比較）

末の子が1歳児または5歳児の世帯と2019年国民生活基礎調査で比較しています。母親が働いている割合は、全国に比べて、1歳児で約20ポイント、5歳児で約14ポイント高くなっています。

図1-1-3【1歳児／母親】働いている割合

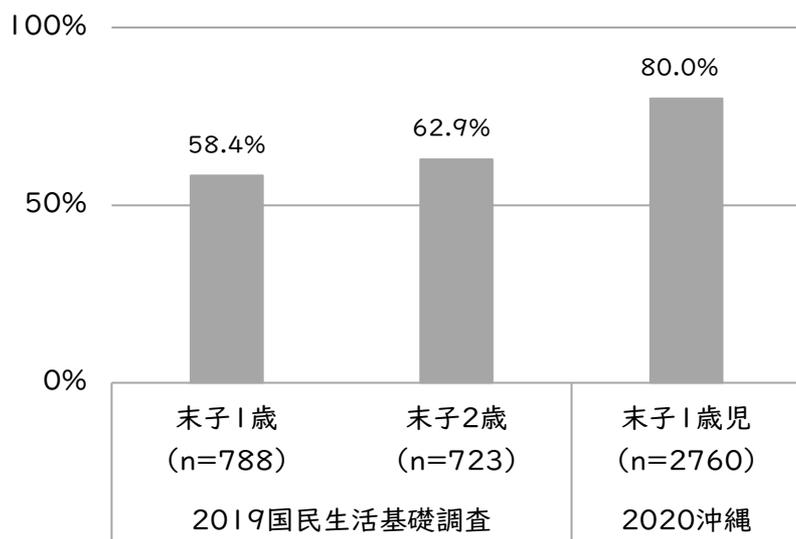
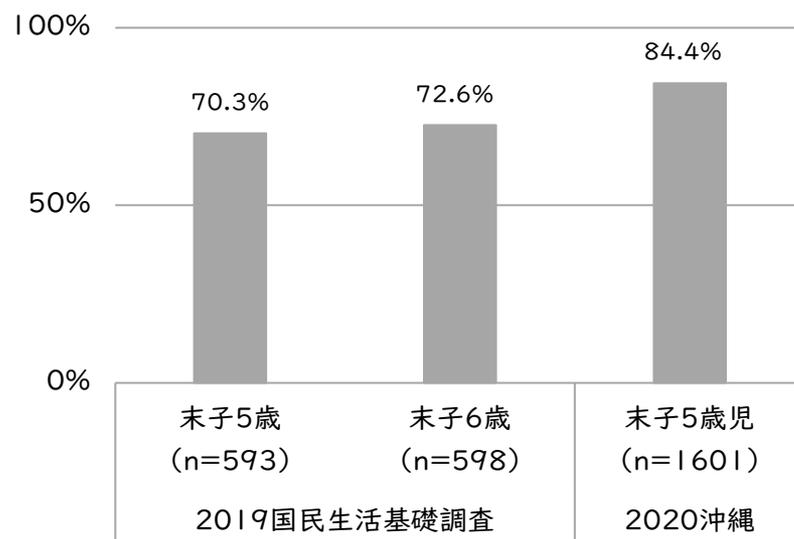


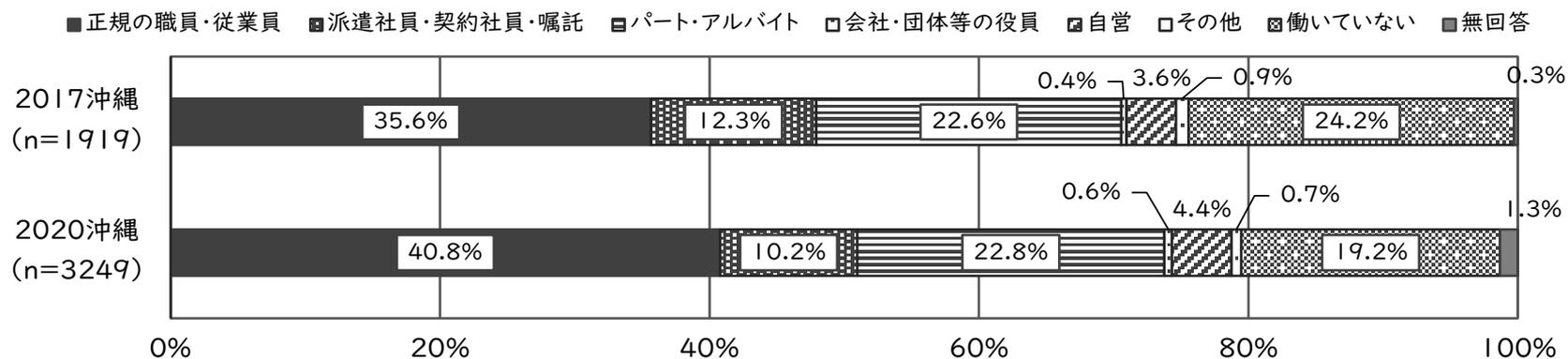
図1-1-4【5歳児／母親】働いている割合



1-3 母親の就労状況（経年比較）

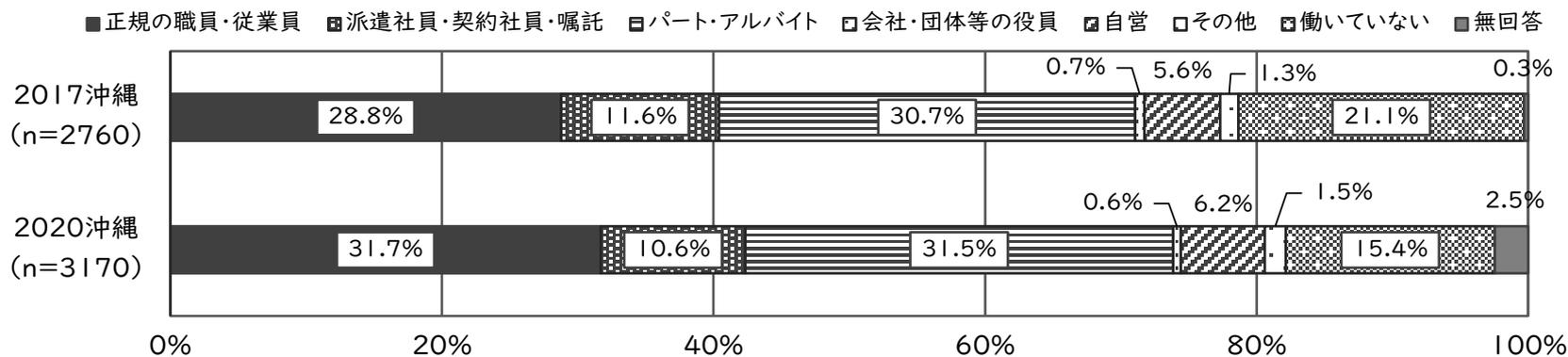
経年比較すると、1歳児、5歳児ともに、母親の「正規の職員・従業員」の割合が約3～5ポイント増加しています。

図1-1-5 【1歳児／母親】お子さんの母親の現在のお仕事の状況を教えてください



※2017年沖縄県調査の選択肢にあった「内職」は、「その他」に集約し割合を算出した

図1-1-6 【5歳児／母親】お子さんの母親の現在のお仕事の状況を教えてください

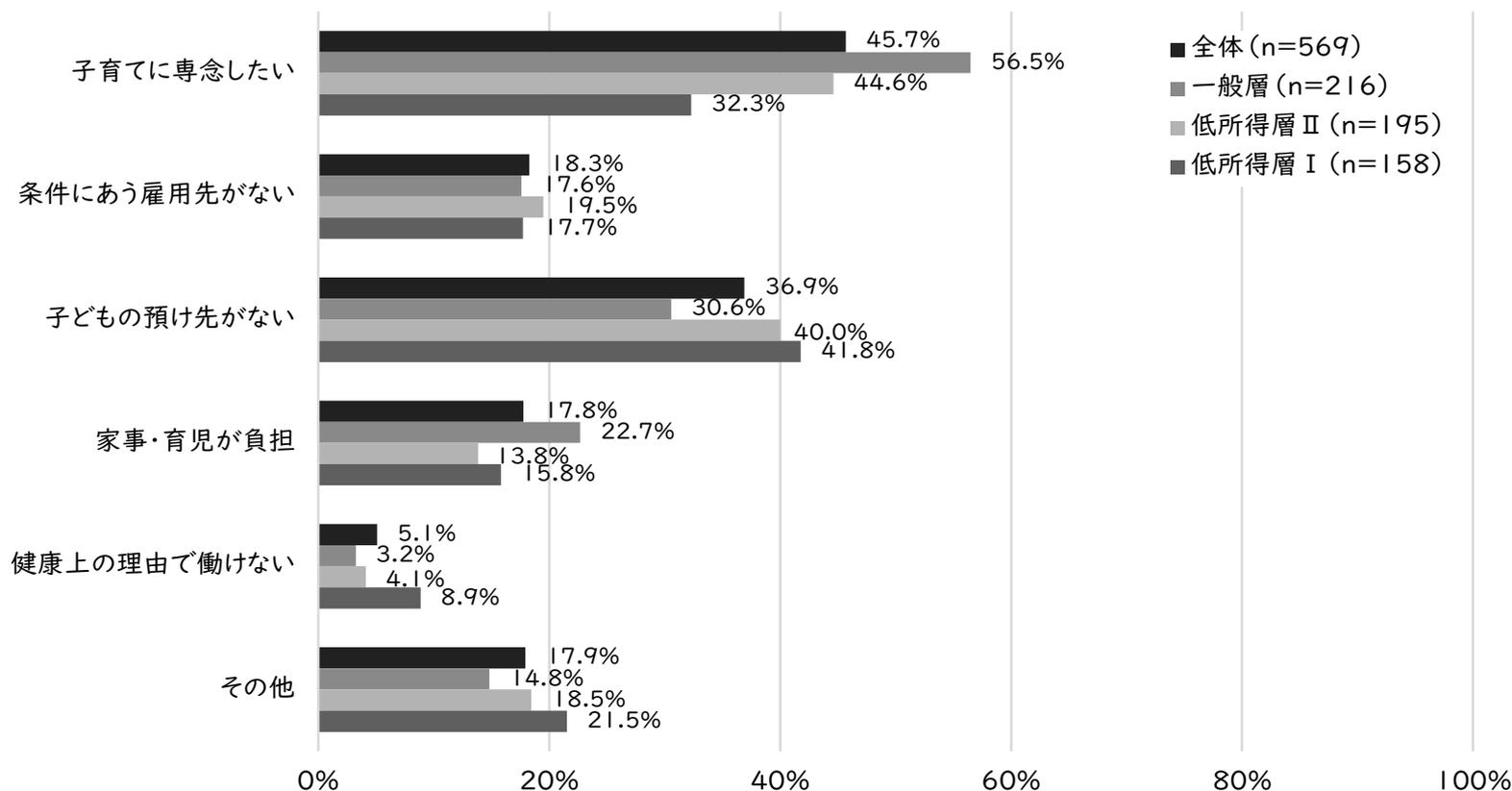


※2017年沖縄県調査の選択肢にあった「内職」は、「その他」に集約し割合を算出した

1-4 母親／働いていない理由（1歳児）

働いていないと回答した母親に、その理由を尋ねました。全体で見ると、「子育てに専念したい」が45.7%と最も多く、次いで「子どもの預け先がない」が36.9%となりました。これを経済状況別で見ると、「子育てに専念したい」は所得が低くなるほど減少し、他方、「子どもの預け先がない」は所得が低くなるほど高くなっています。

図1-3-1 【1歳児／母親】働いていない理由を教えてください（複数選択）



※「子育てに専念したい」は $p<0.01$ 、「子どもの預け先がない」「家事・育児が負担」「健康上の理由で働けない」は $p<0.05$ 、それ以外は有意差なし

1-5 父親の就労状況

父親の雇用形態は、一般層および低所得層Ⅱでは「正規の職員・従業員」が約80%であるのに対し、低所得層Ⅰでは約50%となっています。

図1-4-1 【1歳児／父親】お子さんの父親の現在のお仕事の状況を教えてください

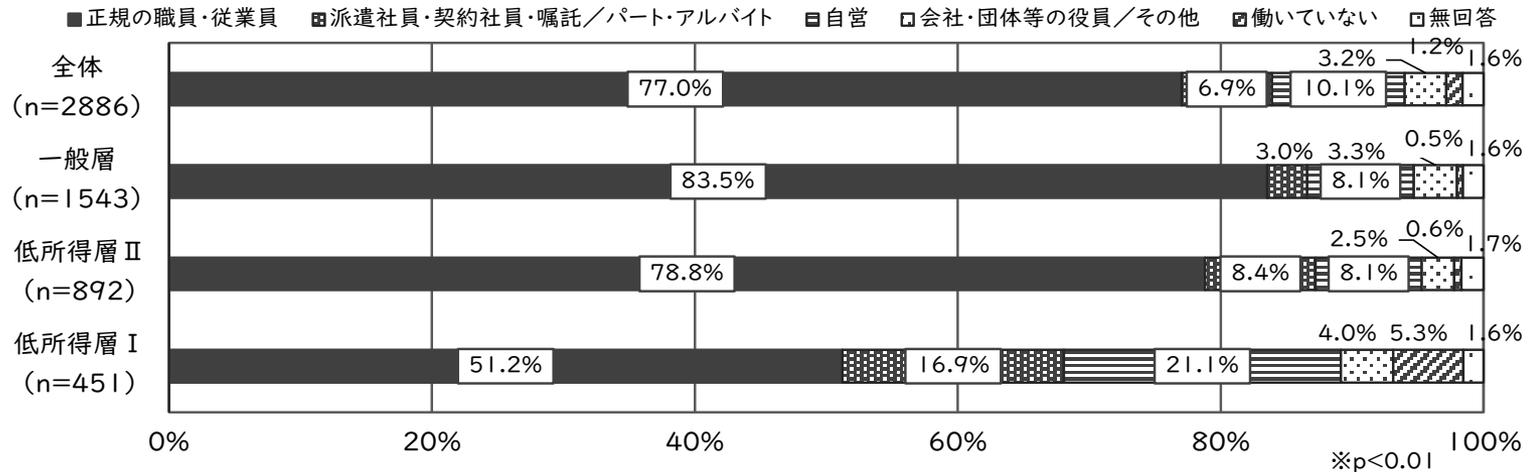
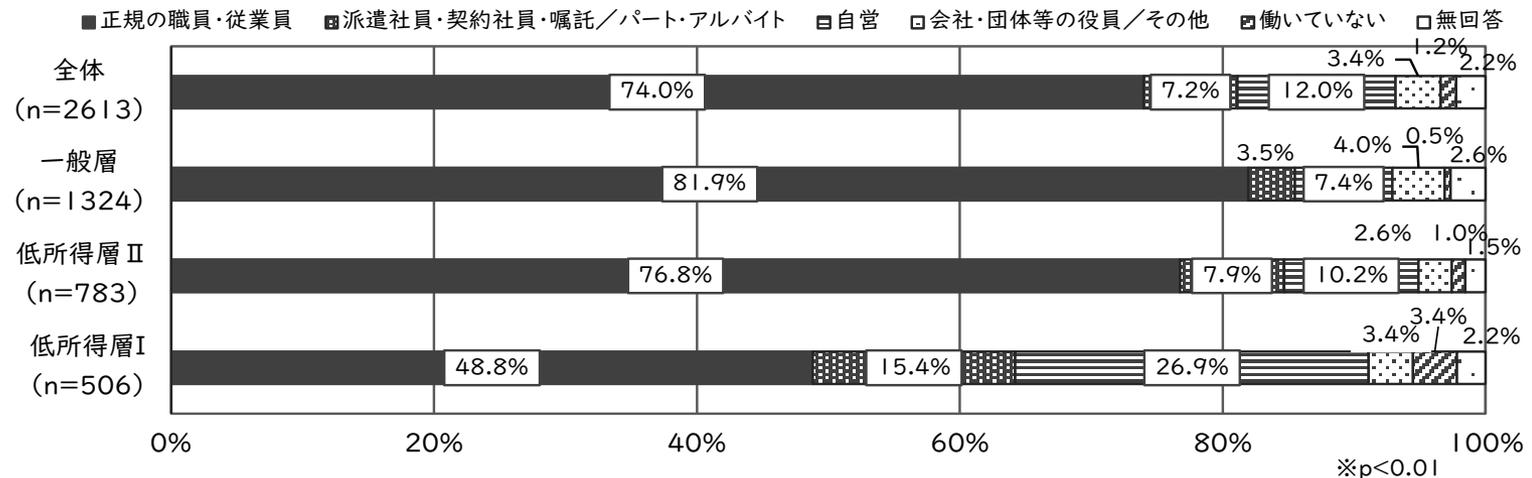


図1-4-2 【5歳児／父親】お子さんの父親の現在のお仕事の状況を教えてください



1-6 父親の労働時間

父親の1週間の平均的な労働時間をみると、所得が低いほど「50～60時間未満」「60時間以上」の割合が高く、低所得層ほど長時間働く傾向が強くなっています。

図1-5-3 【1歳児／父親】1週間の平均的な労働時間（残業時間を含む）

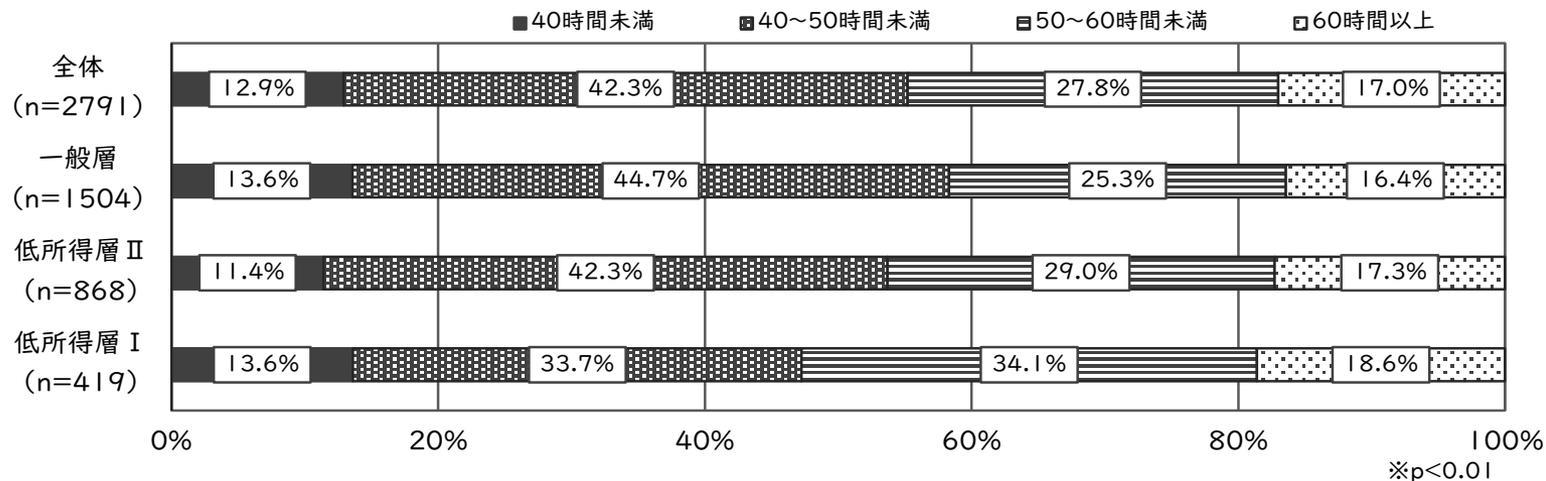
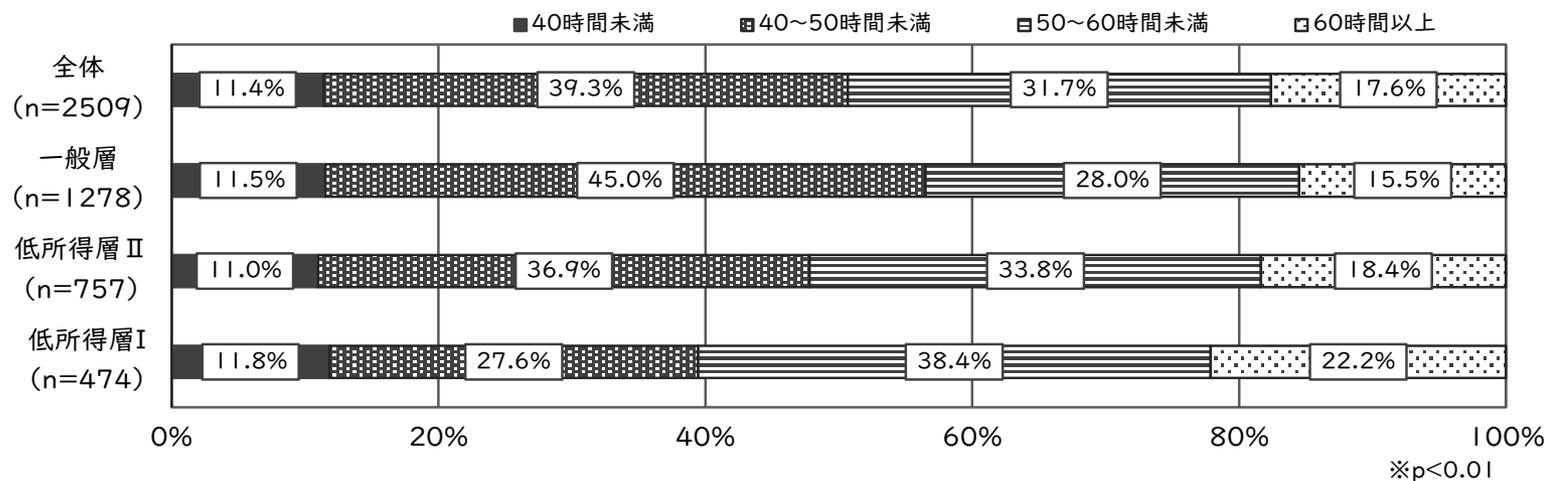


図1-5-4 【5歳児／父親】1週間の平均的な労働時間（残業時間を含む）



第2章

保育所などの利用

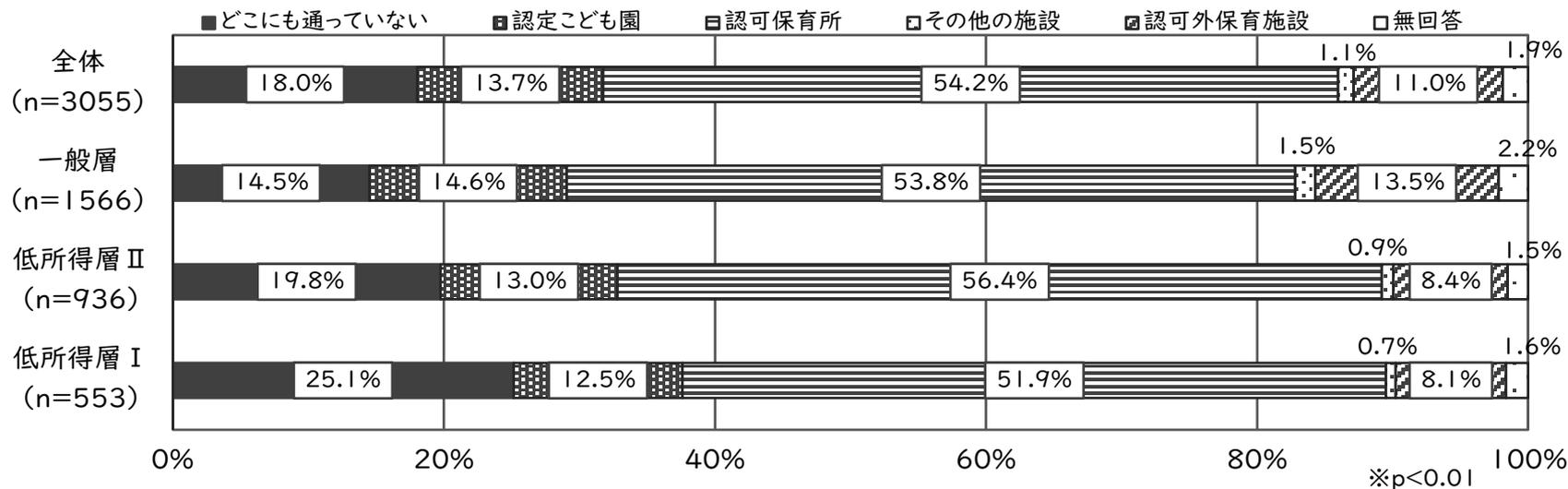
2-1 保育所などの利用状況（1歳児）

1歳児全体について「どこにも通っていない」お子さんの割合は、18.0%であり、80.0%が何らかの保育施設を利用していることがわかりました。

種別では、半分以上が「認可保育所」を利用していましたが、「認可外保育施設」を利用する場合も11.0%ありました。

経済状況別に見ると、低所得層ほど「どこにも通っていない」割合が高くなります。また、種別では「認可外保育施設」の利用割合が、一般層が他の二つの階層と比べ高いことがわかります。

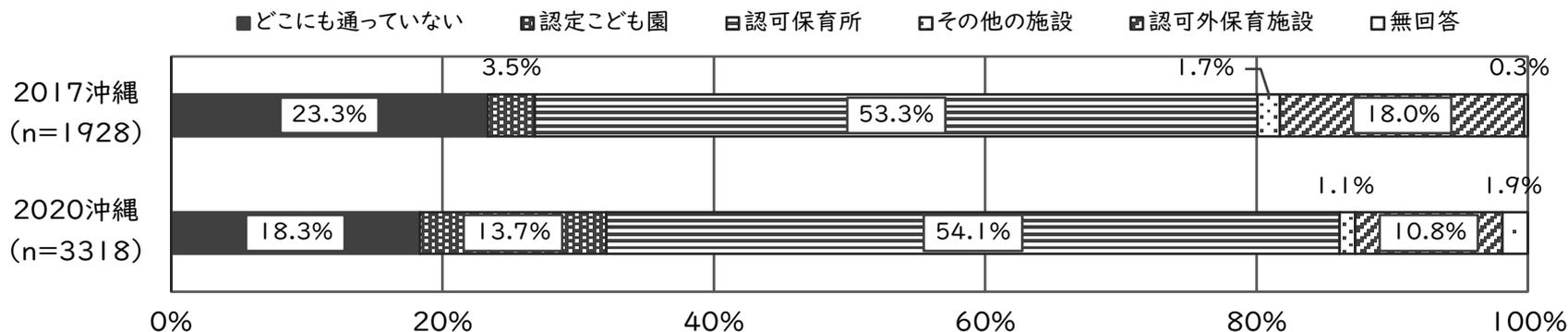
図2-1-1 【1歳児】お子さんは現在、保育所などの施設に通っていますか



2-2 保育所などの利用状況（1歳児／経年比較）

経年比較したところ、2020年沖縄県調査では「どこにも通っていない」割合が5.0ポイント減っており、何らかの保育施設を利用する割合が3.2ポイント増加していました。また、「認可保育所」の利用割合はほぼ同様の数値でしたが、「認定こども園」が10.2ポイント上昇し、「認可外保育施設」は7.2ポイント減少していました。

図2-1-7 【1歳児】お子さんは現在、保育所などの施設に通っていますか



※2017年沖縄県調査の質問は「お子さんは現在、幼稚園や保育所などの施設に通っていますか」。

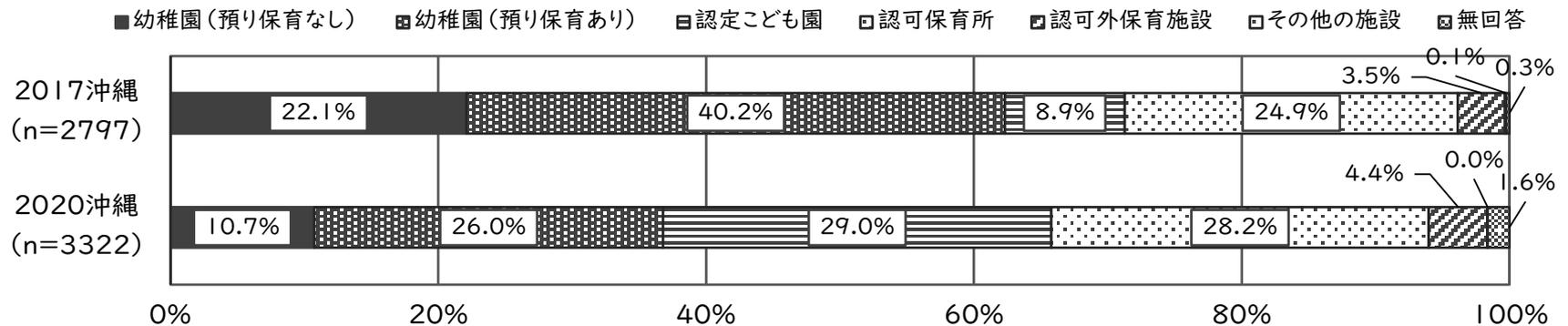
また、選択肢「幼稚園（預り保育なし）」「幼稚園（預り保育あり）」は、「その他の施設」にまとめて集計した

2-3 保育所などの利用状況（5歳児／経年比較）

経年比較でみると、2020年沖縄県調査では「幼稚園(預り保育なし)」が11.4ポイント、「幼稚園(預り保育あり)」が14.2ポイント減少しています。幼稚園全体では、25.6ポイントの減少が見られました。

一方で、「認定こども園」は20.1ポイントの上昇、「認可保育所」も3.3ポイント増えています。

図2-1-8 【5歳児】お子さんは現在、どの施設に通っていますか



※2017年沖縄県調査の質問は「お子さんは現在、幼稚園や保育所などの施設に通っていますか」。

2-4 どこにも通っていない理由（1歳児）

「どこにも通っていない」と答えた1歳児の保護者に対し、保育所などの利用を希望しているかどうかを尋ねたところ、「希望しており、すぐにでも通わせたい」とする場合は、所得が低くなるのに伴って割合が高くなっています（図2-3-1）。経年比較では、「希望しており、すぐにでも通わせたい」の割合が、34.7%から27.1%に減っています（図2-3-3）。

図2-3-1 【1歳児】現在、保育所などの利用を希望していますか

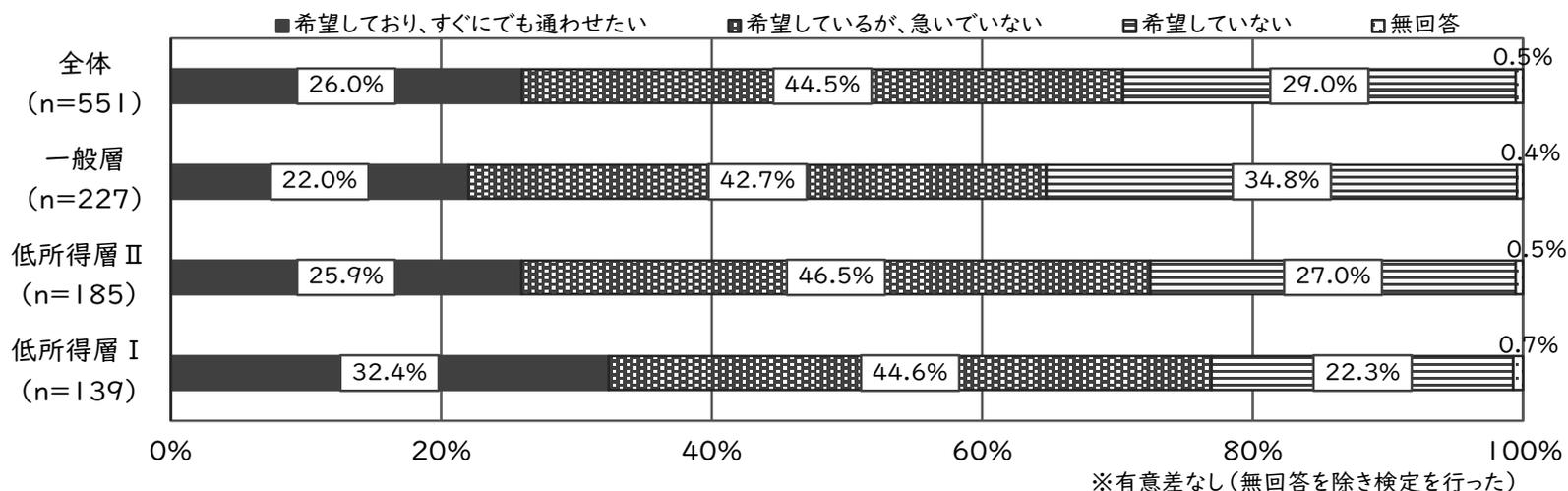
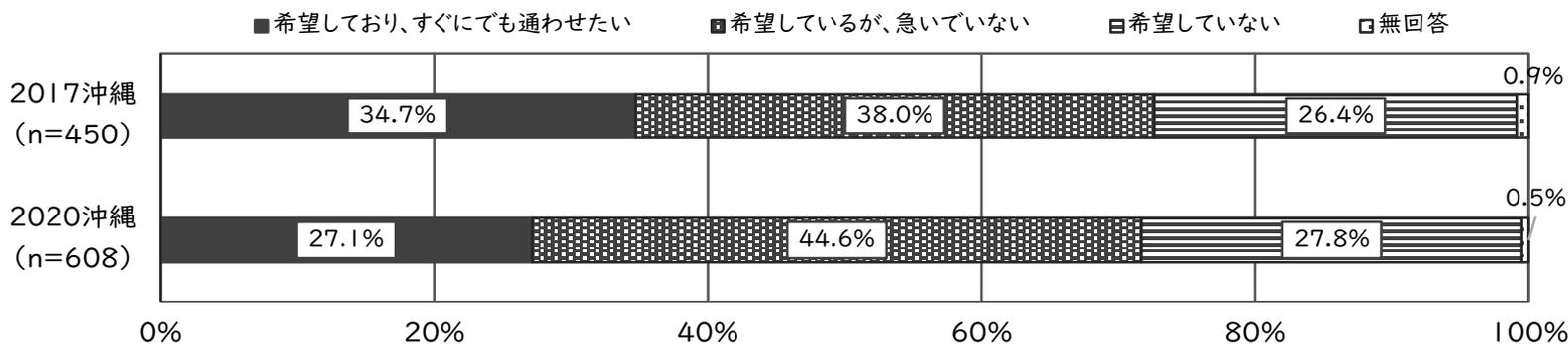


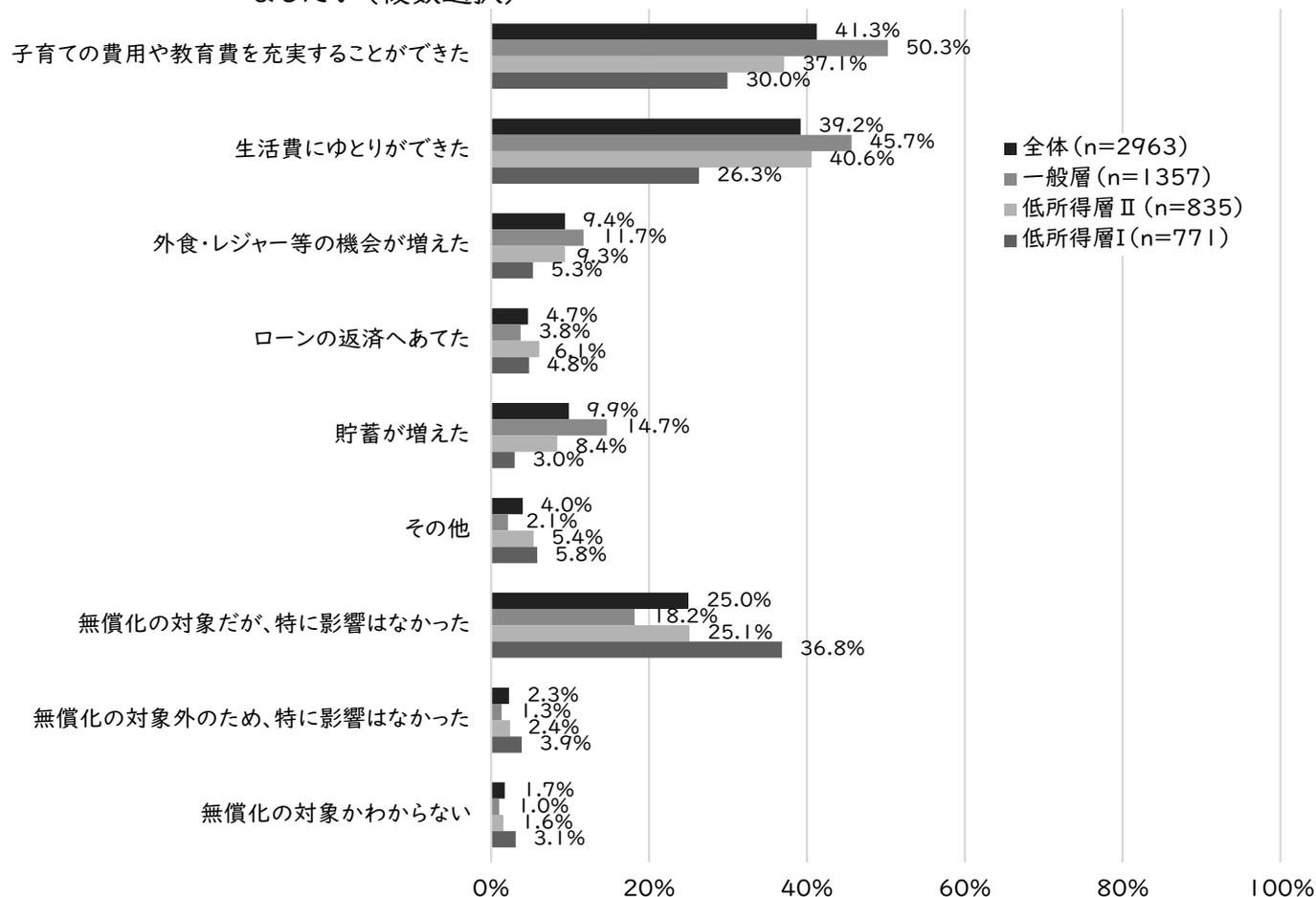
図2-3-3 【1歳児】現在、保育所などの利用を希望していますか



2-5 幼児教育・保育の無償化による影響（5歳児）

経済状況別では、「子育ての費用や教育費を充実することができた」「生活費にゆとりができた」に加え、「外食・レジャー等の機会が増えた」「貯蓄が増えた」の2項目でも所得が高いほど高い割合を示し、所得が高い層にプラスの影響があったことが推察できます。

図2-4-1 【5歳児】2019年10月から実施された幼児教育・保育の無償化によって、生活に影響がありましたか（複数選択）



※「ローンの返済へあてた」は $p < 0.05$ 、それ以外は $p < 0.01$

第3章

新型コロナウイルスによる影響

3-1 ストレスに感じていること①

新型コロナウイルスに関する心理的影響についていくつか尋ねたところ、「家の中での生活を楽しむようになった」について、「あてはまる」「ややあてはまる」の割合は、全体でそれぞれ約8割となっています。

図3-1-3 【1歳児】家の中での生活を楽しむようになった

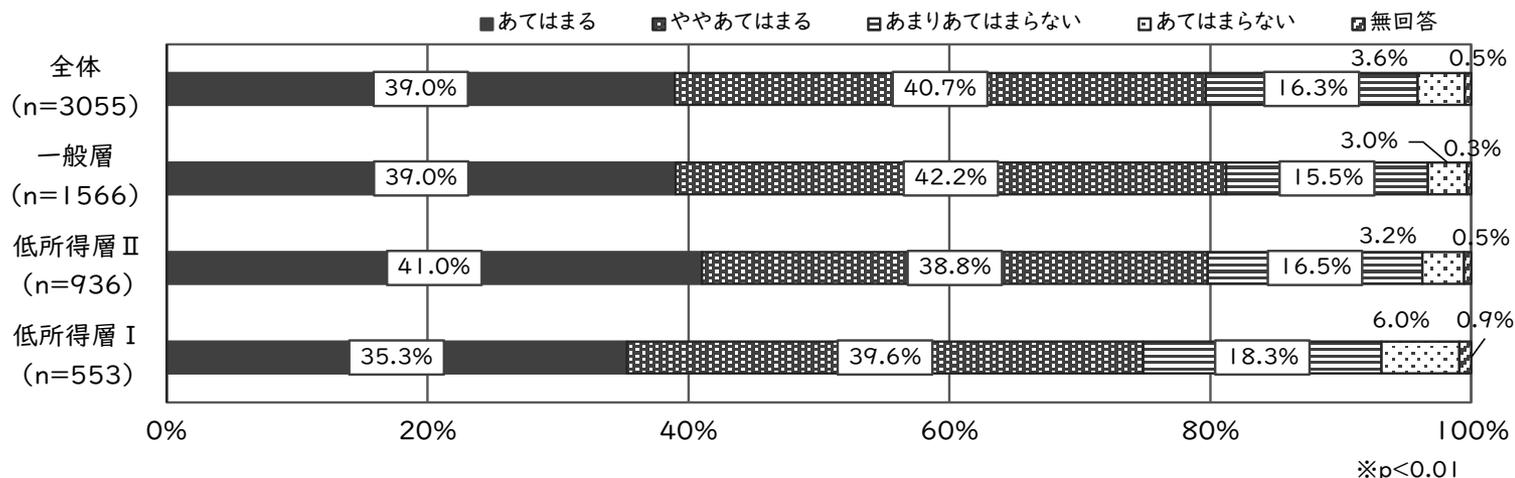
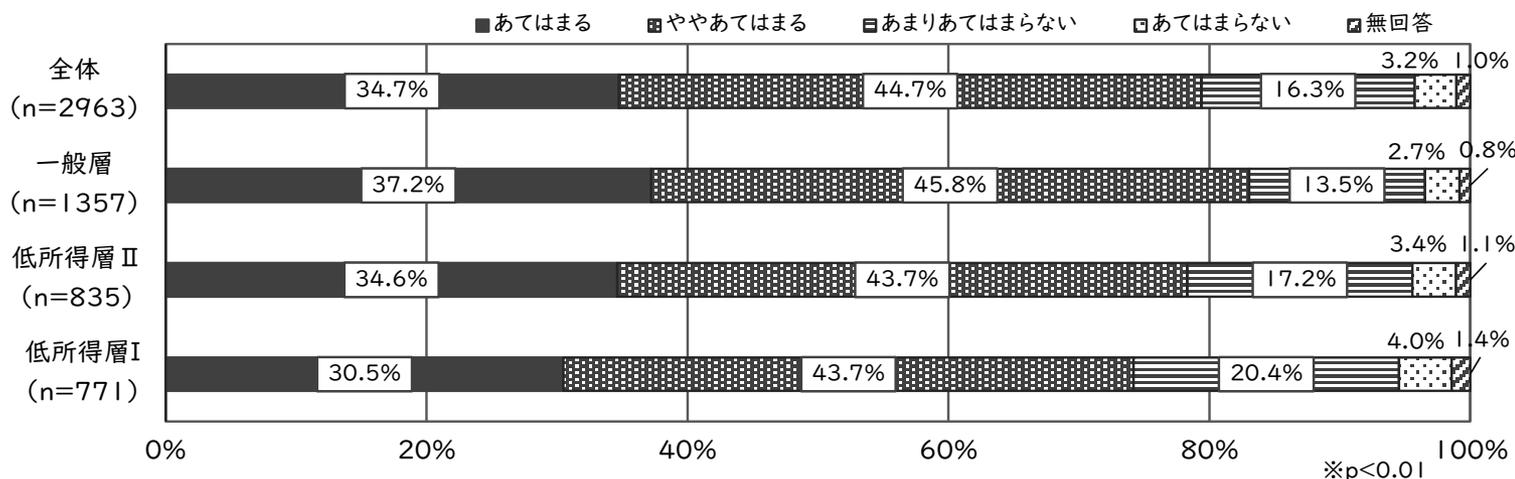


図3-1-8 【5歳児】家の中での生活を楽しむようになった



3-2 ストレスに感じていること②

新型コロナウイルスに関する心理的影響について、「慢性的な疲労を感じるようになった」については、1歳児、5歳児ともに低所得層ⅠとⅡが一般層と比べ高くなっています。

図3-1-4 【1歳児】慢性的な疲労を感じるようになった

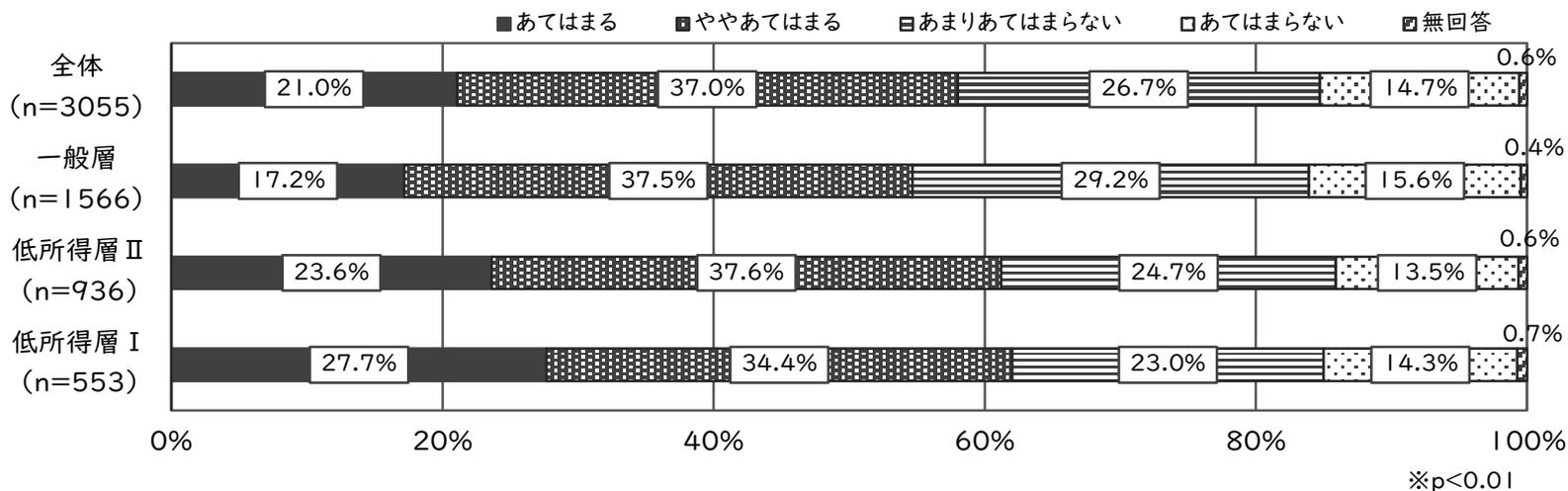
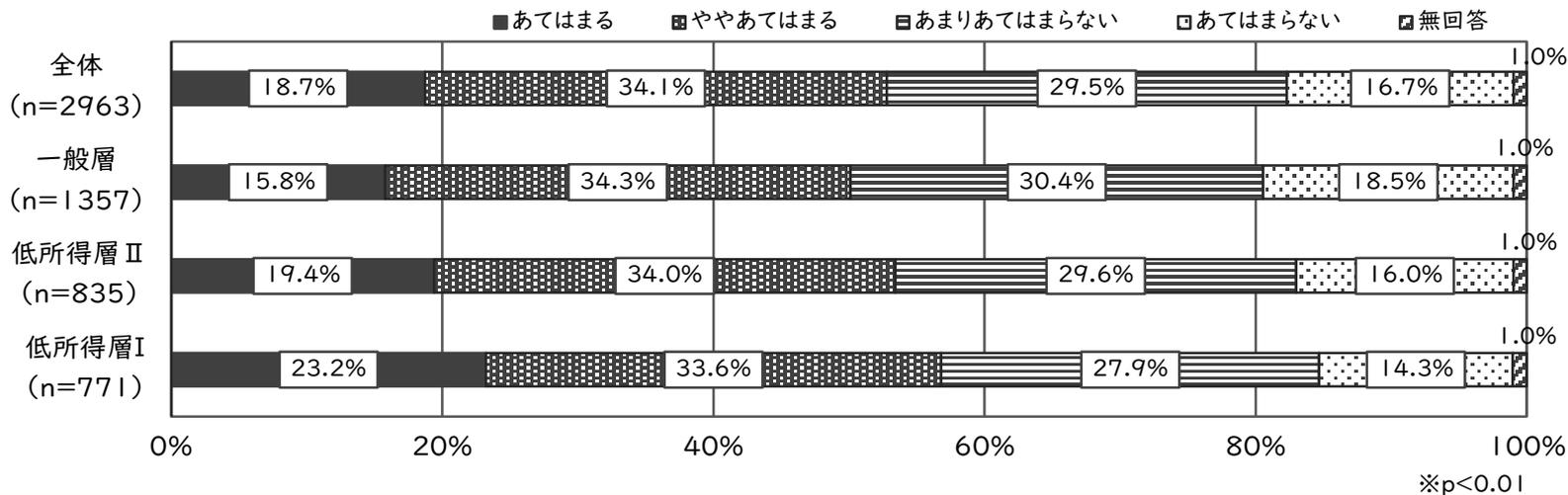


図3-1-9 【5歳児】慢性的な疲労を感じるようになった



3-3 世帯収入への影響

減収があった世帯が、1歳児で約36%、5歳児では約39%となっています。経済状況別では、低所得層ほど影響を受けた割合が高いことも見えます。

図3-3-1 【1歳児】あなたの世帯では、新型コロナウイルスの感染拡大(2020年2月頃)の前と比べて、現在の世帯収入は減りましたか

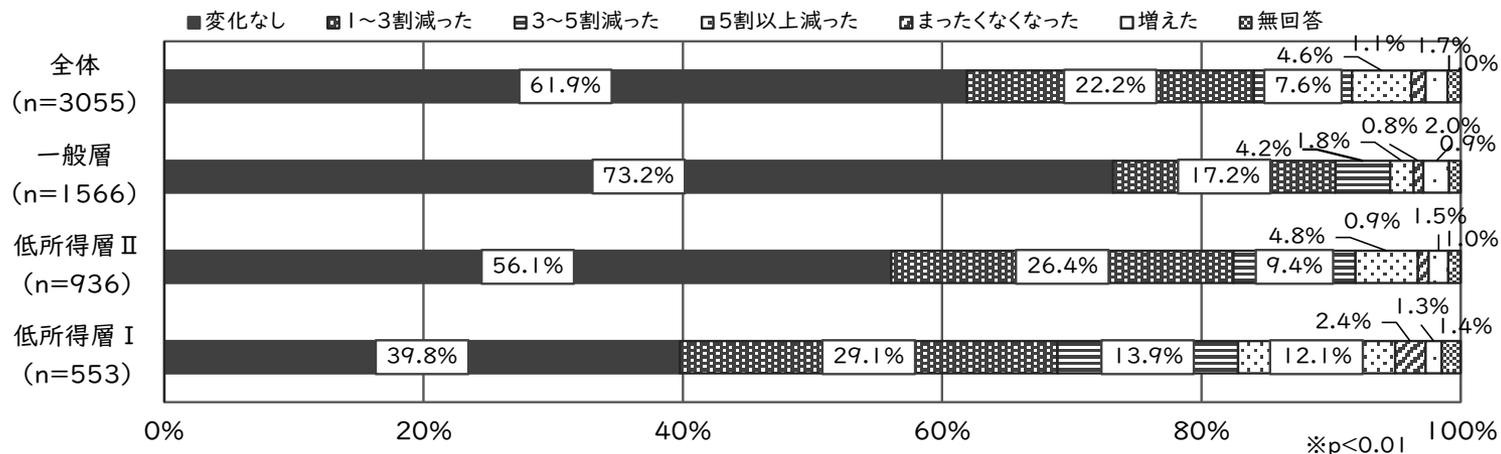
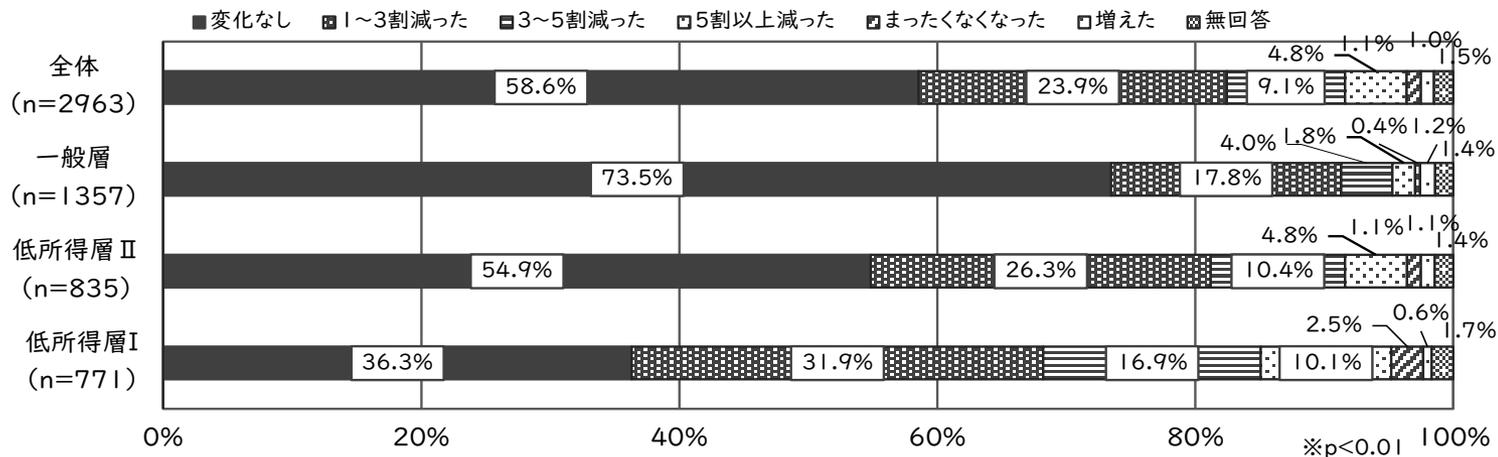


図3-3-2 【5歳児】あなたの世帯では、新型コロナウイルスの感染拡大(2020年2月頃)の前と比べて、現在の世帯収入は減りましたか



3-4 世帯収入への影響（世帯類型別／1歳児、5歳児）

世帯類型別に見ると、ひとり親世帯のほうが深刻な影響を受けていることがわかりました。また、1歳児では、3割以上の減収は、ふたり親世帯では12.7%ですが、ひとり親世帯では23.0%に、5割以上の減収は、ふたり親世帯では5.5%ですが、ひとり親世帯では13.4%となっており、影響の深刻さについても、ひとり親世帯のほうが大きいことがわかりました（5歳児も同様の傾向）。

図3-3-3 【1歳児】あなたの世帯では、新型コロナウイルスの感染拡大（2020年2月頃）の前と比べて、現在の世帯収入は減りましたか

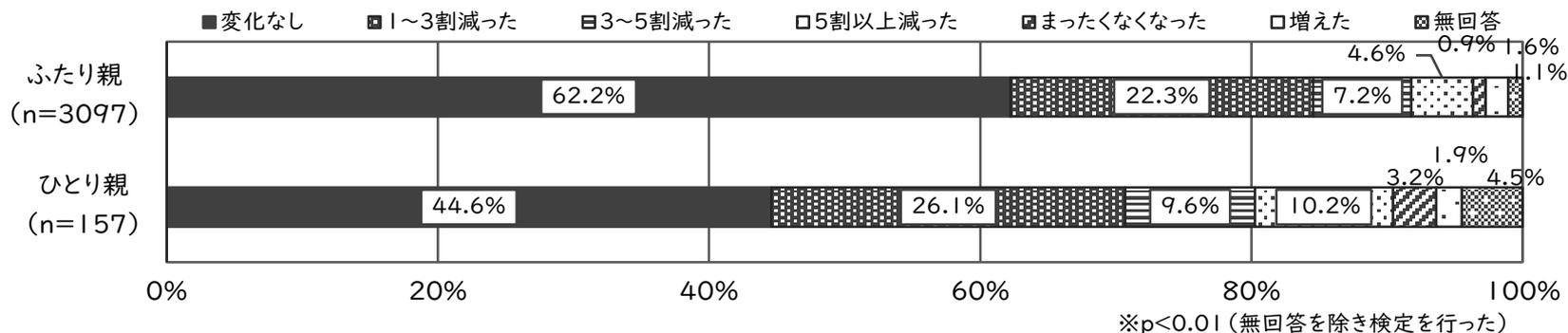
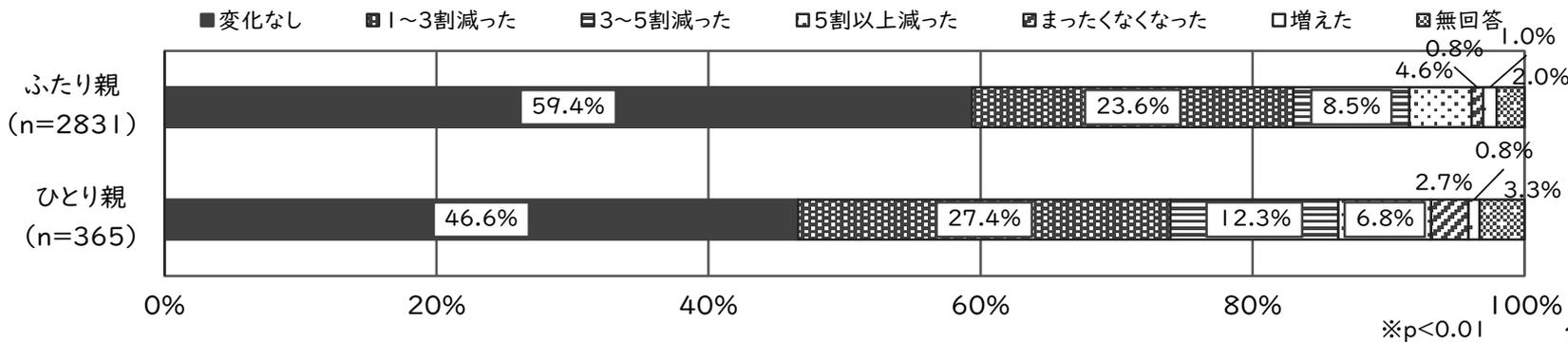


図3-3-4 【5歳児】あなたの世帯では、新型コロナウイルスの感染拡大（2020年2月頃）の前と比べて、現在の世帯収入は減りましたか



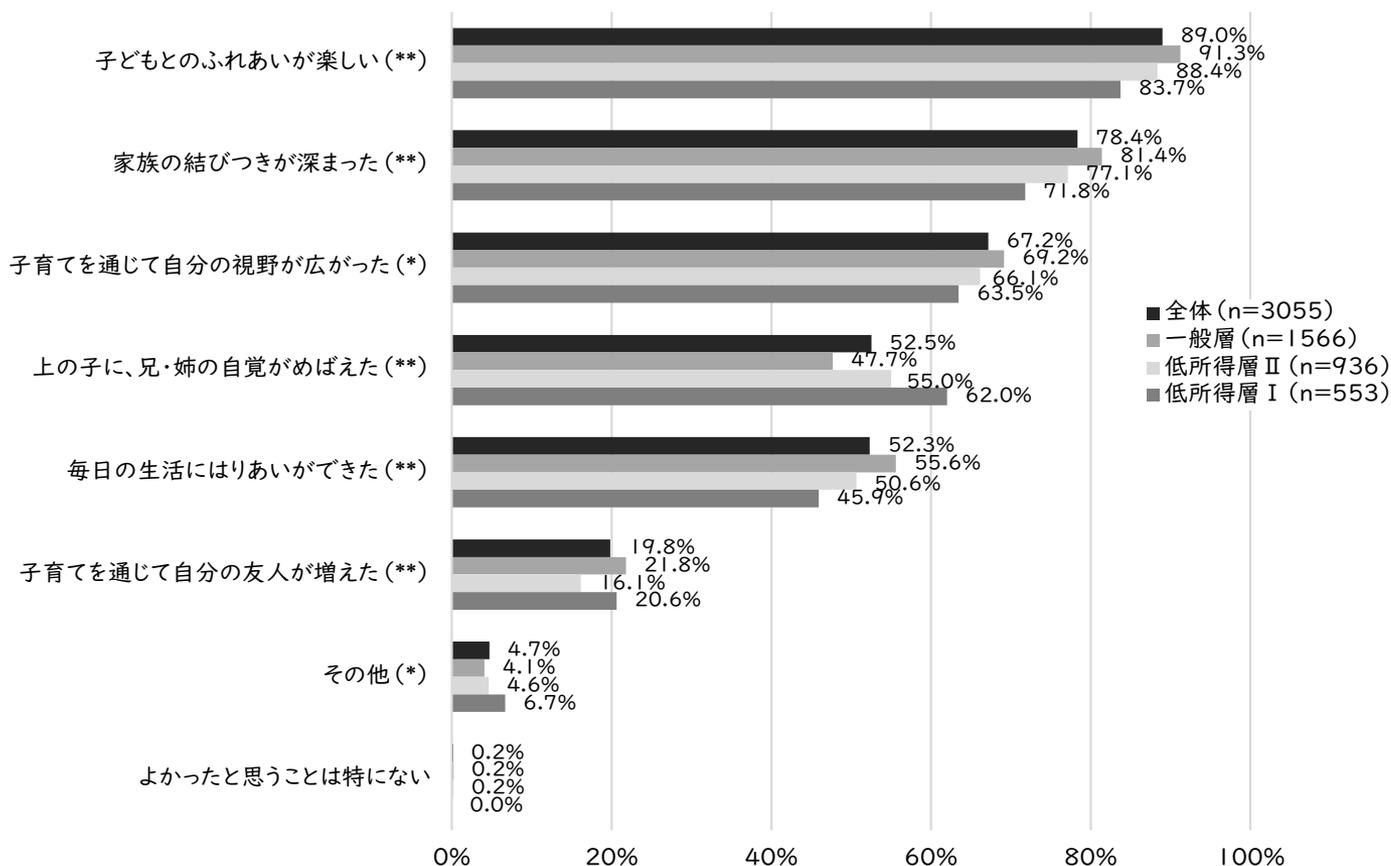
第4章

子どもとの関わり

4-1 子どもを育てていてよかったこと（1歳児）

お子さんを育てていてよかったことは何かについて複数回答で尋ねたところ、1歳児の全体では、「子どもとのふれあいが楽しい」が89.0%と高く、次に「家族の結びつきが深まった」が78.4%と高くなっています。経済状況別も同様でしたが、所得が高い層ほどその割合は高く、「毎日の生活にはりあいができた」「子育てを通じて自分の視野が広がった」も所得が高い層ほど割合が有意に高くなっています。

図4-3-1 【1歳児】お子さんを育てていてよかったと思うことは何ですか（複数選択）

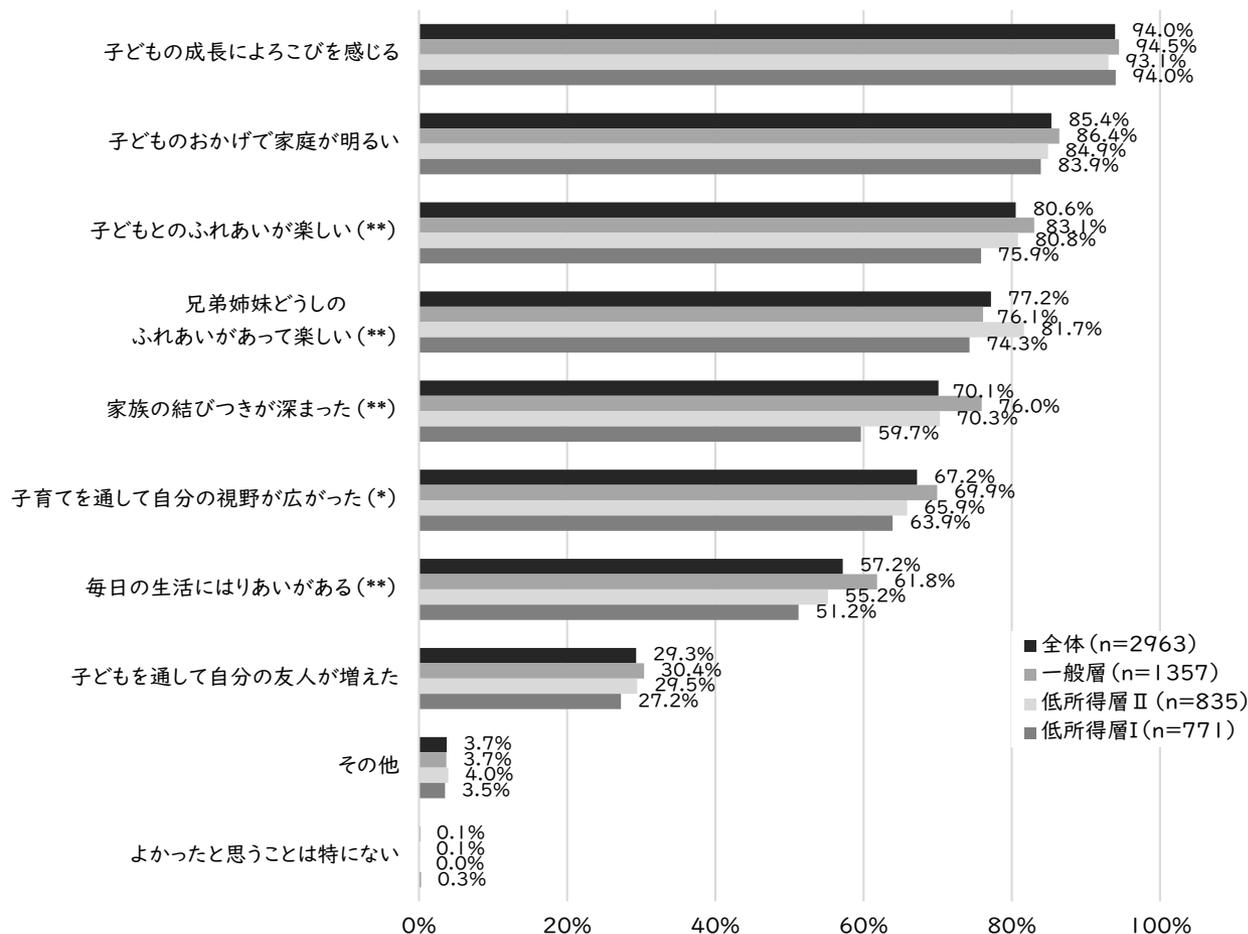


※(**)はp<0.01、(*)はp<0.05、記載がないものは有意差なし

4-2 子どもを育てていてよかったこと（5歳児）

5歳児の保護者に、お子さんを育てていてよかったことは何かについて複数回答で尋ねたところ、経済状況別では「子どもとのふれあいが楽しい」「家族の結びつきが深まった」「子育てを通して自分の視野が広がった」「毎日の生活にはりあいがある」の項目で、所得が高い層ほど高くなっています。

図4-3-2 【5歳児】お子さんを育てていてよかったと思うことは何ですか（複数回答）



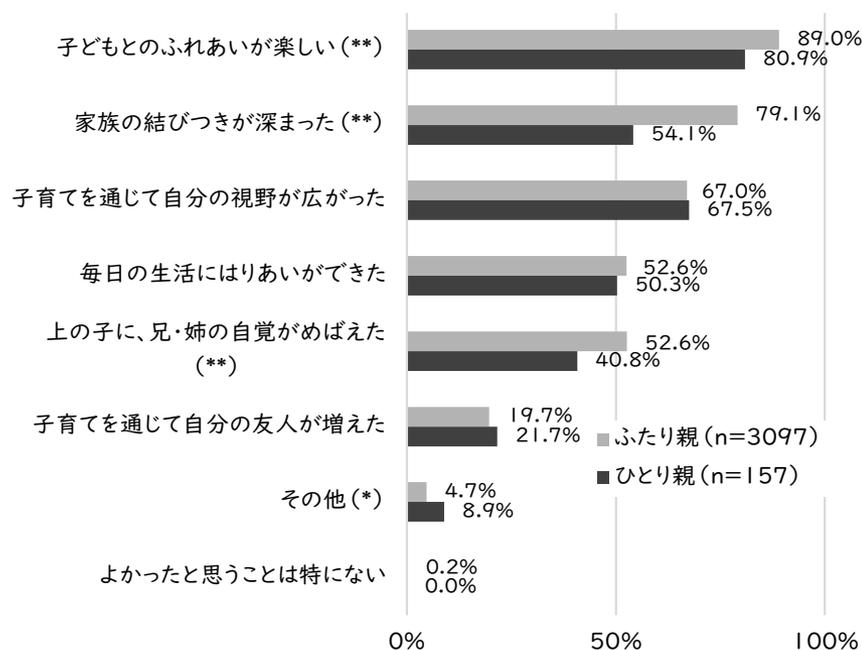
※(**)は $p<0.01$ 、(*)は $p<0.05$ 、記載がないものは有意差なし

4-3 子どもを育てていてよかったこと（世帯類型別）

世帯類型別に見ると、1歳児をもつ保護者の回答では、「子どもとのふれあいが楽しい」「家族の結びつきが深まった」「上の子に、兄・姉の自覚がめばえた」の項目が、ひとり親世帯よりふたり親世帯のほうが顕著に高いことがわかりました。

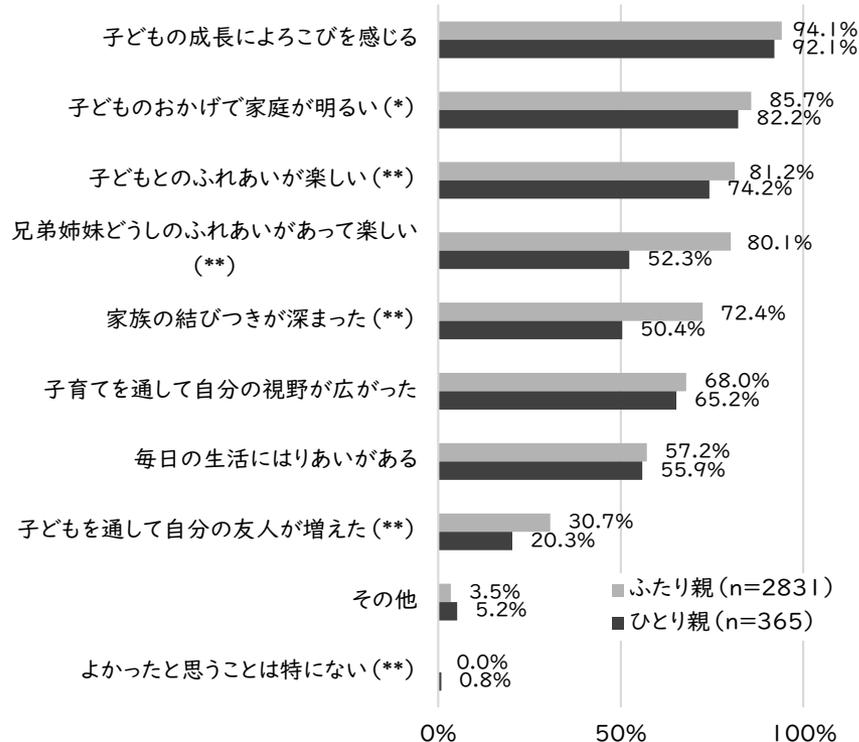
5歳児をもつ保護者の回答からは、「子どもとのふれあいが楽しい」「兄弟姉妹どうしのふれあいがあって楽しい」「家族の結びつきが深まった」「子どもを通して自分の友人が増えた」の項目で、ふたり親世帯のほうが高くなりました。

図4-3-4 【1歳児】お子さんを育てていてよかったと思うことは何ですか（複数選択）



※(**)はp<0.01、(*)はp<0.05、記載がないものは有意差なし

図4-3-5 【5歳児】お子さんを育てていてよかったと思うことは何ですか（複数選択）



※(**)はp<0.01、(*)はp<0.05、記載がないものは有意差なし

4-4 子育てにおける孤独感（1歳児）

自分一人で育てているという孤独感を感じていることが「よくある」との回答が、一般層では3.2%ですが、低所得層1では6.3%となっています（図4-4-1）。また、保育施設の利用がどこにもない場合においても、顕著に子育ての孤独感が強く、統計的にも有意でした（図4-4-4）。

図4-4-1 【1歳児】子育ての中で、自分一人で育てているという孤独感を感じることがありますか

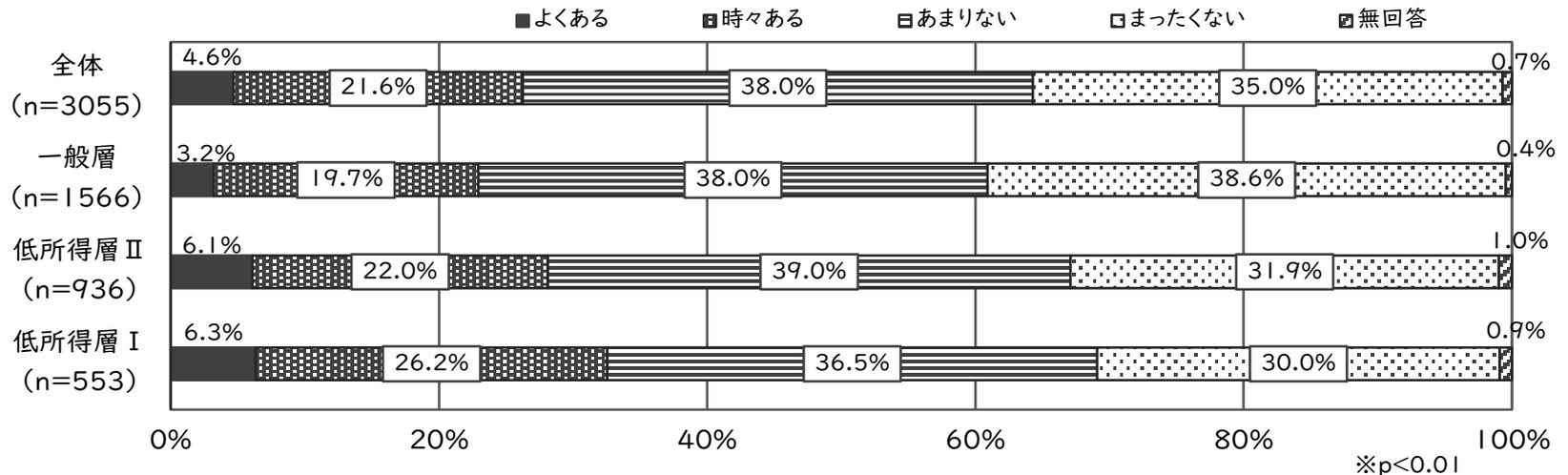
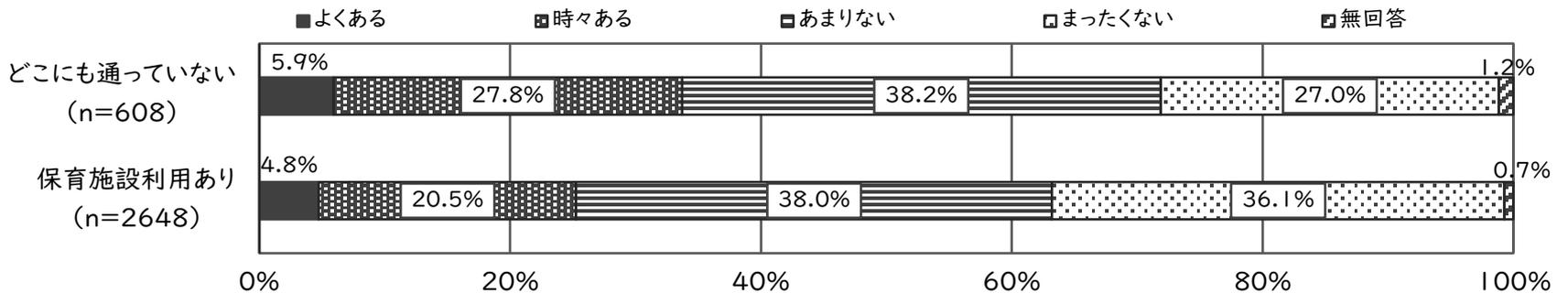


図4-4-4 【1歳児】子育ての中で、自分一人で育てているという孤独感を感じることがありますか

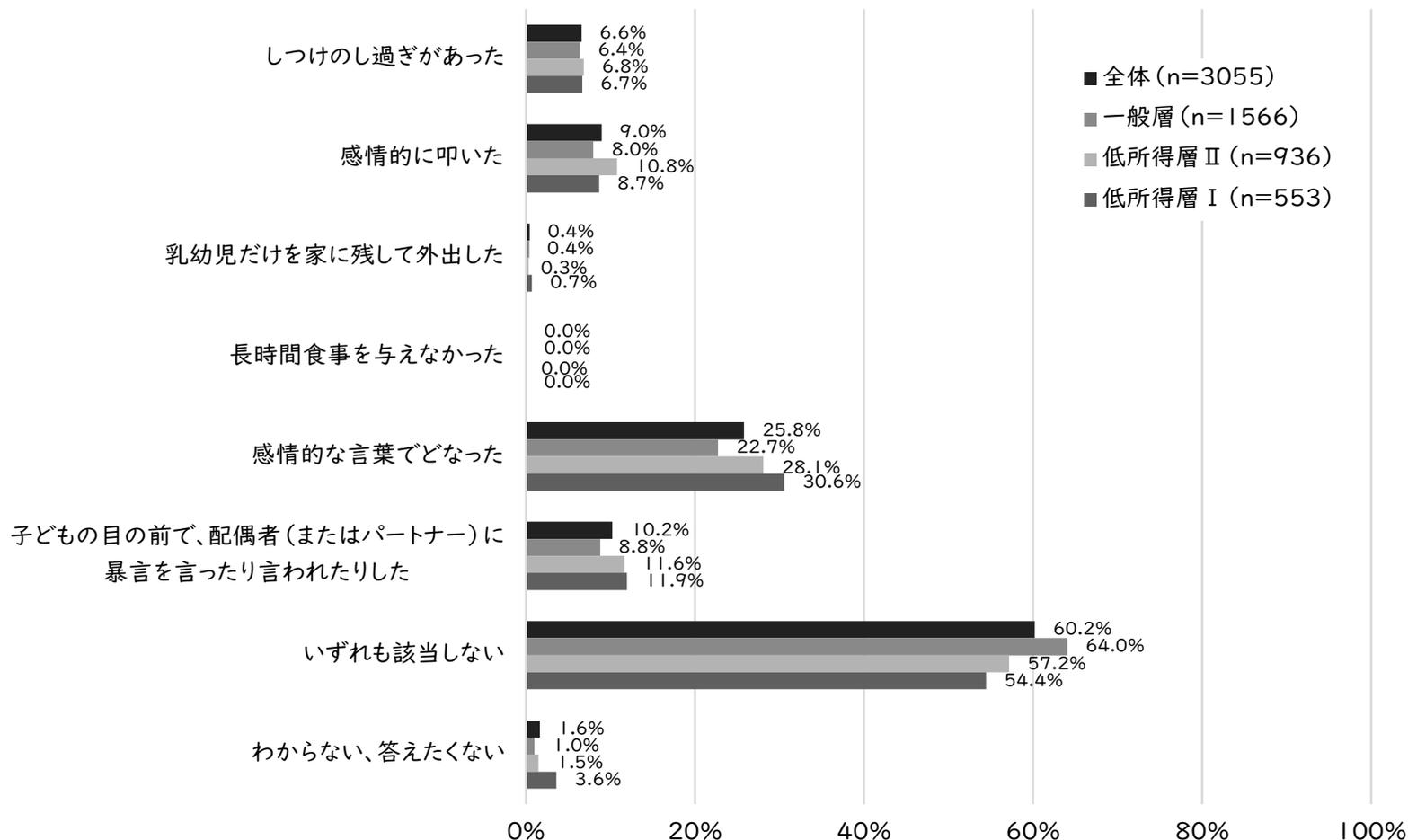


※p<0.01（保育所などの利用について「どこにも通っていない」と「保育施設利用あり」の2群で検定を行った） 39

4-5 子どものしつけ（1歳児）

1歳児では、全体で「感情的な言葉でどなった」は25.8%と約4分の1で見られ、「感情的に叩いた」も9.0%と約10分の1があったと回答しており、1歳児に対しても児童虐待のリスクは高いことがわかりました。

図4-6-1 【1歳児】この数か月の間に、ご家庭で以下のことがありましたか（複数回答）



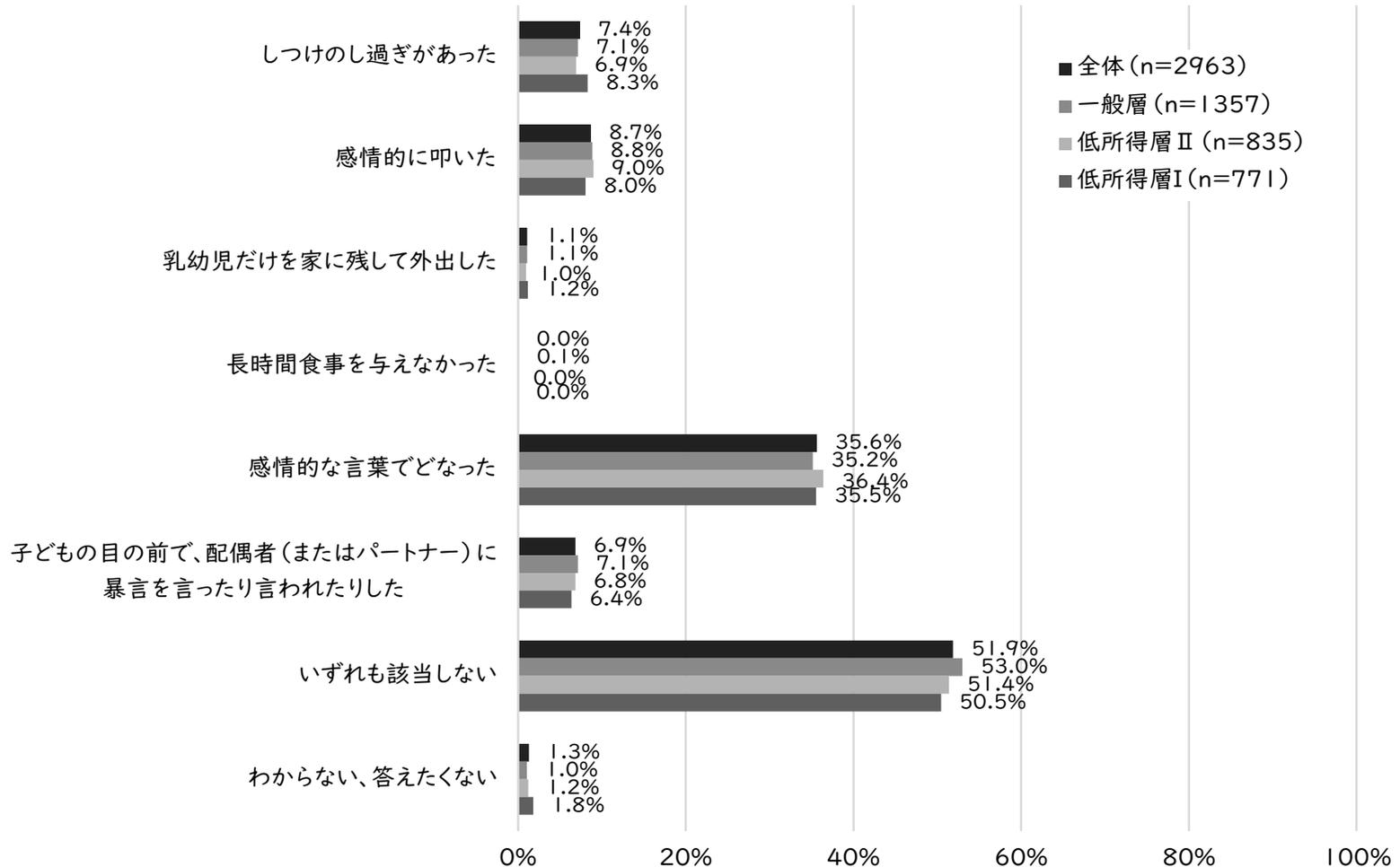
※「感情的な言葉でどなった」「いずれも該当しない」「わからない、答えたくない」 $p < 0.01$ 、

「子どもの目の前で、配偶者（またはパートナー）に暴言を言ったり言われたりした」 $p < 0.05$ 、それ以外は有意差なし

4-6 子どものしつけ（5歳児）

5歳児では、全体で「感情的な言葉でどなった」は35.6%と3分の1以上となり、1歳児より高いことがわかりました。「感情的に叩いた」も8.7%でした。

図4-6-2 【5歳児】この数か月の間に、ご家庭で以下のことがありましたか（複数回答）



※すべて有意差なし

4-7 子どものしつけ（慢性的疲労の有無）

新型コロナウイルスによる影響のうち、「慢性的な疲労を感じるようになった」との関連性を見たところ、「いずれも該当しない」を除く4つの行為で、慢性的な疲労がある場合のほうが有意に割合が高くなっています。

図4-6-5 【1歳児】この数か月の間に、ご家庭で以下のことがありましたか（複数選択）

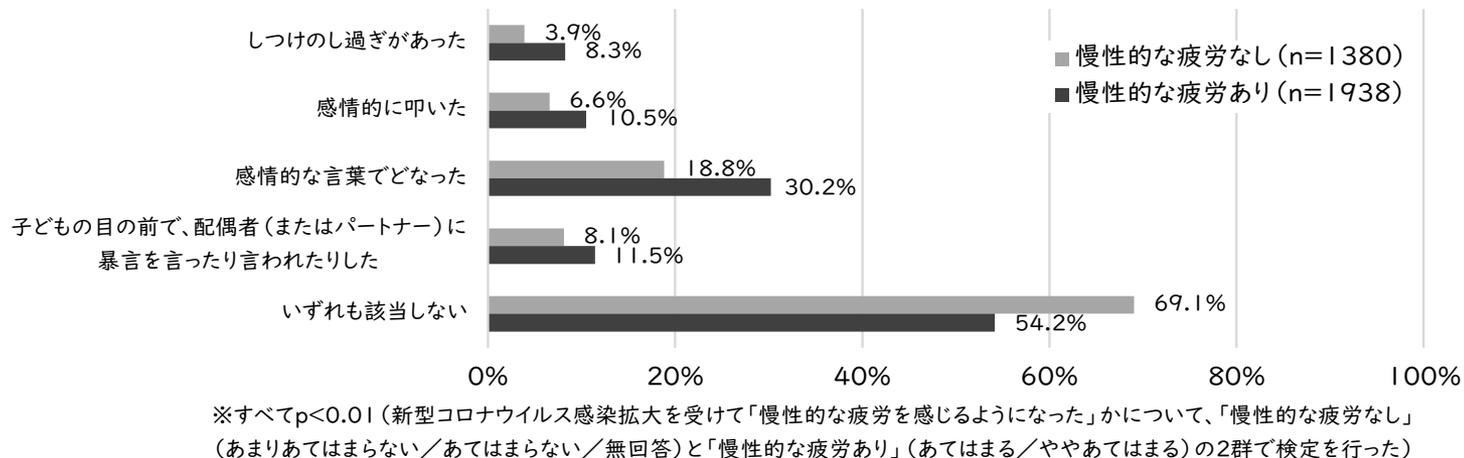
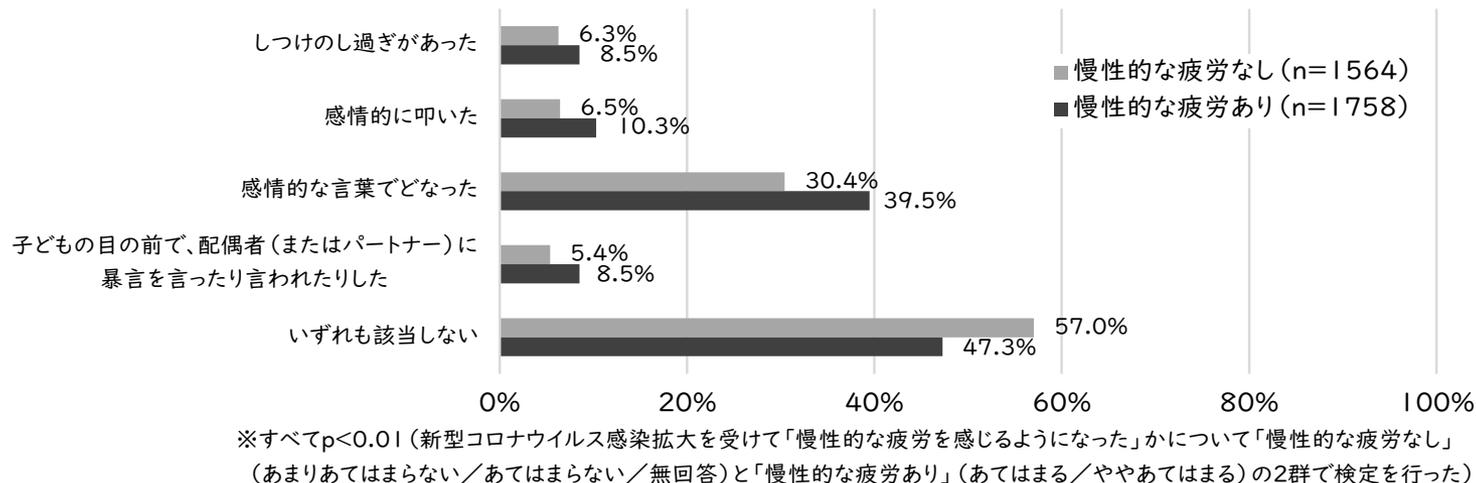


図4-6-6 【5歳児】この数か月の間に、ご家庭で以下のことがありましたか（複数選択）



4-8 子どもの発達（1歳児）

1歳児の保護者にお子さんの発達について尋ねたところ、経済状況別では大きな違いは見られませんでした。

一方、保育所などの利用がある場合と、どこにも通っていない場合に分けて分析したところ、「ほかの子どもに興味がありますか」「お子さんをブランコのように揺らしたり、ひざの上で揺ると喜びますか」の項目では、大きな違いはなかったものの、「ほしいモノがあるとき、指をさして要求しますか」「ひとりで歩くことができますか」「意味のある言葉を3語以上話せますか」の項目においては、保育施設をどこも利用していない場合、「はい」と回答する数が顕著に少なく、保育施設の利用の有無が発達に影響することがわかりました。

図4-7-8 【1歳児】ほしいモノがあるとき、指をさして要求しますか

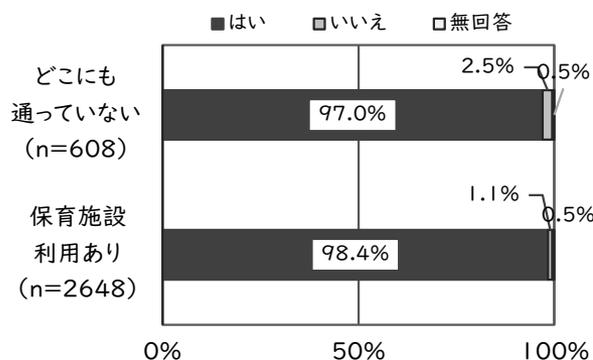


図4-7-9 【1歳児】ひとりで歩くことができますか

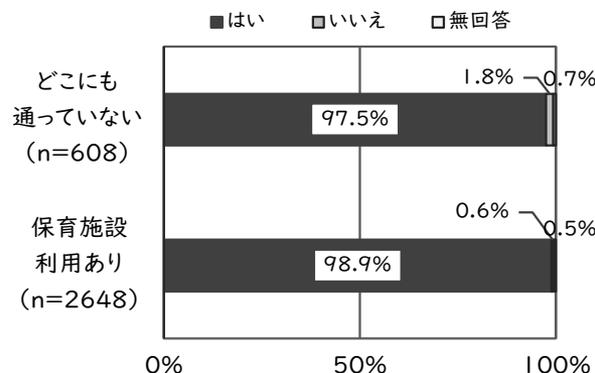
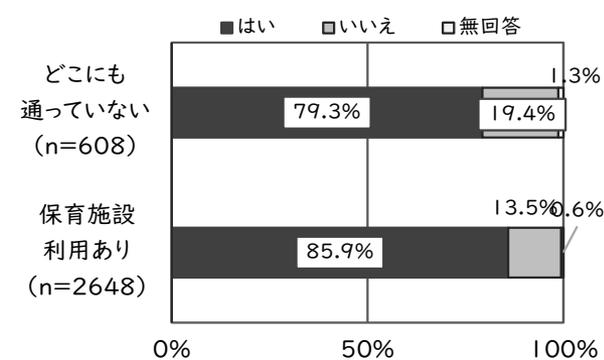


図4-7-10 【1歳児】意味のある言葉を3語以上話せますか



※ $p < 0.05$ (保育所などの利用について「どこにも通っていない」と「保育施設利用あり」の2群で検定を行った)

※ $p < 0.05$ (保育所などの利用について「どこにも通っていない」と「保育施設利用あり」の2群で検定を行った)

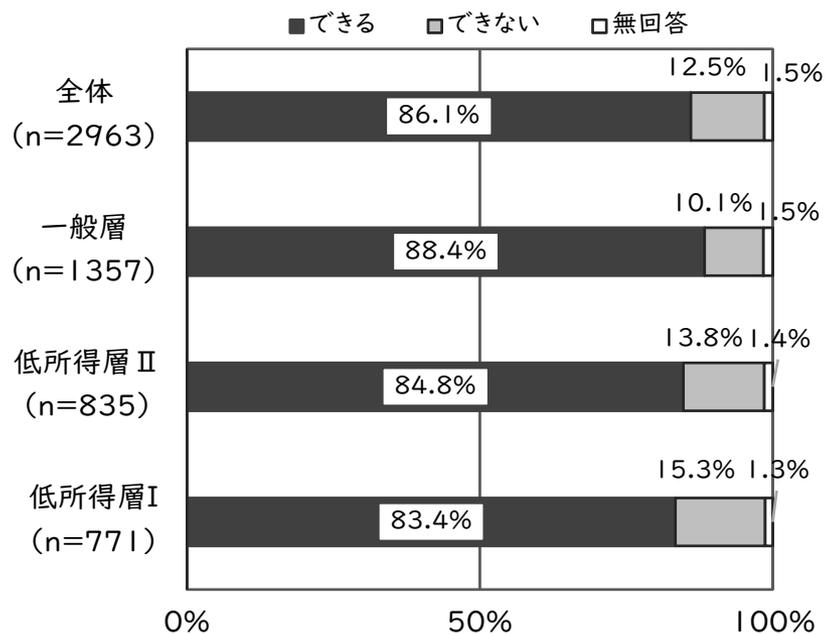
※ $p < 0.01$ (保育所などの利用について「どこにも通っていない」と「保育施設利用あり」の2群で検定を行った)

4-9 子どもの発達（5歳児）

5歳児の保護者にお子さんの発達について尋ねたところ、「落ち着いて話を聞くこと」「ひとつのことに集中すること」の質問に対しては、9割近くが「できる」と回答しており、経済状況別においての統計的な大きな差は見られませんでした。

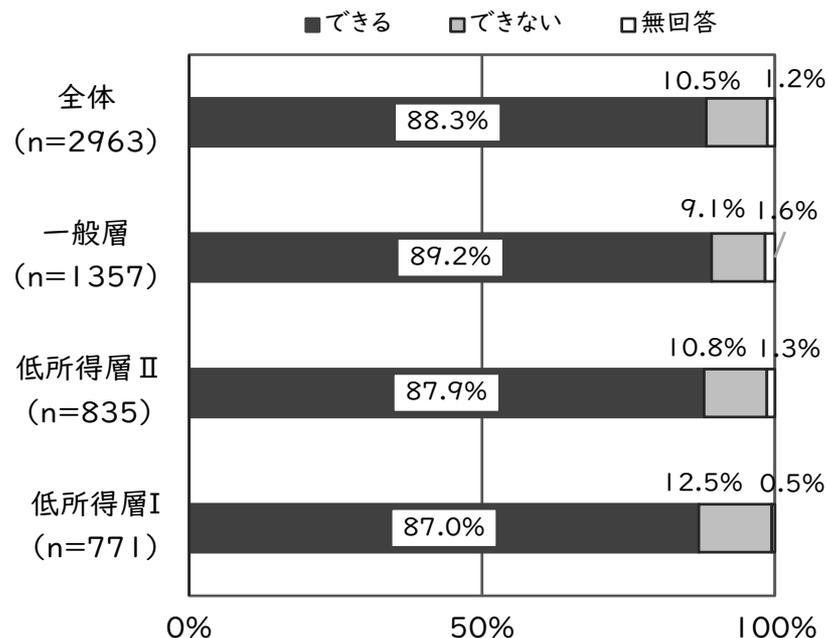
一方で、「がまんすること」「感情をうまく表すこと」「集団で行動すること」「約束を守ること」（図4-8-3～図4-8-6）では、統計的にも有意な差で違いがあることがわかりました。

図4-8-3 【5歳児】がまんすること



※p<0.01

図4-8-4 【5歳児】感情をうまく表すこと



※p<0.05

「がまんすること」「集団で行動すること」「約束を守ること」においては、低所得層Ⅰは一般層と比べ約4～5ポイントの違いがあります。

図4-8-5 【5歳児】集団で行動すること

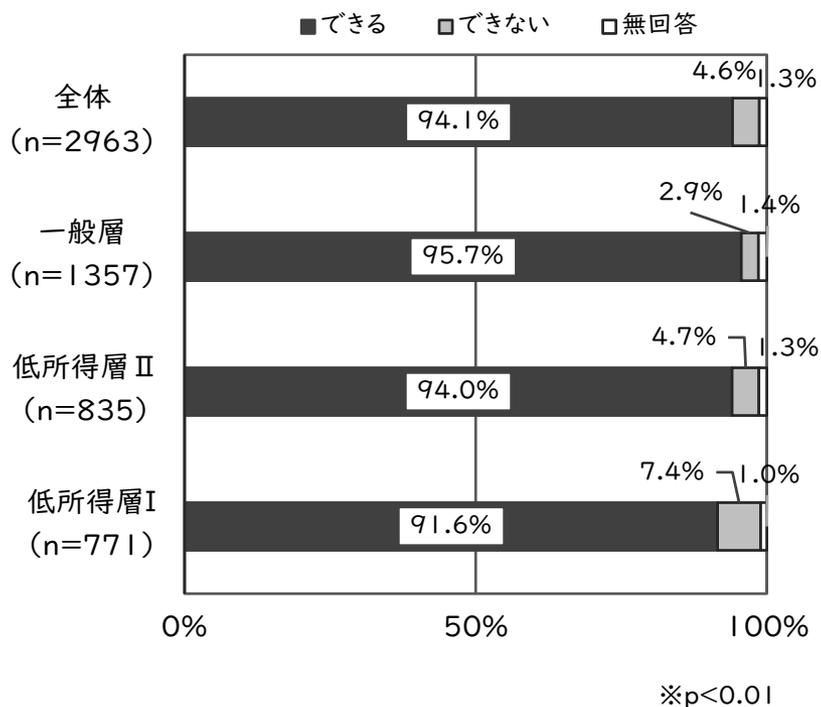
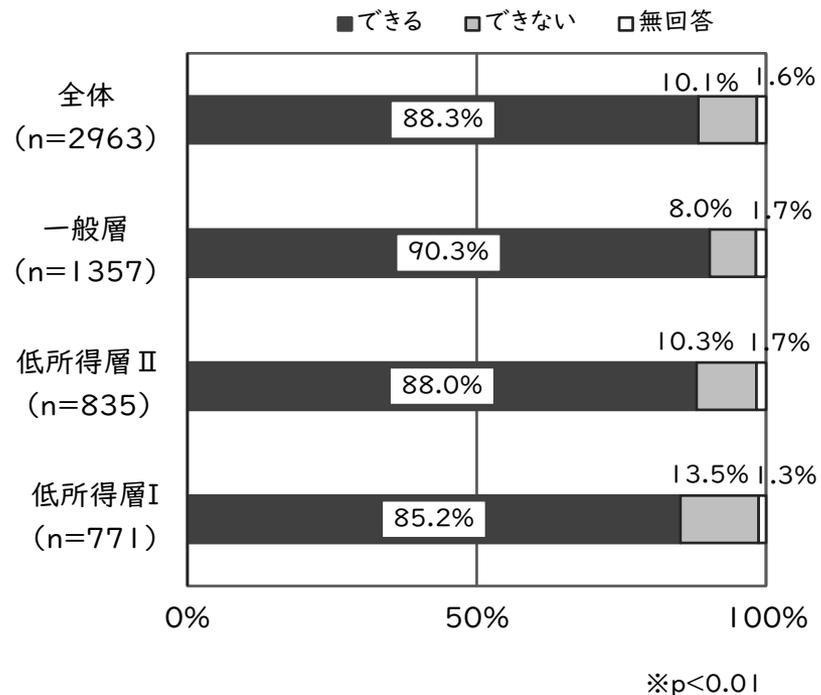


図4-8-6 【5歳児】約束を守ること



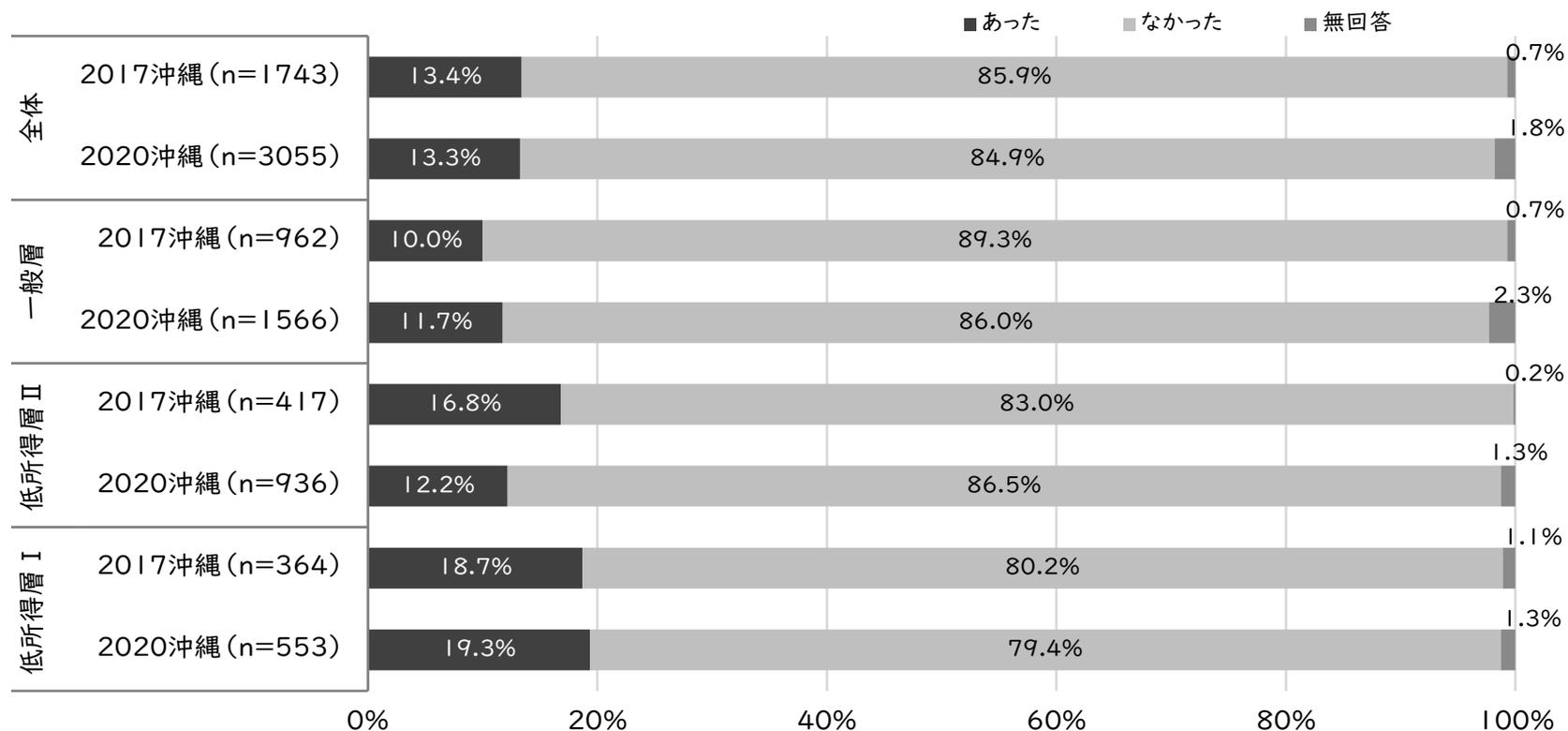
第5章

健 康

5-1 子どもが病院などを受診できなかった経験（1歳児）

保護者が子どもを病院（歯科を含む）に受診させた方がよいと思ったにもかかわらず、実際には受診させなかった「受診抑制」について尋ねたところ、経済状況により差があり、1歳児では一般層が11.7%であったところ、低所得層Ⅰでは19.3%と1.6倍でした。

図5-2-1 【1歳児】過去1年間に、お子さん（きょうだいを含む）を病院や歯医者で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか

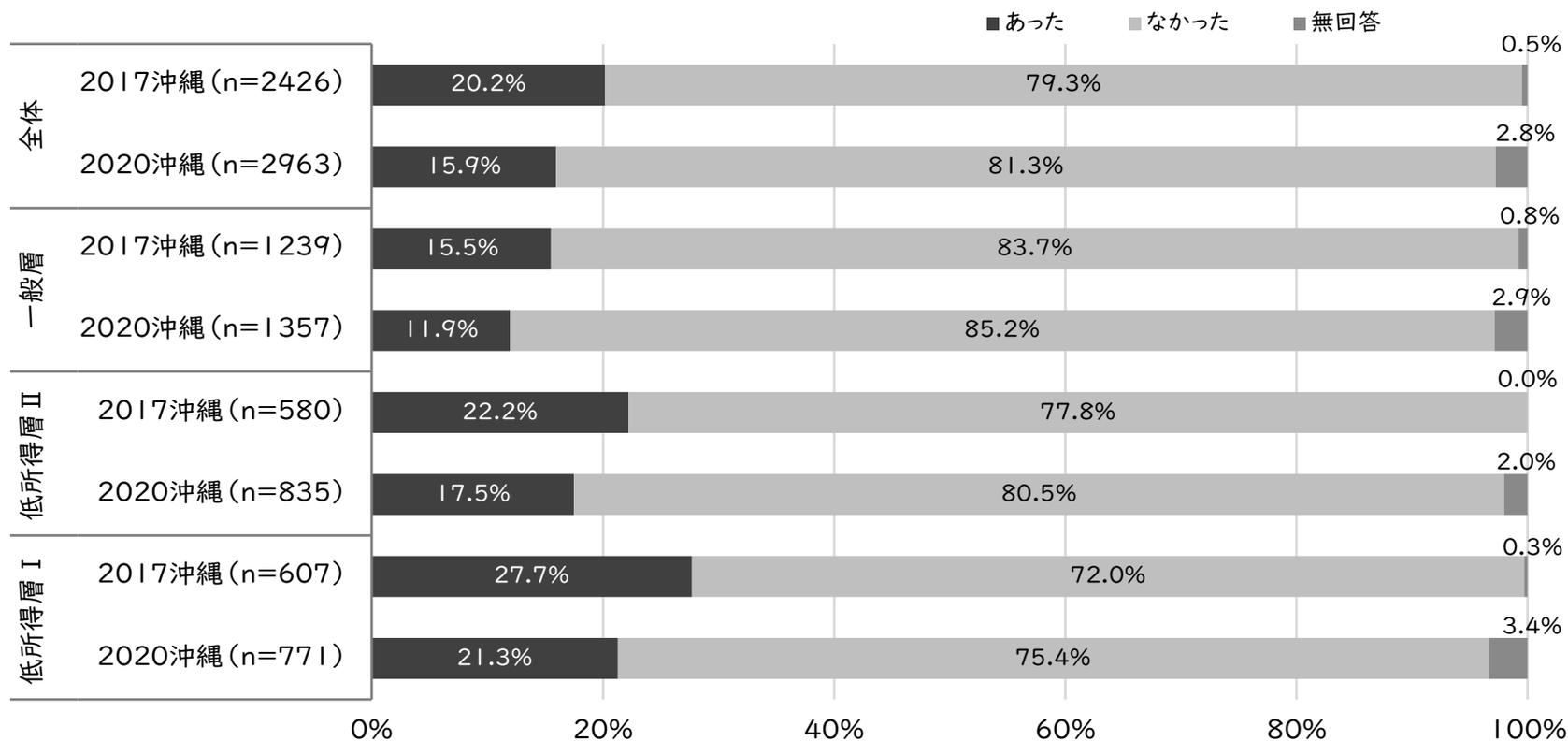


※2020年沖縄県調査は、 $p < 0.01$ （2017年沖縄県調査は検定なし）

5-2 子どもが病院などを受診できなかった経験（5歳児）

同様に、5歳児に受診抑制について尋ねたところ、一般層の11.9%に比べて低所得層Ⅰでは21.3%と1.8倍に上りました。経年比較では、受診抑制を行った割合は低下しており、特に5歳児では全体で20.2%であったものが15.9%に減少しています。

図5-2-2 【5歳児】過去1年間に、お子さん（きょうだいを含む）を病院や歯医者で受診させた方がよいと思っただが、実際には受診させなかったことがありましたか

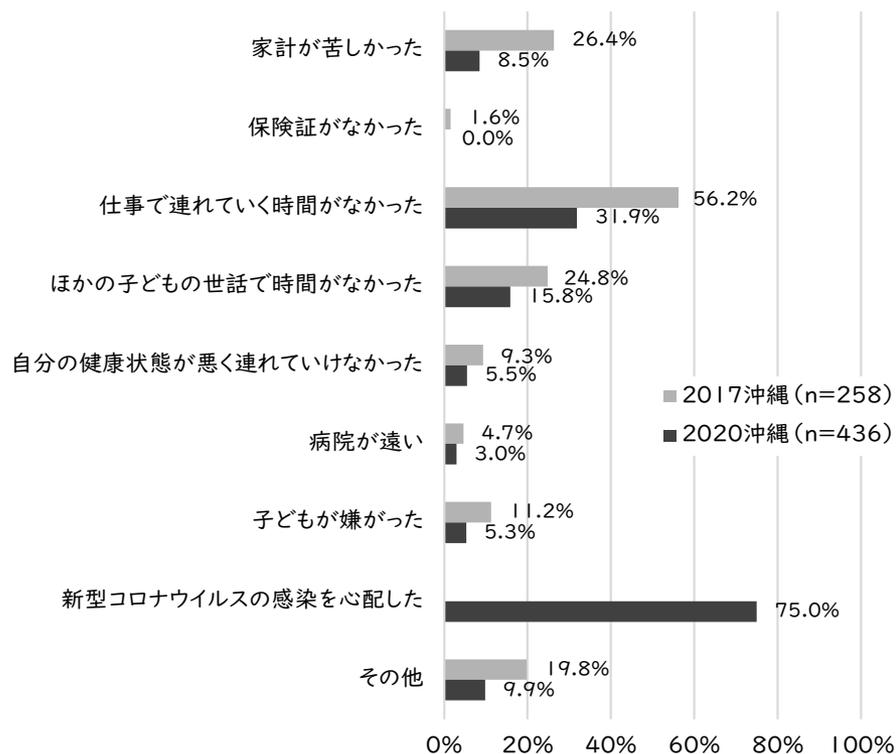


※2020年沖縄県調査は、 $p < 0.01$ (2017年沖縄県調査は検定なし)

5-3 子どもが病院などを受診できなかった理由（1歳児）

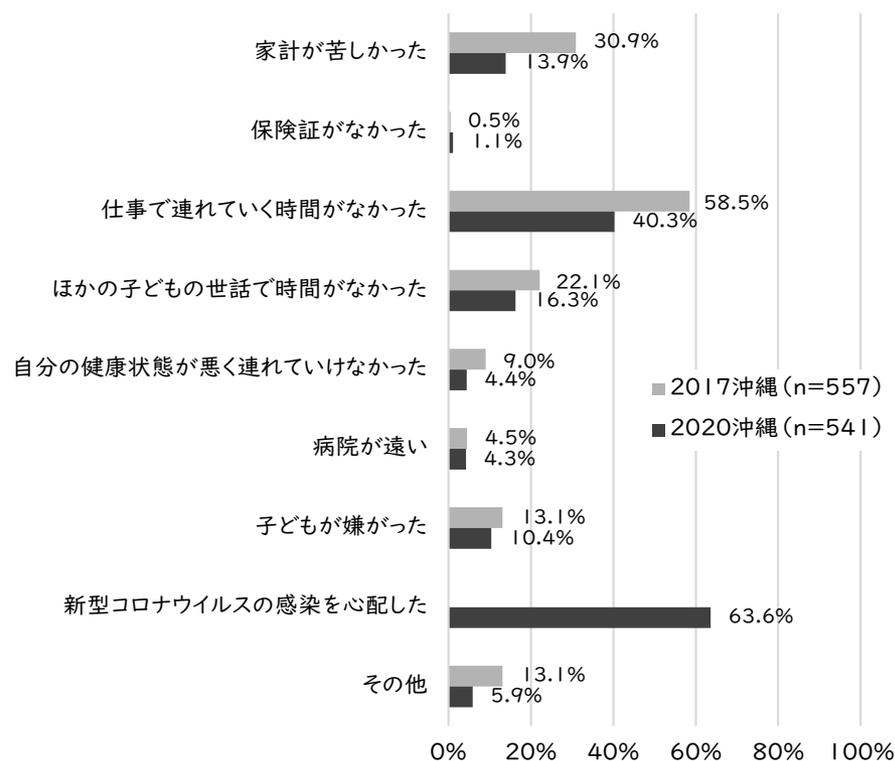
受診抑制の理由を経年比較したところ、「仕事で連れて行く時間がなかった」「ほかの子どもの世話で時間がなかった」「家計が苦しかった」は、いずれも2020年で減少しています。「家計が苦しかった」という理由は、コロナ禍で雇用や経営を直撃している状況下でありながら、1歳児で26.4%から8.5%に、5歳児で30.9%から13.9%に減少しています。

図5-2-5 【1歳児】その理由を教えてください(複数選択)



※2017年沖縄県調査には「新型コロナウイルスの感染を心配した」の選択肢なし

図5-2-6 【5歳児】その理由を教えてください(複数選択)



※2017年沖縄県調査には「新型コロナウイルスの感染を心配した」の選択肢なし

5-4 子どもが病院などを受診できなかった理由—家計が苦しかった—

受診抑制の理由のうち、「家計が苦しかった」という理由を経済状況別に分類すると、2017年沖縄県調査の1歳児の場合、一般層で6.3%、低所得層Ⅰで60.3%と50ポイント以上の差がありましたが、2020年沖縄県調査では、その差は16ポイントに抑えられています。5歳児でも同様に、一般層と低所得層Ⅰの差は、減少しています。

第3章で見たように、コロナ禍では特に低所得層ほど経済的に厳しい影響を受けていますが、「家計が苦しい」ことによる受診抑制が減少し、所得階層による差も減少しているという結果は、2018年10月に導入された「こどもの医療費の窓口無料化」の効果が現れていると推測されます。

図5-2-7 【1歳児】その理由を教えてください(複数選択)
—「家計が苦しかった」の割合—

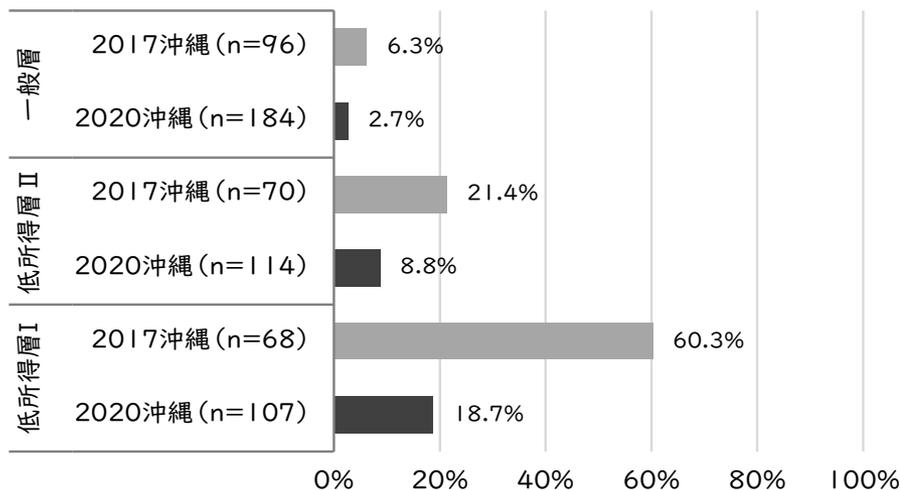
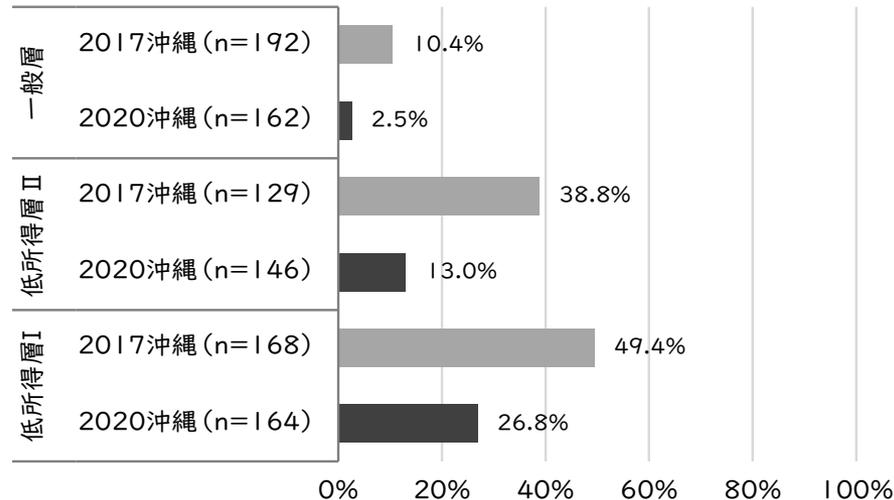


図5-2-8 【5歳児】その理由を教えてください(複数選択)
—「家計が苦しかった」の割合—



5-5 保護者が病院などを受診できなかった経験

保護者自身の受診抑制について尋ねたところ、全体で見ると、1歳児では子どもが13.3%に対し保護者45.1%、5歳児では子どもが15.9%に対し保護者43.9%と、保護者が自らの健康を後回しにしている状況が見えました。

図5-3-1 【1歳児】過去1年間に、あなたが病院や歯医者に行きたいのに行けなかったことがありましたか

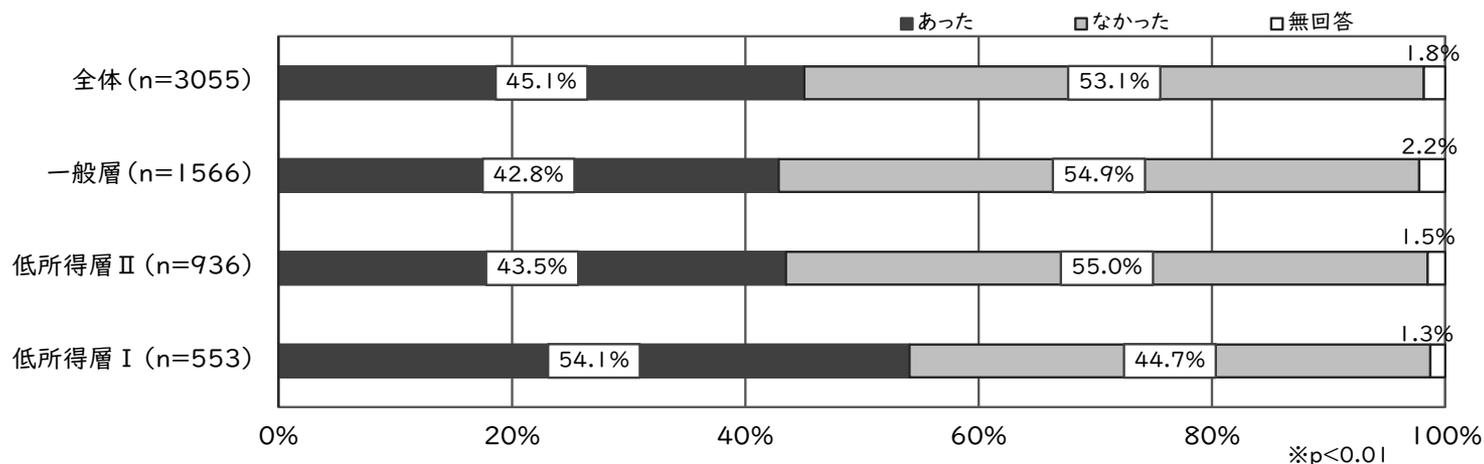
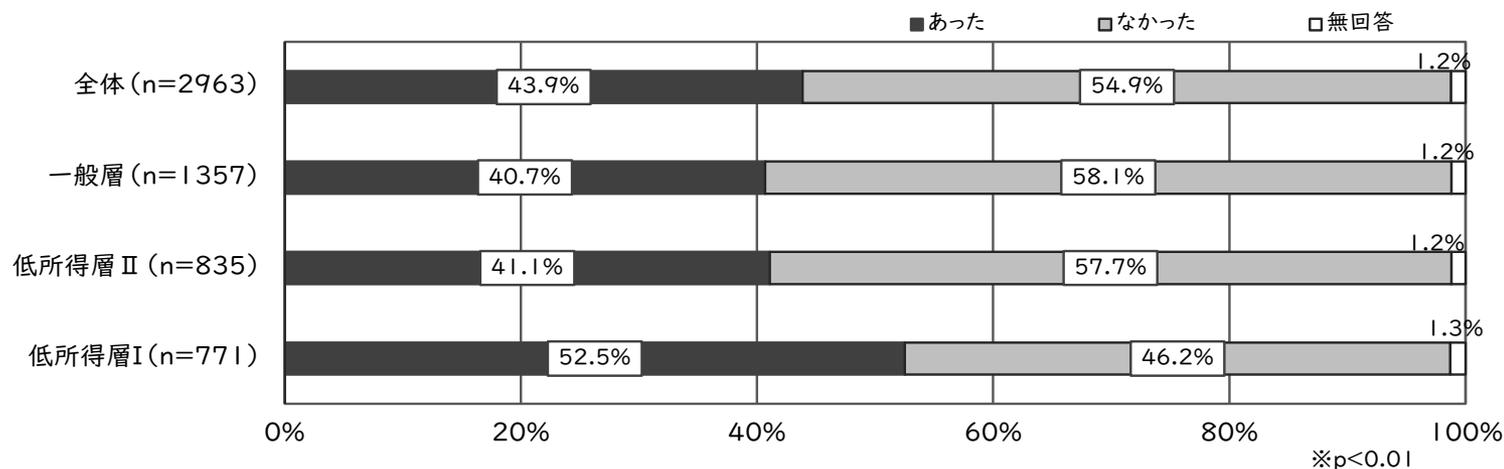


図5-3-2 【5歳児】過去1年間に、あなたが病院や歯医者に行きたいのに行けなかったことがありましたか



5-6 保護者が病院などを受診できなかった経験（経年比較）

保護者自身の受診抑制について経年比較したところ、1歳児、5歳児の保護者とも約2ポイント増えています。

図5-3-3 【1歳児】過去1年間に、あなたが病院や歯医者に行きたいのに行けなかったことがありましたか

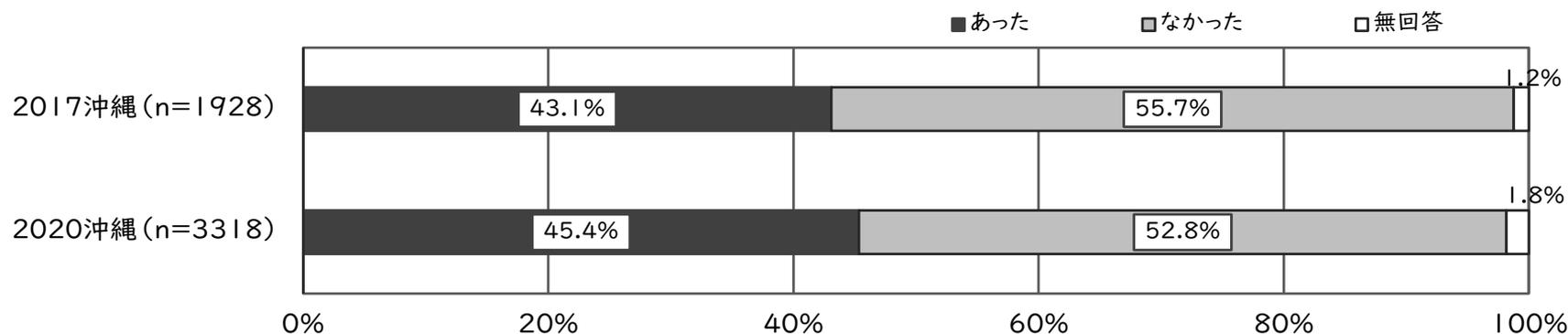
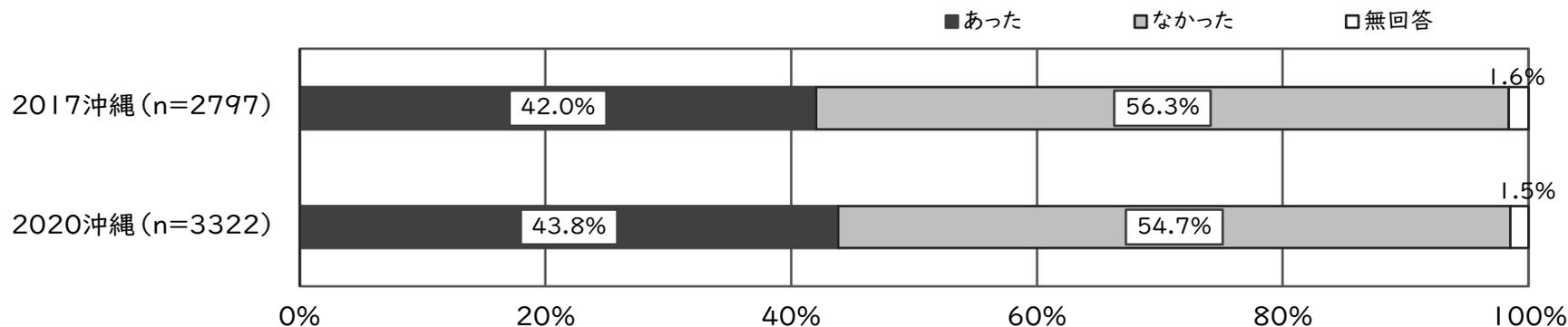


図5-3-4 【5歳児】過去1年間に、あなたが病院や歯医者に行きたいのに行けなかったことがありましたか



5-7 保護者が病院などを受診できなかった経験（1歳児）

受診できなかった理由を複数選択で尋ねたところ、低所得層Ⅰが他の層より多かった項目は「家計が苦しかった」です。1歳児保護者の43.8%、5歳児保護者の47.9%が理由としてあげています。これは、1歳児保護者では、一般層の9.1倍、低所得層Ⅱの1.8倍であり、5歳児保護者では、一般層の6.5倍、低所得層Ⅱの2.1倍となっています。

図5-3-5 【1歳児】（保護者）その理由を教えてください（複数選択）

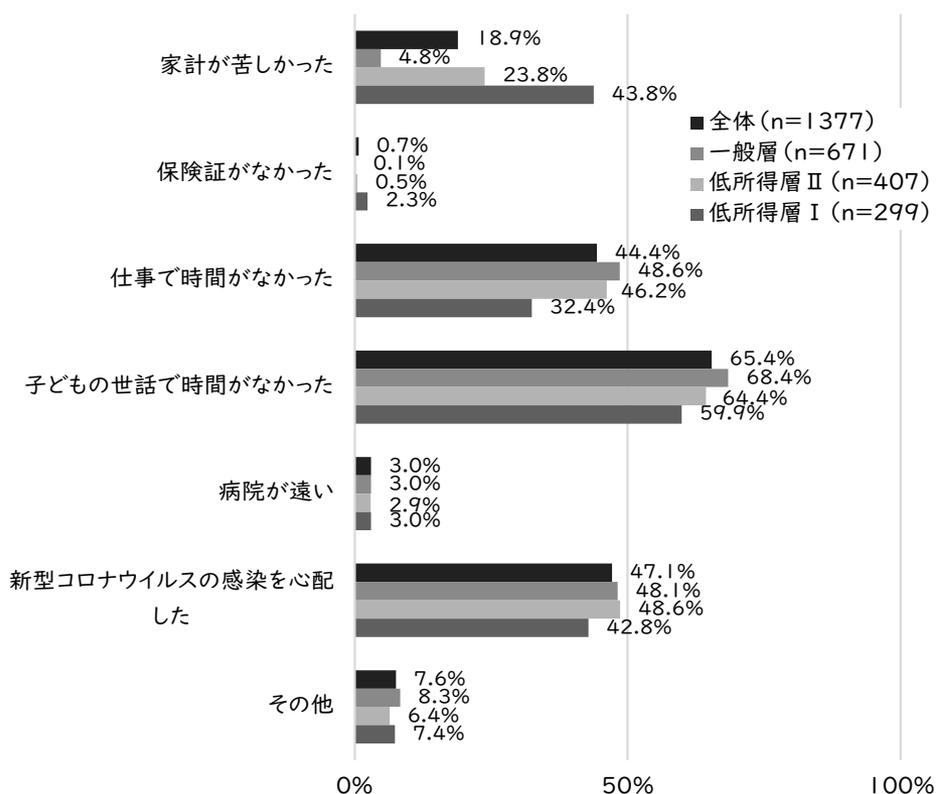
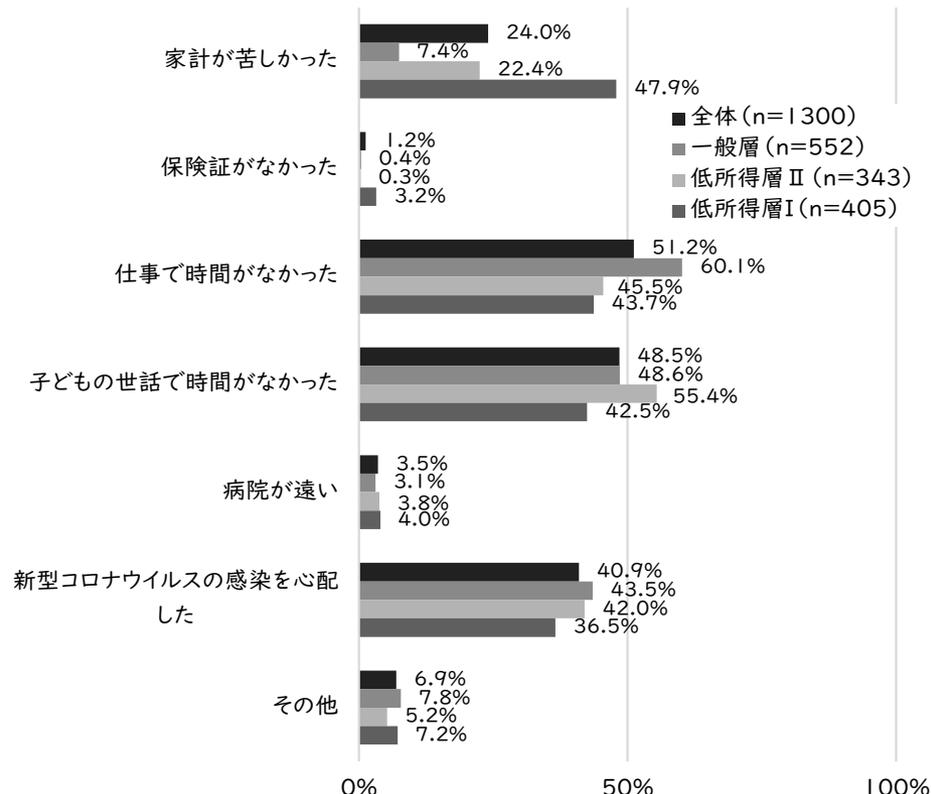


図5-3-6 【5歳児】（保護者）その理由を教えてください（複数選択）



※「家計が苦しかった」「保険証がなかった」「仕事で時間がなかった」は $p < 0.01$ 、「子どもの世話で時間がなかった」は $p < 0.05$ 、それ以外は有意差なし

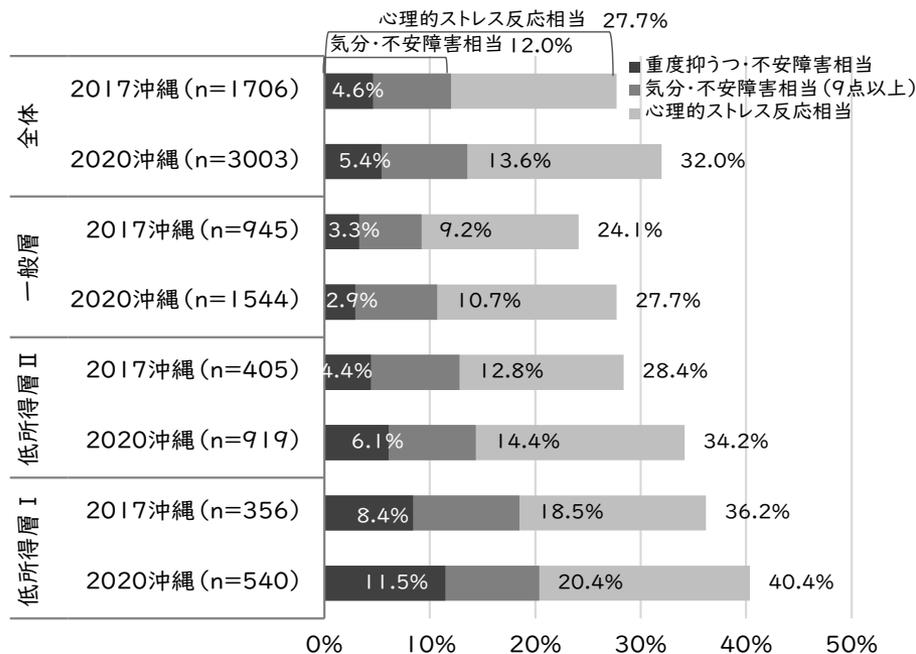
※「家計が苦しかった」「保険証がなかった」「仕事で時間がなかった」「子どもの世話で時間がなかった」は $p < 0.01$ 、それ以外は有意差なし

5-8 抑うつ傾向

抑うつや不安感の有無を評価するために、K6といわれる評価尺度を用いて保護者に質問をしています。高得点ほど抑うつ傾向や不安感が強いと考えられます。5点以上で心理的ストレス反応相当、9点以上では中等度の気分・不安障害相当、13点以上になると重度抑うつ・不安障害相当を示しているとの評価になります。

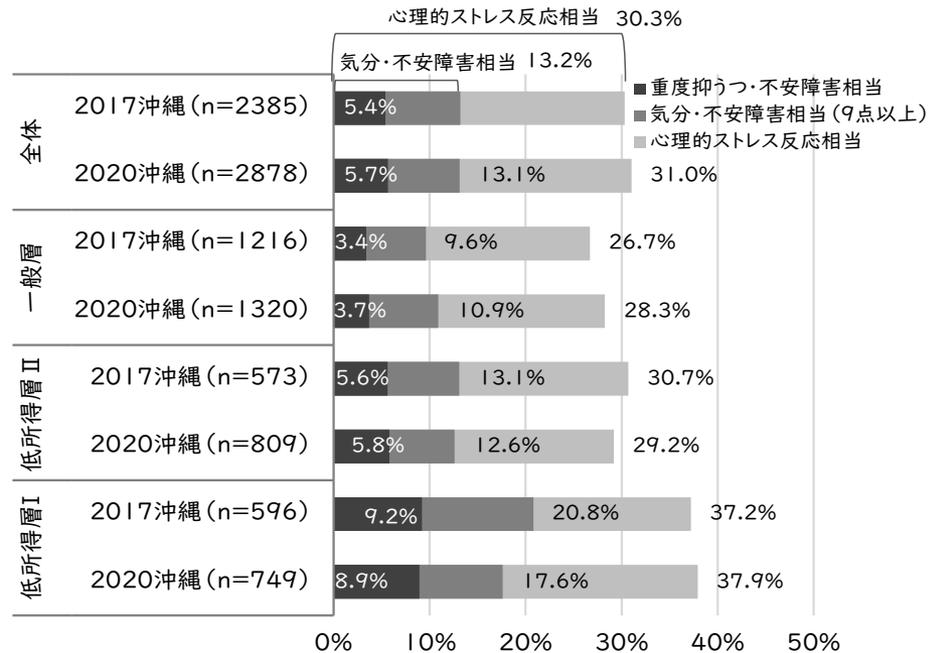
図5-4-1と図5-4-2では、1歳児、5歳児とも所得が低くなるほど抑うつ傾向が強まることを示しています。経年比較すると、1歳児保護者では、一般層の重度抑うつ・不安障害相当以外はすべての区分で2020年沖縄県調査のほうが高い指標を示しています。

図5-4-1 【1歳児】保護者の抑うつ傾向



※2020年沖縄県調査は、すべてp<0.01 (2017年沖縄県調査は検定なし)

図5-4-2 【5歳児】保護者の抑うつ傾向



※2020年沖縄県調査は、すべてp<0.01 (2017年沖縄県調査は検定なし)

5-9 抑うつ傾向（世帯類型別）

世帯類型別に見ると、ふたり親世帯と比べてひとり親世帯の保護者が有意に抑うつ傾向が強く、1歳児のひとり親世帯では、「気分・不安障害相当」が25.5%、「重度抑うつ・不安障害相当」が14.4%にも上っています。

図5-4-5 【1歳児】保護者の抑うつ傾向（世帯類型別）

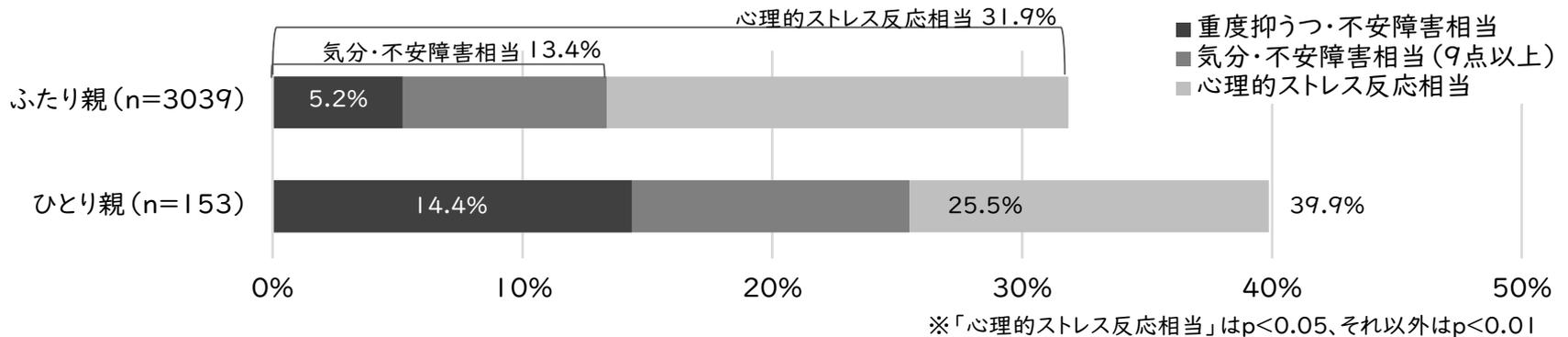
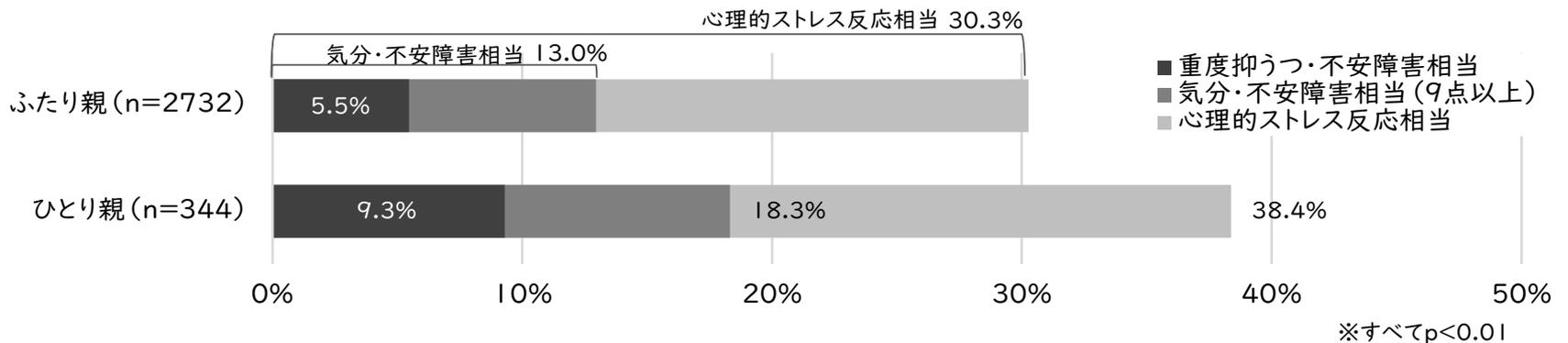


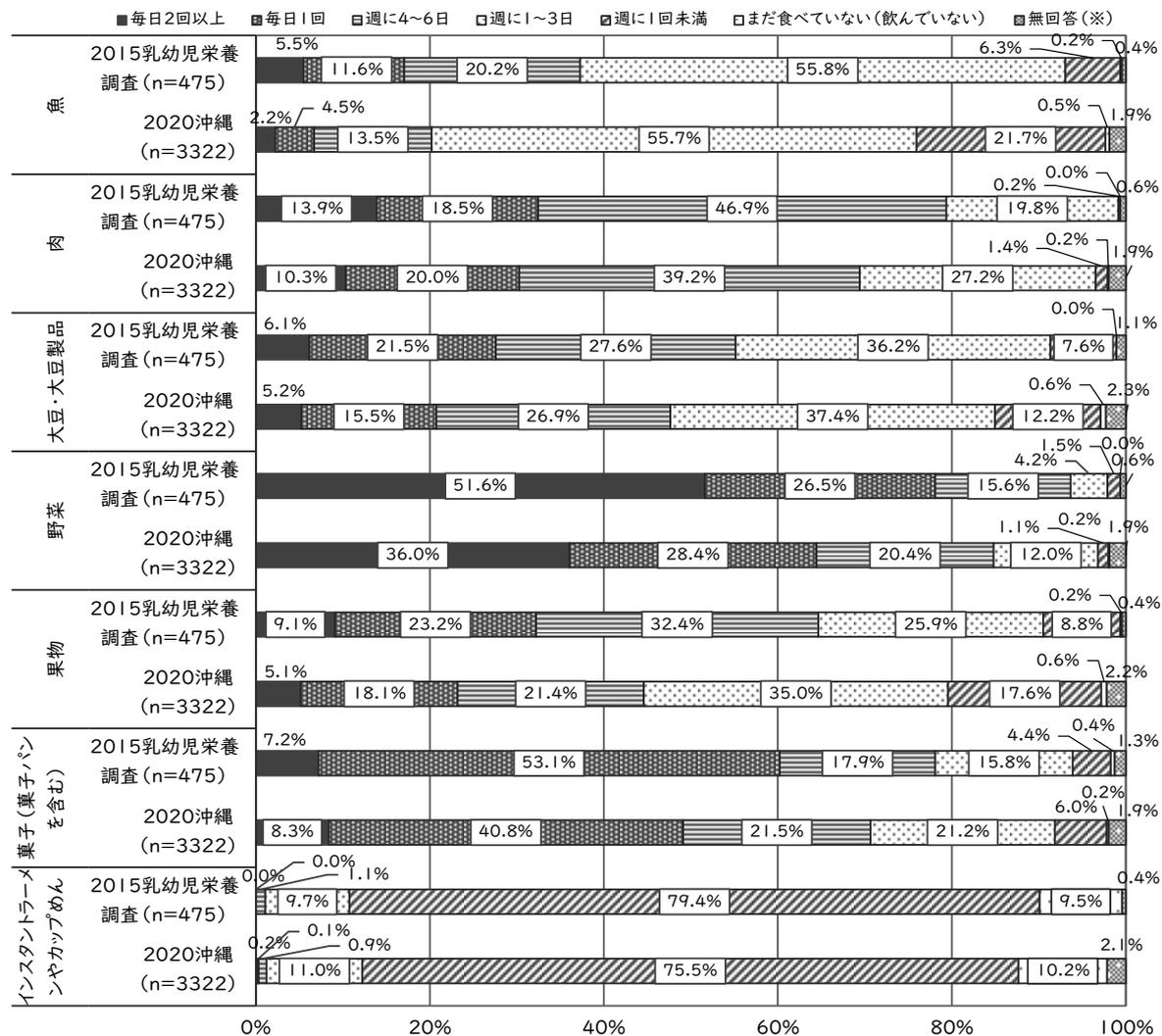
図5-4-6 【5歳児】保護者の抑うつ傾向（世帯類型別）



5-10 食（5歳児）

全国の5歳児を対象とした調査（厚生労働省「平成27年度乳幼児栄養調査」）と比べると「魚」「大豆・大豆製品」「野菜」「果物」「菓子（菓子パンを含む）」を食べる頻度が低くなっています。

図5-7-8 【5歳児】お子さんは次の食べものをどのくらいの頻度で食べていますか



※「無回答」…2015年度乳幼児栄養調査では、「不詳」

第6章

ふだんの暮らしと過去の経験

6-1 現在の暮らし

経済状況別では所得が低い世帯ほど生活が苦しいと答える割合が高く、特に低所得層Ⅰについては、1歳児では19.0%が「大変苦しい」、43.2%が「やや苦しい」、5歳児では18.3%が「大変苦しい」、46.6%が「やや苦しい」と答え、生活の厳しさがうかがえました。

図6-1-1 【1歳児】あなたは、ご家庭の現在の暮らしの状況をどのように感じていますか

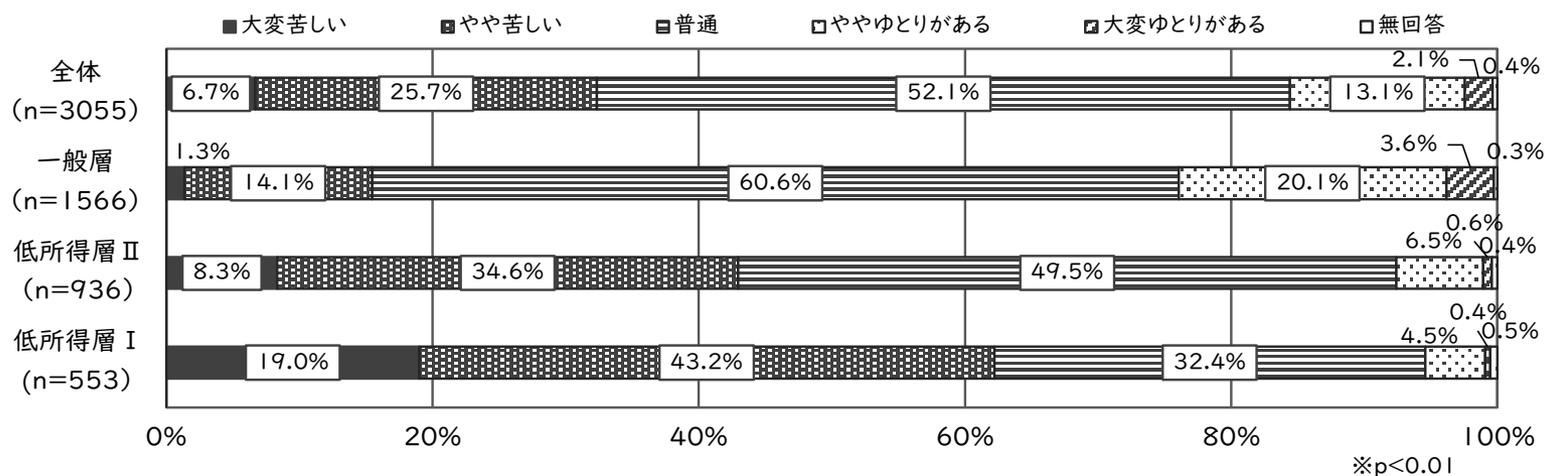
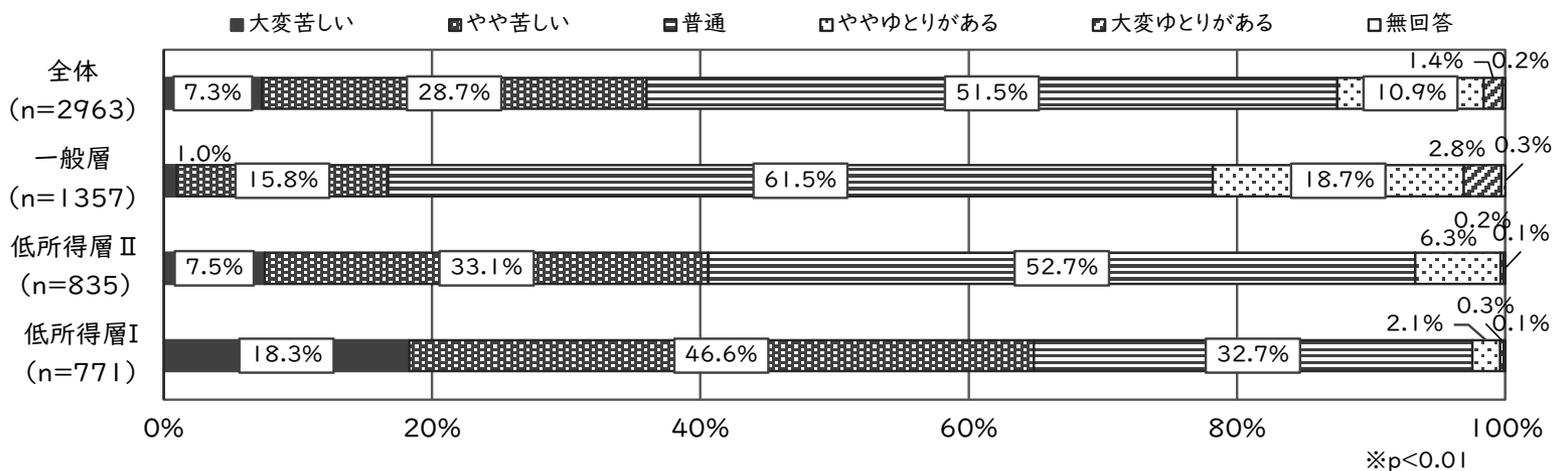


図6-1-2 【5歳児】あなたは、ご家庭の現在の暮らしの状況をどのように感じていますか



6-2 滞納経験

経年比較したところ、すべての項目で改善が見られ、1歳児の「電気代またはガス料金」は約5ポイント、5歳児の「電気代またはガス代」「電話料金」は約5～6ポイントと改善幅の大きい項目もありました。

※ただし、2017年沖縄県調査では、「電気代またはガス料金」「電話料金」「家賃または住宅ローン」の3項目での滞納経験を尋ねていることから、経年比較のために、2020年沖縄県調査では、「電気料金」「ガス料金」のいずれか一つ以上があったものと、2017年の「電気代またはガス料金」を比較しました。「家賃」と「住宅ローン」についても同様です。

図6-3-15 【1歳児】滞納経験

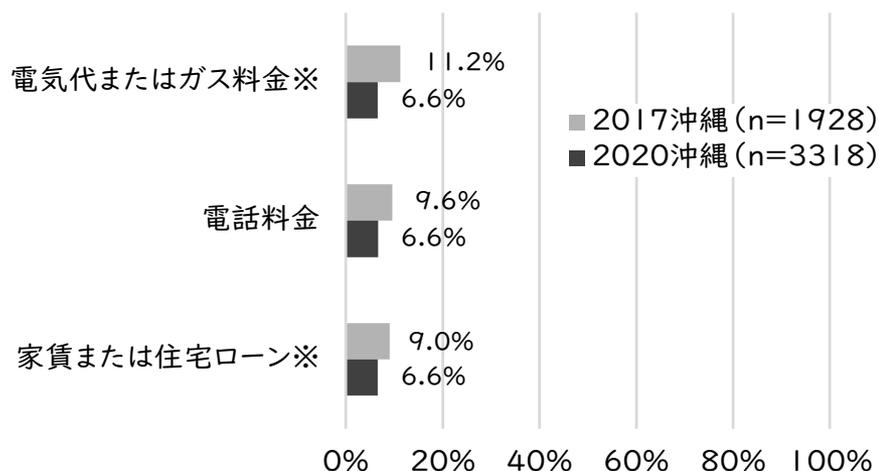
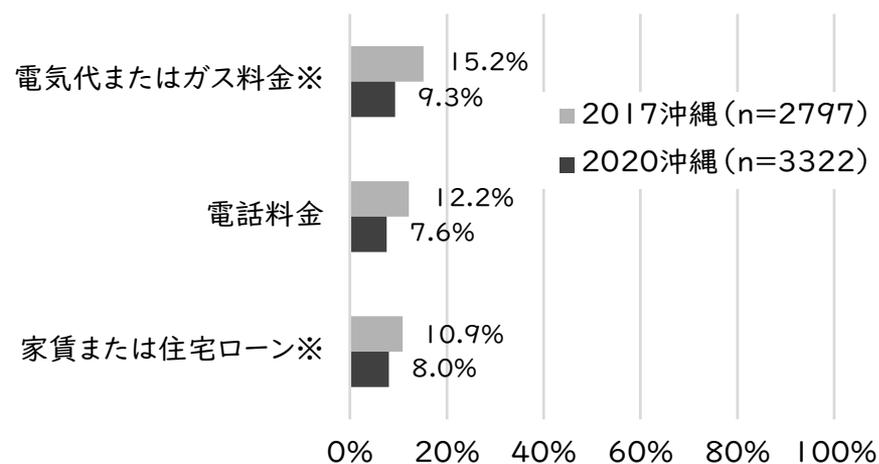


図6-3-16 【5歳児】滞納経験



※2017年沖縄県調査と、2020年沖縄県調査で質問内容が異なっていたため、2020年沖縄県調査において、「電気代またはガス料金」は、「電気料金」「ガス料金」を、「家賃または住宅ローン」は、「家賃」「住宅ローン」をいずれか一つでも「あった」と回答した人の割合で算出した

6-3 食料が買えなかった経験

「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」とする割合をみると、全体では、1歳児が17.0%、5歳児が19.5%でした。同様に経済状況別に見ると、低所得層Iでは1歳児が43.4%、5歳児が43.5%となっています。

図6-4-1 【1歳児】食料が買えなかった経験

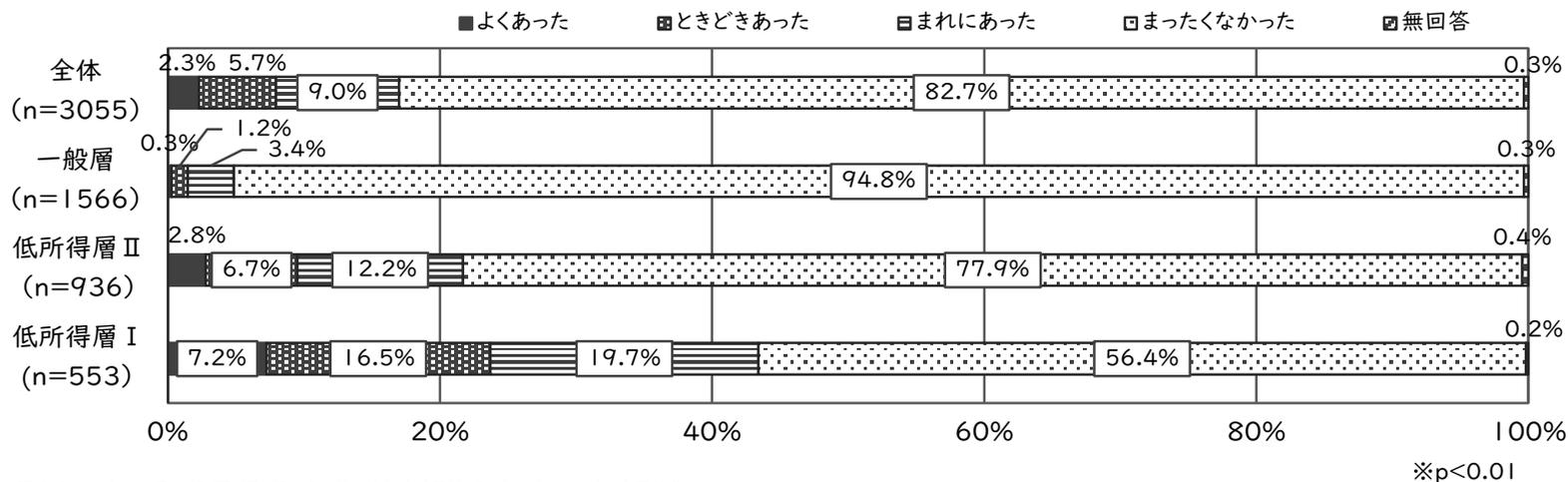
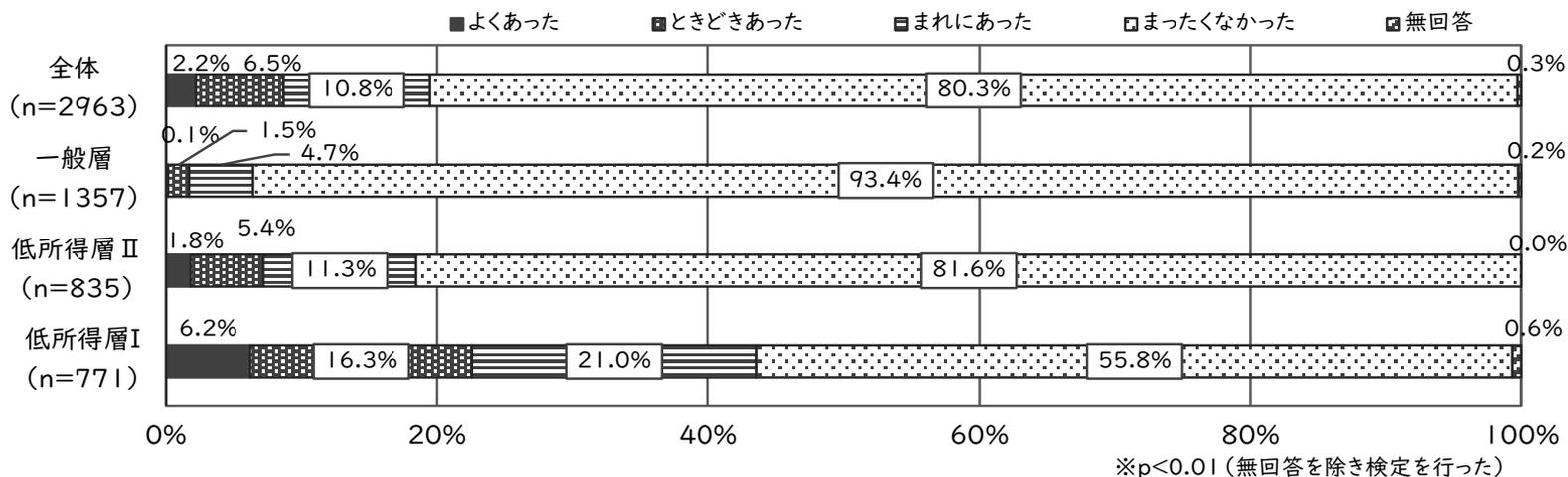


図6-4-2 【5歳児】食料が買えなかった経験



6-4 衣料が買えなかった経験

「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」とする割合をみると、全体では、1歳児が22.8%、5歳児が26.5%でした。同様に経済状況別に見ると、低所得層Ⅰでは1歳児が52.6%、5歳児が53.3%となっています。

図6-4-3 【1歳児】衣料が買えなかった経験

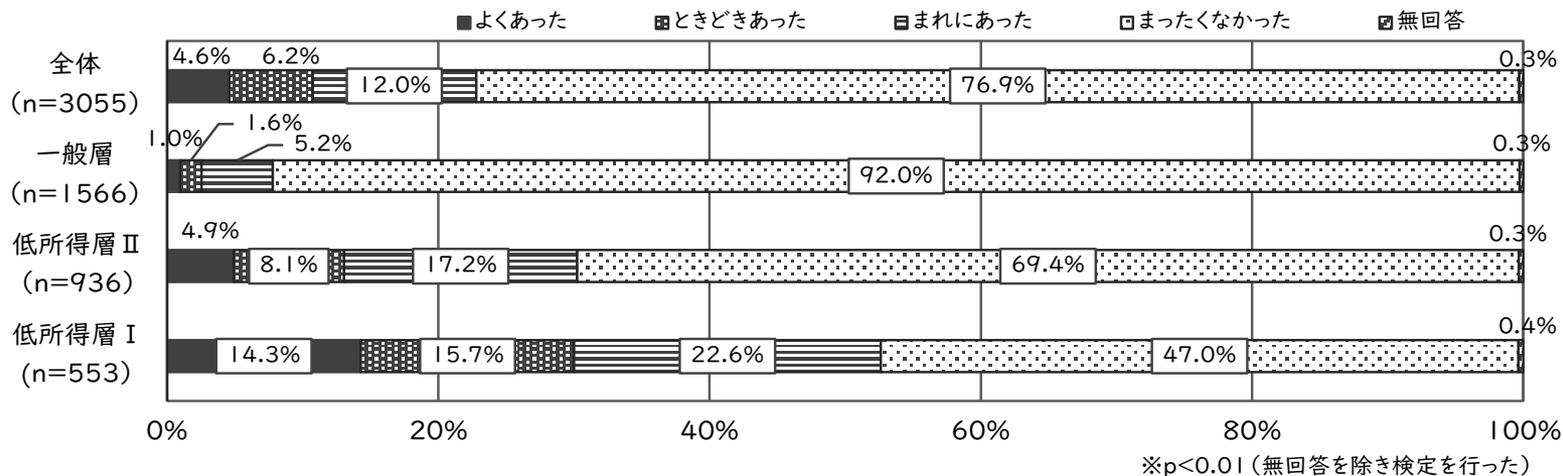
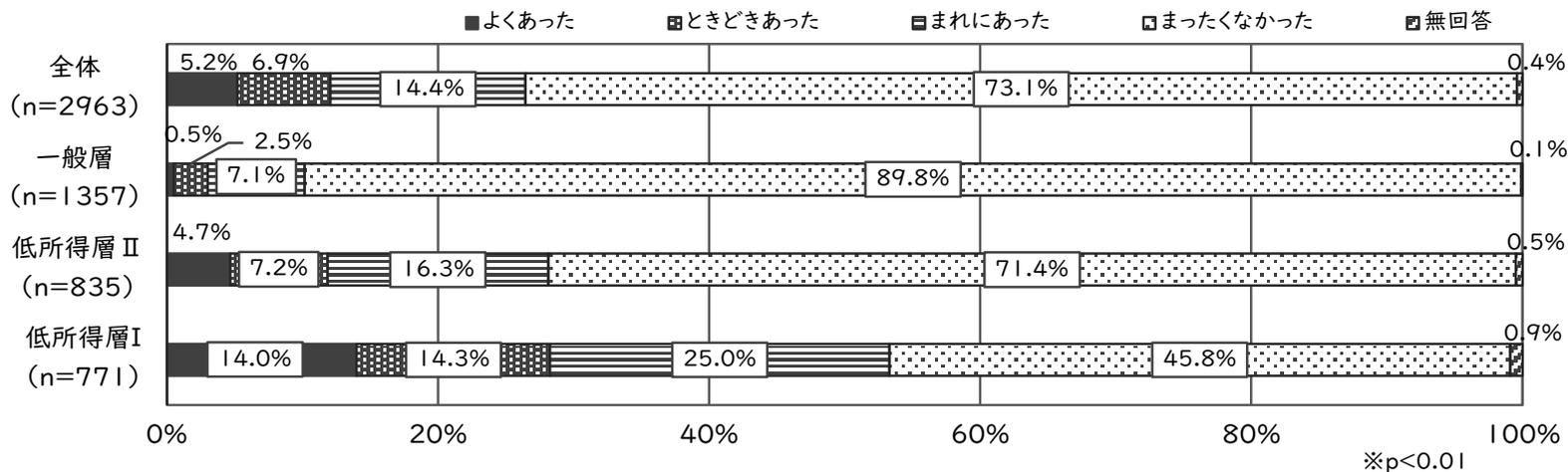


図6-4-4 【5歳児】衣料が買えなかった経験



6-5 相談相手①

「子育てに関する相談」（図6-5-1、図6-5-2）について、1歳児においては所得階層にかかわらず約9割が相談相手が「いる」としていますが、5歳児になると低所得層Ⅰで9割を下回ります。「重要な事柄の相談」（図6-5-3、図6-5-4）は、「いる」と回答した割合は1歳児の低所得層Ⅰで83.4%と所得が低くなるほど低下し、5歳児になると低所得層Ⅰは一般層と比べ約10ポイント低下しています。

図6-5-1 【1歳児】子育てに関する相談

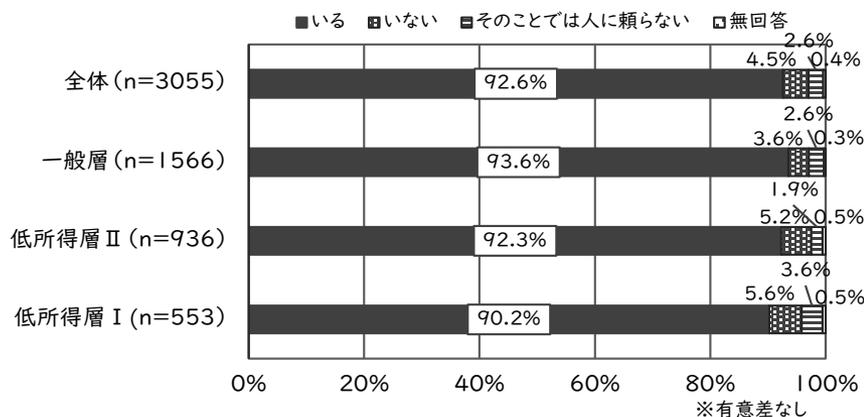


図6-5-2 【5歳児】子育てに関する相談

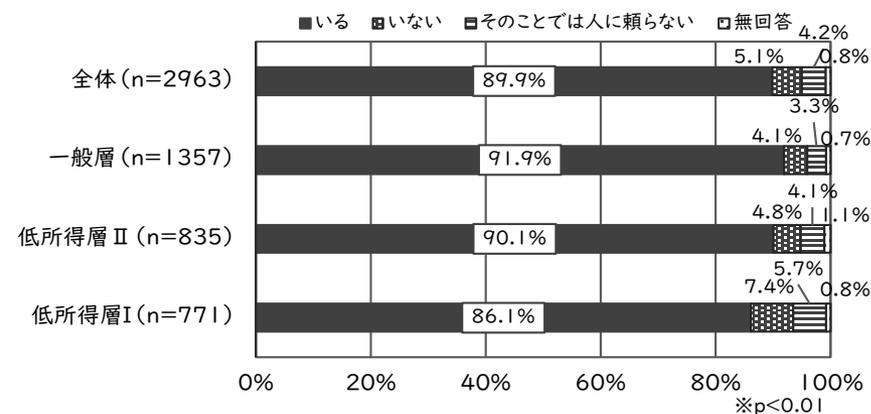


図6-5-3 【1歳児】重要な事柄の相談

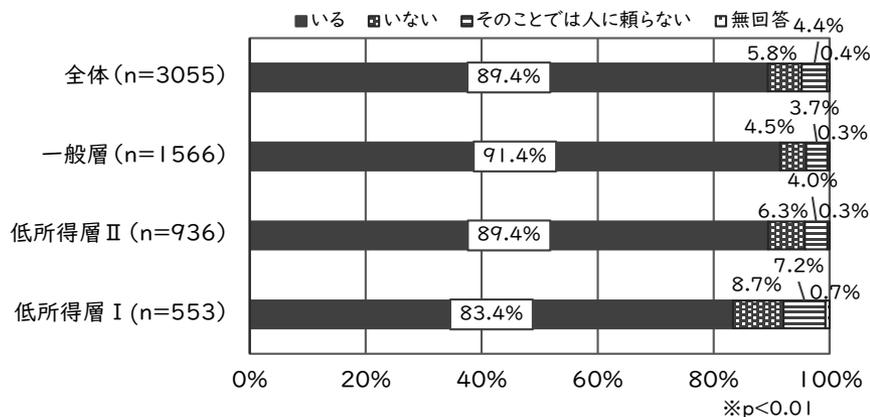
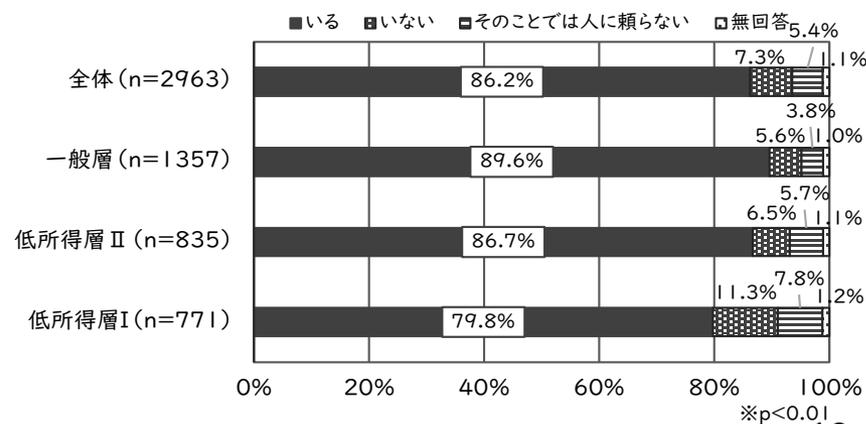


図6-5-4 【5歳児】重要な事柄の相談



6-6 相談相手②

「いざという時のお金の援助」（図6-5-5、図6-5-6）は、相談相手が「いる」と回答した割合は、一般層で1歳児65.2%、5歳児58.9%に対し、低所得層Iでは、それぞれ51.5%と45.1%に低下しています。

また、「子供の貧困対策大綱」（2019年）による全国のひとり親世帯のデータ（子どもの年齢は0～18歳未満の合計）と比較すると（図6-5-9）、沖縄県における5歳児の「いざという時のお金の援助」の相談相手がいない世帯の割合が高くなっています。

図6-5-5 【1歳児】いざという時のお金の援助

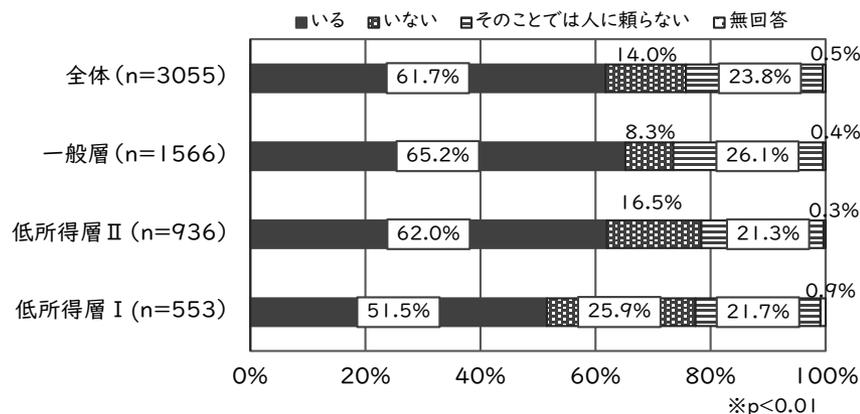


図6-5-6 【5歳児】いざという時のお金の援助

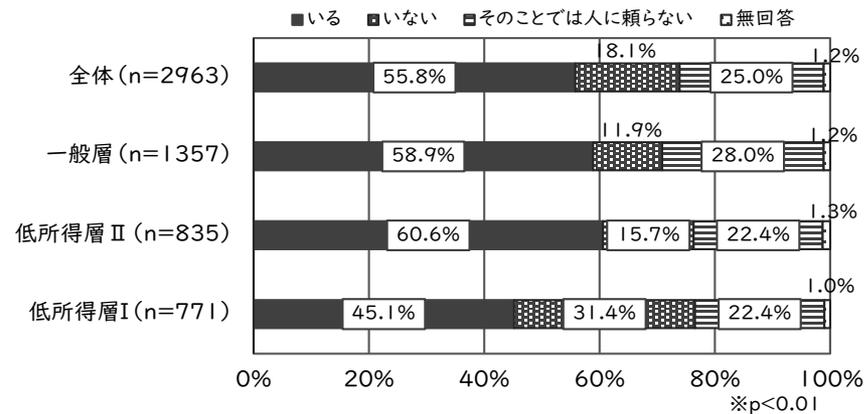
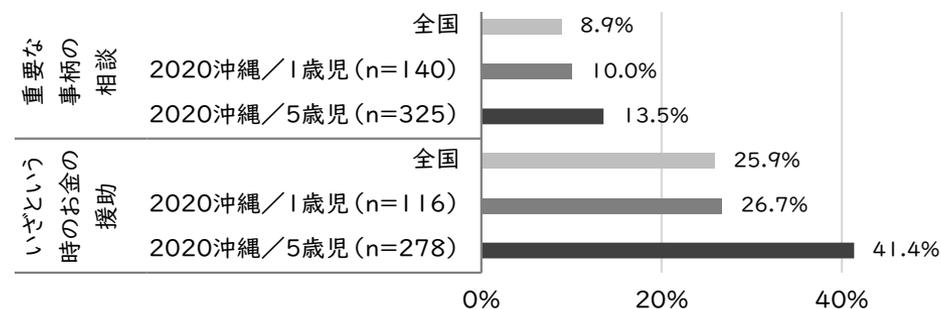


図6-5-9 【ひとり親世帯】頼れる人 —「いない」の割合—



6-7 小学校就学に向けて（5歳児）

5歳児の保護者に小学校入学に向けての準備について尋ねた結果が図6-8-1～図6-8-3です（図6-8-2と図6-8-3は次頁）。

「学用品やランドセルの購入費用が不足しそう」について、「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合は全体で21.8%でした。

同様に、「小学校での生活になじめるか心配」は46.9%、「放課後過ごす場所に不安がある」は45.7%となっています。

また、経済状況別に見ると、それぞれ低所得層ほど「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合が高くなっていることがわかります。

図6-8-1 【5歳児】学用品やランドセルの購入費用が不足しそう

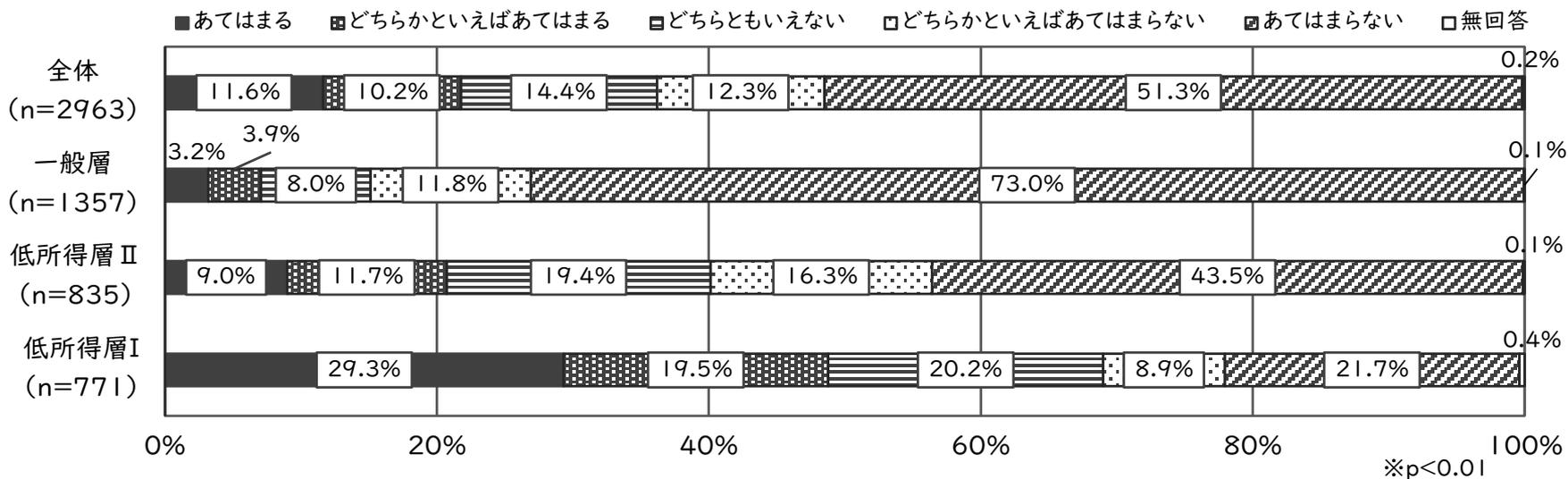


図6-8-2 【5歳児】小学校での生活になじめるか心配

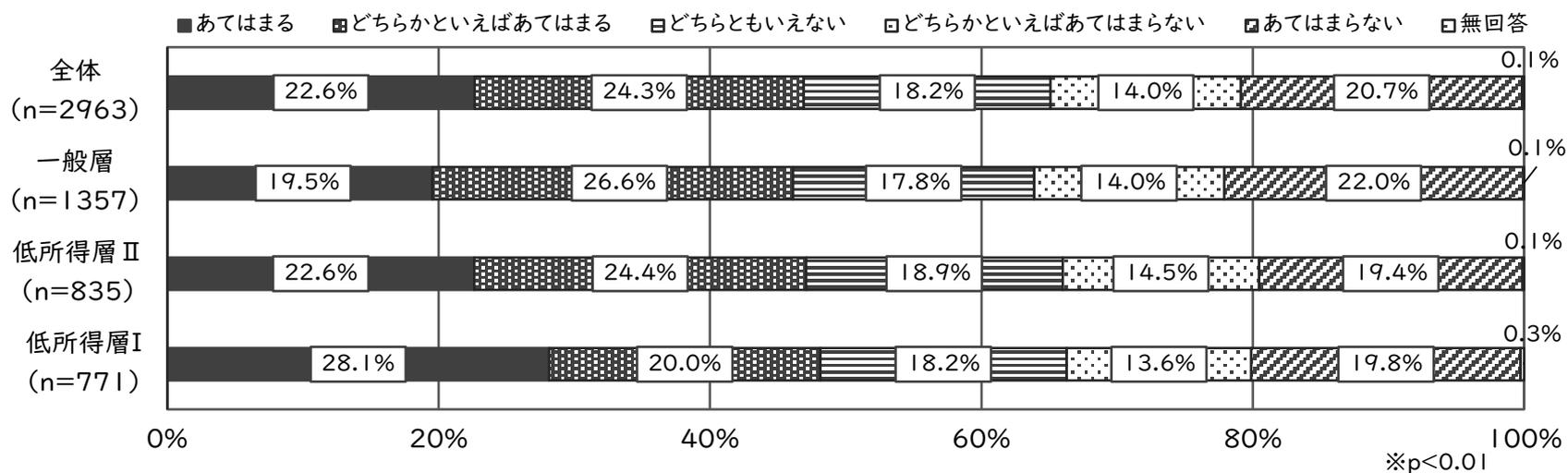
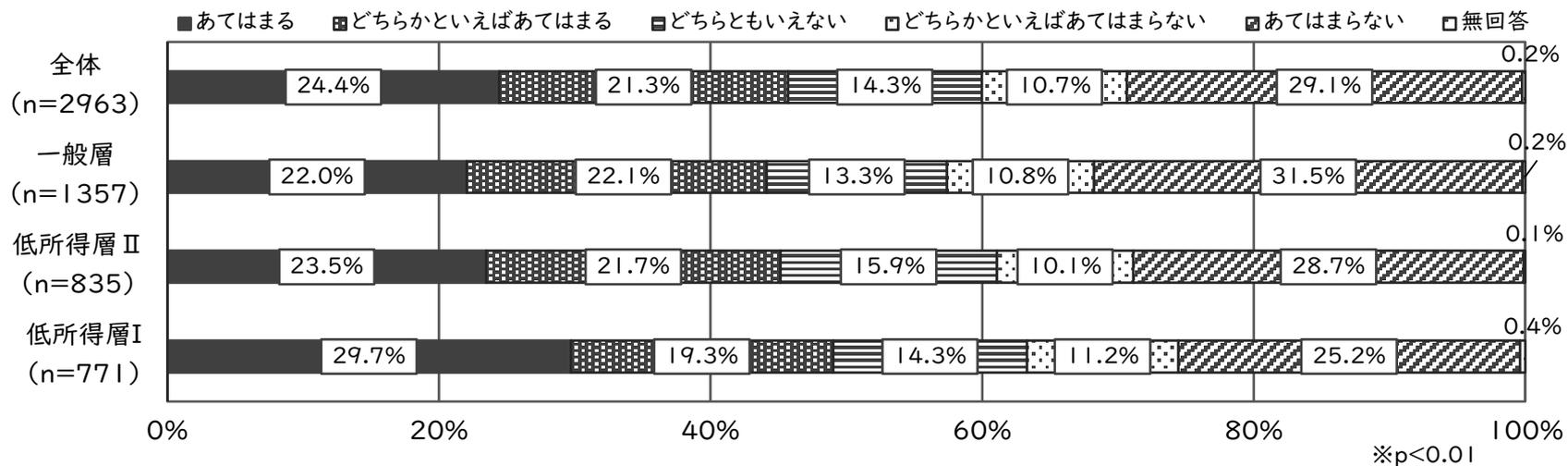


図6-8-3 【5歳児】放課後過ごす場所に不安がある



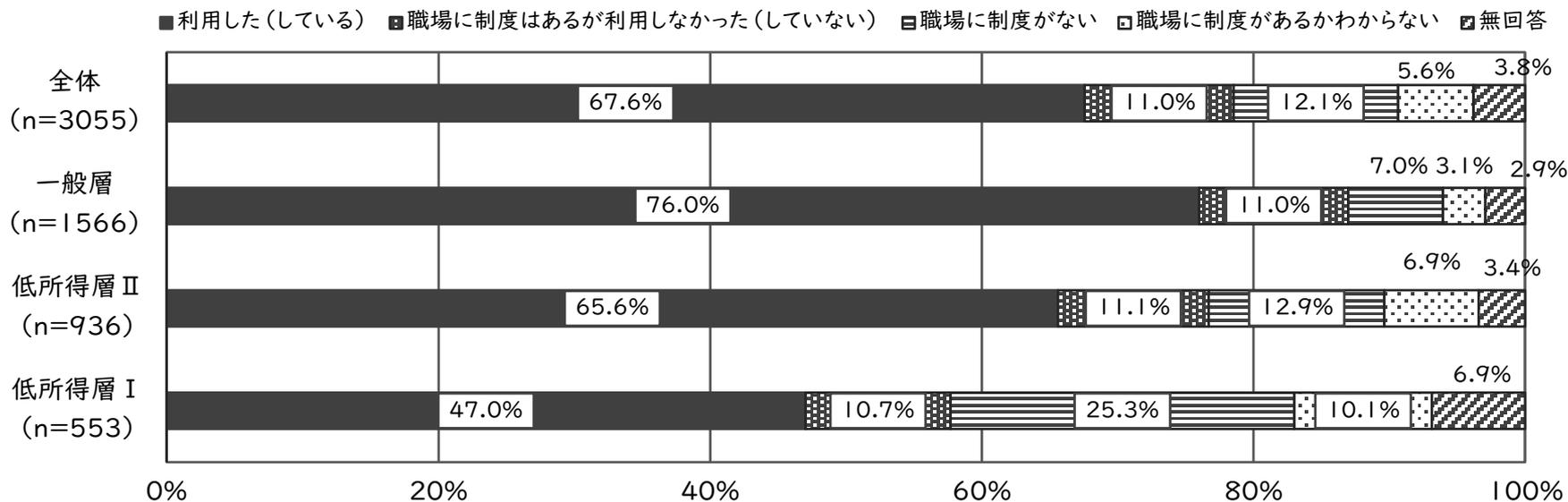
第7章

制度の利用状況

7-1 産休・育休制度などの利用状況（産前・産後休業制度（1歳児））

産前・産後休業制度について、一般層の76.0%が「利用した（している）」と回答しているのに対し、低所得層Iでは半数以下の47.0%となっています。また、低所得層Iの25.3%が「職場に制度がない」と回答しています。

図7-1-1 【1歳児】産前・産後休業制度



※p<0.01

7-2 公的制度の利用状況（生活福祉資金貸付金）

生活福祉資金貸付金を「利用したことがある・利用している」と回答した割合は、低所得層Ⅰの1歳児で9.4%、5歳児で7.7%と、2019年に沖縄県が高校生を対象に実施した子ども調査の困窮層4.4%と比べると、約3～5ポイント上回りました。

図7-2-5 【1歳児】生活福祉資金貸付金

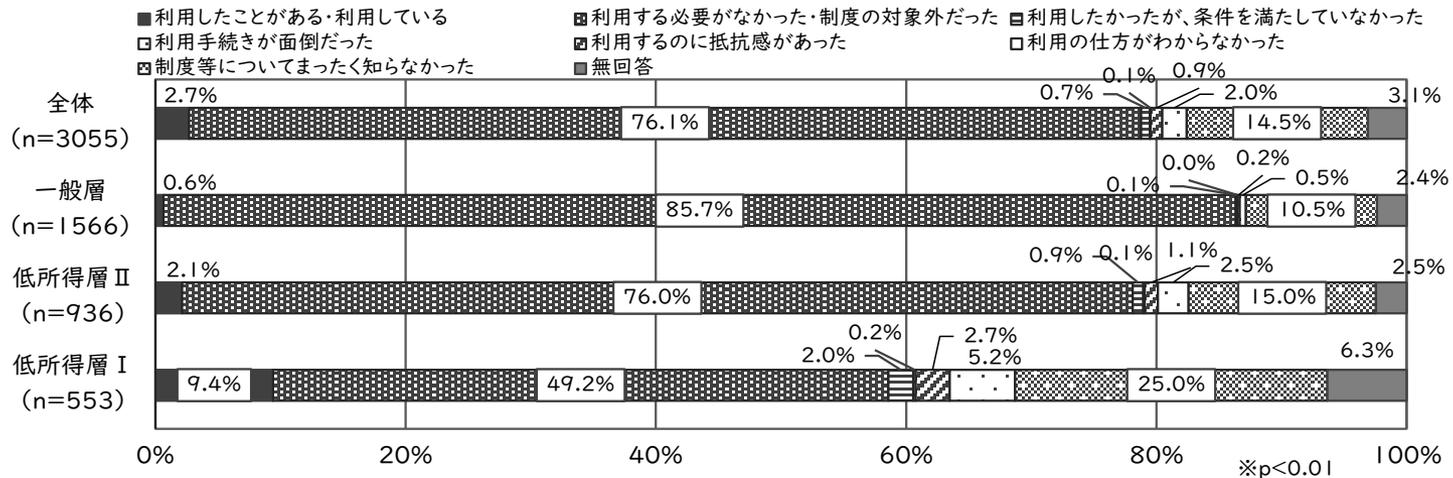
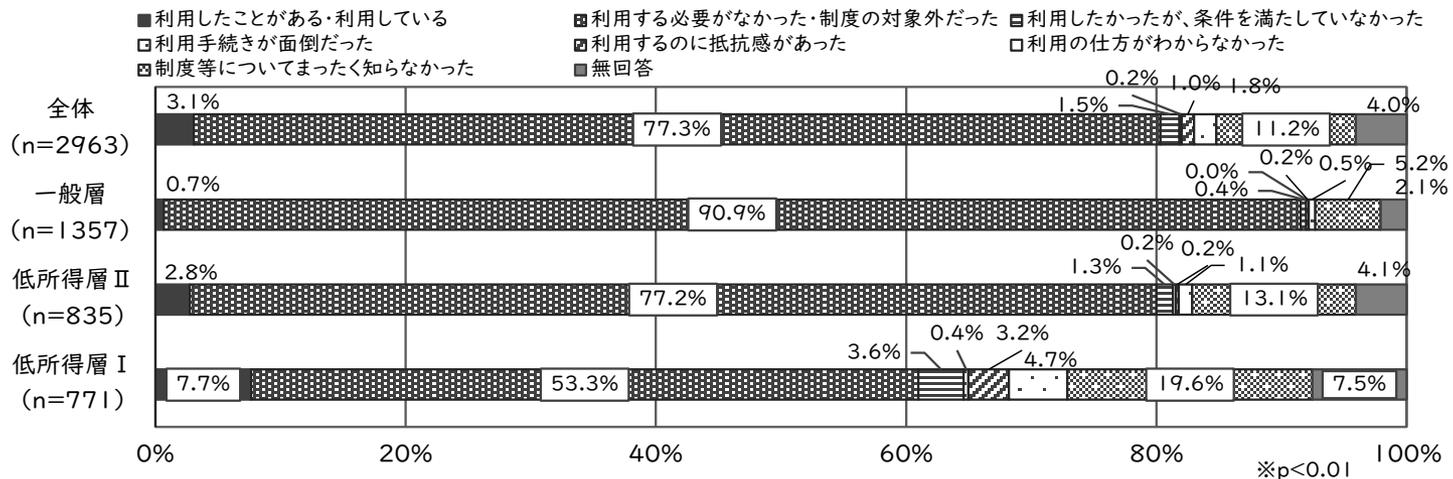


図7-2-6 【5歳児】生活福祉資金貸付金



7-3 公的機関などへの相談（保育所・幼稚園の先生）

子育てで困ったときに公的機関などに相談したことがあるかを尋ねました。

「保育所・幼稚園の先生」に「相談したことがある」割合は、1歳児一般層で64.4%、低所得層Ⅱで59.4%、低所得層Ⅰで53.9%であり、所得が低くなるほど相談経験は少なくなる傾向にあります。同様の傾向は、5歳児にも見られました。

図7-4-1 【1歳児】保育所・幼稚園の先生

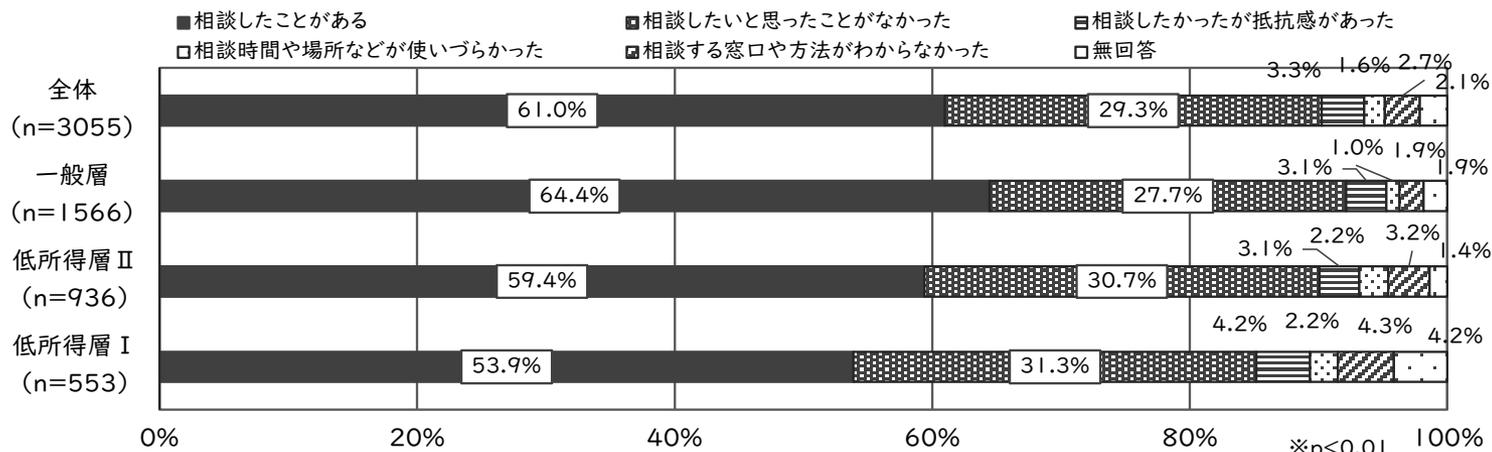
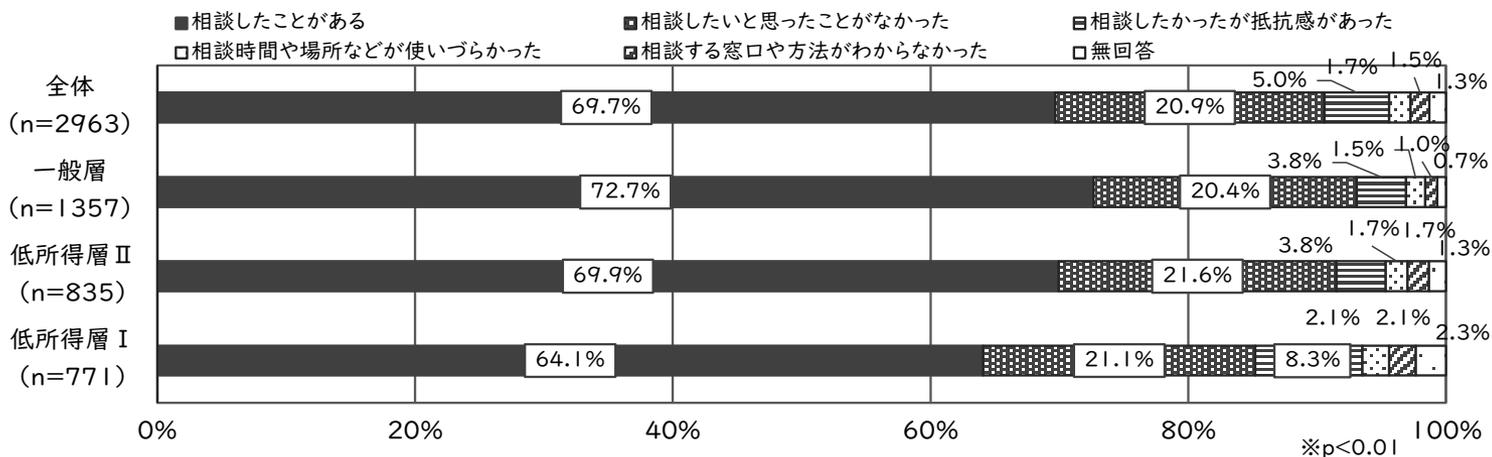


図7-4-2 【5歳児】保育所・幼稚園の先生



7-4 公的機関などへの相談（市町村役場の窓口）

「市町村役場の窓口」については、「相談したことがある」割合は、1歳児一般層で10.5%、低所得層Ⅱで11.3%、低所得層Ⅰで13.9%、5歳児では一般層で12.1%、低所得層Ⅱで8.9%、低所得層Ⅰで11.8%でした。

図7-4-7 【1歳児】市町村役場の窓口

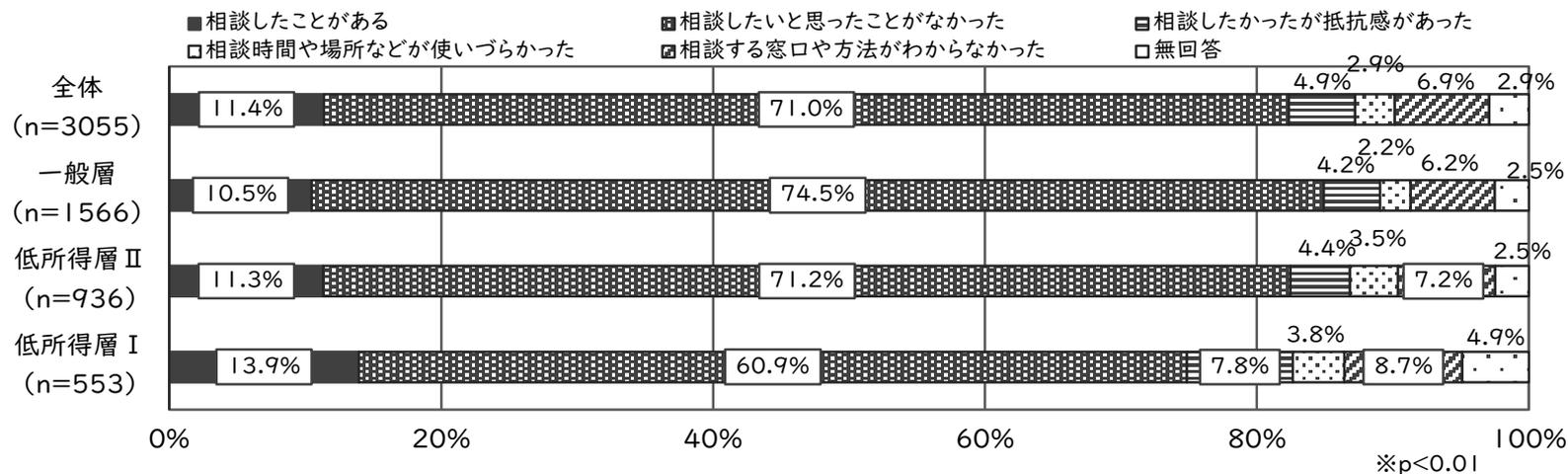
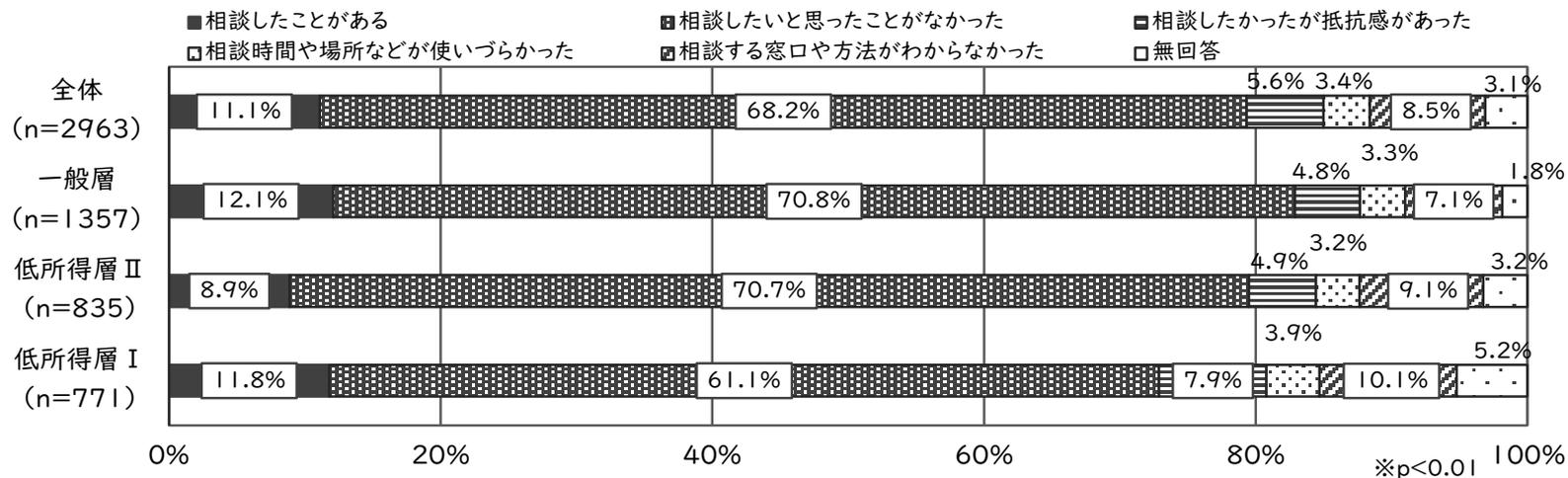


図7-4-8 【5歳児】市町村役場の窓口



自由記述

(一部抜粋)

待機児童問題

●働きたいけど保育園に入れない（認可外も含め）。保育園に入れないから働けない。仕事が決まって入園希望だったのに落ちたので入職をキャンセルしました。待機児童問題少しでも良い方向に解決してほしいです。

◆小規模離島です。子どもを預ける場所がありません。保育所は公立のみ、2歳から。それまで預け先がありません。公立幼稚園も預かりがありますが、夏・冬休み、春休みに預かりのない期間があり、その時期はファミサポも足りなくなり激戦。結局仕事を休まざるを得ない。改善してほしい。

◆待機児童問題は、マスコミにクローズアップされてから急ピッチで国・行政側は動き始めましたね。すごい勢いで園など新設立されていますが、保育士不足は解消されていますか？園児たちは安全のなかで保育されているのでしょうか？行政側はしっかりと現場の状況に向かい改善されていますか？

今年私たちは、幼稚園の担任が2度も代わったり、加配教員が退職したり、その後の代替りの先生は専門職ではない方？などと、まさに今の保育士不足の影響を身をもってうけた上半期となりました。それぞれの理由があるとは思いますが、加配教員が足りない状況のなか、子どもを預けることへの親の不安などもっと重要視していただきたい。

新型コロナウイルスでの対応

● 現在、第2子の育休取得中で、上の子の保育園は時間短縮で利用している。コロナ禍で家庭保育の協力依頼が出ているため、現在は家庭保育を行っているが、保育園から園は安全ではないため、育休中で家に親がいるなら家庭保育するようにと結構きつめに言われた…保育料も支払っているのにそんな言われ方をされて納得いかない。

● コロナにかかわらず、育休中は、お母さん、今お仕事休まれてるんですよね？おうちでみれますよね？と気軽に言われる一言が、とてもストレスに感じるときがある。好きで仕事休んでる訳じゃないし、産後の体調回復もしていないなか、朝から晩まで子どもたちとマンツーマンで向き合っただけでフルで体力も神経も使い切っているのに、育休中ってだけで楽をしていると思われる認識を改善させることはないのでしょうか？

保育士の処遇

● 保育士の待遇改善で共働き世帯の支援をしてほしい。待遇改善でなり手を増やし、保育園・幼稚園での預り保育時間を延長するなど。そうすることで安心して父親・母親とも仕事に専念できる。一億総活躍社会をしっかりと実現させてほしい。

● 子どもが好きで保育士をしているが、勤務がシフトのため、夕食の時間もバラバラになったり、遅番のときには帰宅して寝かしつけまでに30分しかなかったりするので、決まった時間で働ける家庭と比べ、自分の子どもに負担をかけていると思う。

土曜保育

◆ 保育園は“働く親”のためだとはわかりませんが、育休中などの時短は正直きつかった。土曜日も預けづらくなったし、子どものためだとはわかるし、“家事を見せるのも教育の一環”という言い分もわかる。でも、働く母親はまったくひとときのリフレッシュ時間もないのかと思うと、とてもつらい。

◆ 土曜日も預けたいが、保育園の受け入れが厳しく、仕事が休みの土曜日に預けて用事をすませたいがそれができない。仕事休みの日に、自分一人の時間を半日でもいいからゆっくり過ごし、気持ちをリフレッシュさせたいが、預けることができないので、常にストレスがたまり、子育て中にイライラし、子どもに優しくできない自分にも悲しくなるのが現状。

保育料、幼児教育・保育の無償化

◆ 幼児保育無償化対象を0歳からにしてほしい。もしくは、3人目以降の保育料無償化について対象世帯には年収の縛りがあるがなくしてほしい。うちは上が小学3年生未満×3人、1番下が1歳だが、0～3歳の保育料、学校給食費、学童代だけで月6万5000円となり、家計を圧迫している。

◆ 子どもが多いため、前は保育料と給与を比べ、「働くべきか」悩むこともありましたが、保育無償化のおかげで、迷いなく働け、もう一人産むこともできました。今後、学童の料金補助なども増えると助かります。

子育て支援センター

● 育休中に支援センターを利用しましたが、家庭で一人で保育していると気が滅入ることもあり、支援センターの存在はありがたかったです。公的に一時預かり保育を実施してくれる施設が増えると気軽に利用しやすい。

● 子育て支援センターの情報や特徴、初回利用時などにもう少し行きやすい対策（入り口をもう少し入りやすく）などがあると、家に閉じこもりっきりにならず母親（もしくは父親）が孤立しないのではないかと感じています。どうぞよろしくお願いします。

放課後児童クラブ（学童保育）

◆ 来年1年生になりますが、放課後の学童の金額が心配です。特に夏休みなど、保育園ぐらいの金額がかかるので、もう少し支援があると心強いと思います。金額が高いため、預けない家庭も多いと思う。小学低学年の間は安心して預けて仕事したいし、子どもものびのびと過ごしてほしいのでぜひ検討お願いします。

◆ 学童保育の補助がほしい時期がありました。ひとり親のため、保育園に下の子を通わせながら上の子を学童に入れる必要がありましたが、1か月1万4000円は払い続けるのが厳しく、途中であきらめざるを得ませんでした。

発達支援センターなど

● 私の息子は周りの子に比べ発語が遅く、発達に何かしらの問題があるように感じていますが、どの機関に、どうやって相談すれば良いのかわかりません。一度、保健師さんに相談しましたが、はっきりとした解答が得られず、モンモンとした気持ちになってしまいました。子どもの発達に関する相談先など、もう少し明確にしていだけたらうれしいです。

◆ 発達の相談で、小児精神科、発達支援センターへ電話しても、2か月以上待つ、または受付できないとの対応がほとんどでした。子どもの成長は待たなしなのに社会資源が利用したくてもすぐ受けられない環境にストレスを感じました。

◆ 我が子には知的障害がありますが、自分で調べて役所に行かないと手当など教えてはもらえないし、親子通園も知らず、支援学校、デイサービスについてもわからず。

手当でも対象なのか違うのか、必要な書類も多く、病院で診断書をもったり、保健所へ行ったり役所へ行ったり、児相へ行ったり、子連れで手続き、更新、とても大変です。もう少し簡素化したらと思います。

こども園も、加配の先生が足りず入園を拒否されたこともあります。人手不足かと思いますが、もっともっと充実してくれたら進路も選べるようになり、選択肢も広がり子どもの成長を伸ばしてあげられると思います。

●今日のアンケートで初めて「子の看護休暇」というものを知ったので、せめてその休暇をたくさんの職場へ普及させると良いなと感じた。いつも、市民のためにコロナ禍の大変ななかでも対応して頂いて本当にありがとうございます！

●社会保険料を払っていても非正規であれば産前・産後休業もなく退職を選択せざるを得ない。母親はやりたい仕事を選べない。家族のために仕事を選び、帰宅しても家族のために家事をする。母親になれば選択する権利はないように感じる。共働きがあたり前の世の中。それは仕方ないと思うが母の負担が大きいのでは？夫も協力できる職場環境を整えてもらわないと。世の中の母親はパンクします。

◆育休が2年取れるようになりました。しかし、それに伴い、1年目以降は「（上の子の）育休退園」の対象になったり、「待機」の上でないと育休給付金がもらえなかったりします。核家族・両親共働き、就労形態の不規則さ（夜勤）の状況などから、「もう少し子育てに専念したい」という思い、「仕事、家庭、育児の両立がハードすぎて戻るにはもう少し子どもが成長してから」という親の想いを汲んでいただき、「育休」のとり方、それに伴う制度がもっと潤うことを願います。

母親については、働く、働いていないにかかわらず、どの子どもたちも等しく保育で集団生活や社会性を学べる機会が支えてもらえるようになってほしいと思います。

● 毎日泣きながら暮らしています。
助けてください。

◆ 母子家庭だとなかなか子どもとの時間がとれなくて、子どもたちに寂しい思いをさせていると感じる。仕事が終わっても家事をすべて一人でやらないといけないので、家事に時間がとられてしまう。

◆ ひとり親世帯です。子どもが3人います。コロナの影響で子どもが休みになり仕事を休むことになり、年休（10日）を使いました。職場に休暇取得支援助成金について相談しましたが、まずは年休からと返答でした。私の年休は残り2日。年休がなくなれば欠勤です。給料から天引きです。ただでさえ苦しい家計なのに。この企業への制度を個人への制度にしてほしいです。

◆ 自分がストレスがたまり、子どもに大きな声で注意することでストレス発散している気がする（やってはいけないとわかっているのにやってしまう自分がいる）。

◆ もう少し長く仕事をしたくても、自分（母親）が迎えに行くことが家庭内で日常的になっていたり、延長を使うと保育園で「こういうコロナの時期だから早く迎えに来てほしい。他の人もそうしてるんだから」と言われたりして、つらい。子どもを寝かせる時間が遅くなっていることがつらい。遅く寝かせることが習慣になってしまい、自分自身もどう立て直せば良いのかわからない。自分のせいだと思ってしまうので、つらい。

●医療の窓口負担が無料なのはとてもありがたいです。児童手当や幼児教育無償化などもありがたく、感謝しています。子どもが小さいうちは特に子どもの体調不良などで思うように働けず大変な時もありましたが、子ども自身が強くなり元気に過ごしてくれることが増え、また、上記のような制度のおかげで何とかやってこれました。仕事に出られる時間が増え、金銭面の負担が減ることで気持ちにも余裕ができたように思います。

●子ども医療費助成制度は素晴らしい制度だと思いますが、市町村によって資格対象期間の差があることが残念です。ぜひ、沖縄県全体で子どもが平等に医療を受けられるように改正してほしいです。

●未就学児は、医療費が無料だったので虫歯や発熱で病院を受診できたが、小学生になったらお金がかかるため受診できなくなってしまった。歯の生え変わる大事な時期に虫歯を治してあげられないのがつらいので、早く中学校卒業まで医療費が無料になってほしいです。

◆ひとり親家庭であり、色々優遇していただき、ありがたいです。病院受診時、自動償還ができない病院があり、そのときに困ってしまいます（市役所に行く機会を持つのが難しいことがある）。全病院が対象になってくれるとありがたいです。この手続きなども本庁ではなく支所でもできるようになると負担が軽くなるので、そうなるとうれしいです。

その他の支援

● = 1歳児、◆ = 5歳児

- 充実した余裕のある生活を送りたい。幸せになりたい。嫉妬という感情を少しでもなくしたい。

とにかくお金がないです。急な休みや早退に寛容な職場ではあるものの、未だに最低賃金なので9～18時週5日フルタイムで働いてもまったく余裕のある生活はできず。毎月の支払いや食費であつという間に給料はなくなります。

こんなこと言ったらいけないかもしれないけど、正直コロナが流行って給付金がもらえたのはとてもありがたかった。本当ならふだんからあれくらい余裕のある暮らしがしたい。気持ちが全然違ってくる。児童手当も子どものために貯めるべきなんだと思う。でも、それができない現状。子育て世帯にもっと寄り添ってほしいです。

- ◆ アパートの家賃が高いと思う。団地を増やすか、民間アパートの2LDK以上の建築の補助をしてほしい。

- ◆ ひとり親家庭でも住みやすい家賃だと助かります。ひとり親家庭向けの住宅支援などあればいいなと思います。

- 現在窓口でのみ行える申請（例えば、子ども医療費の領収書申請、保育園の申し込みなど）をインターネットで行えるようにしてほしいです。コロナ禍で窓口に行くことが心配です。

- ◆ 相談をすること、相談先を探すだけでも大変である。やっとながったと思っても連絡が途絶えてしまったり、あまり信用ならない。本当に困っている人は自分で行動する気力さえないことを知ったほうが良い。